

先生方とともに
高校生の今と未来をつなぐ

〈ビュー21〉
高校版
2019
Volume 6

2月

VIEW21

真・読解力とは？

特集

平成30年度試行調査の問題に見る
「大学入学共通テスト」で
求められる力と
その育成のあり方

改革事例から導く！
「学校教育デザイン」を描く道標
栃木県立足利工業高校

主体的・対話的で深い学びへ
実践 アクティブ・ラーニング

英語 千葉県立柏陵高校 玉谷純基

化学 長崎県・私立長崎南山中学校・高校 徳田憲一郎

指導変革の軌跡

秋田県・私立秋田修英高校

可能性を拓く

生徒 物理の授業では2年間、お世話になりました！初めは物理が苦手でしたが、先生に週2～3回質問に行っていたら、いつの間にか得意になっていました。

先生 教科書に載っている以外の解法を自分で考えようとする姿勢になってから、質問のレベルが上がったよね。粘り強く取り組んだ成果だよ。

生徒 先生はどんなに基本的な質問でも丁寧に教えてくれるので、質問に行きやすいし、1回1回うなずきながら聴いてくれるから、安心して話せるんです。

生徒 そうそう。先生に説明しているうちに頭の中で問題が整理されていって、「あっ、分かった！」と、自分で答えにたどり着くこともありました。

先生 気になることは人それぞれだから、どんな話でも最後まで聴こうと心がけているよ。苦手科目でも、質問に来れば来るほど、その科目に触れる機会が増えるわけだから、それを続けていけば必ず伸びると思うんだ。

生徒 私は、インターアクト部(*)の活動報告を地域で行う時に、その前の練習で先生から姿勢や声の大きさ、話す速さなどをアドバイスしてもらったおかげで、自信を持って発表できました。

先生 50人以上を前に堂々と発表した姿は見事だったよ！その後、台湾の高校との交流や高齢者施設の訪問など、より積極的に活動するようになったよね。

生徒 学校外の人と大勢出会う、ほかではできないような経験ができました。この部に入ってよかったです。

生徒 僕は、探究活動で先生から実験結果の記録の仕方や測定範囲の決め方など、研究のための実験方法を基礎から教えてもらい、研究の面白さに目覚めました！

先生 研究のレポートが廊下に貼り出されたよね。

生徒 クラスで評価されたのは、大きな自信になりました。先生が紹介してくださった、研究テーマに詳しい先生と話したら、ますます興味が湧いて、大学でも研究したいと思っています。

生徒 クラスマッチや文化祭では、先生のアイデアを取り入れたら1年生でも上位の成績を残せて、やればできるんだと思えたし、クラスがまとまっていきました。

先生 みんながたくさんの経験を積めるよう、道を開くのが教師だと思うんだ。経験して自信がつけば、新しいことにも自分から飛び込んでいけるでしょ？その連鎖をつくり出せる教師でありたいと思っているよ。

鳴島 崇先生 教職歴14年。同校に赴任して14年目。学習指導部(探究活動、カリキュラム・マネジメント担当)。

茨城県・私立水城高校 全日制/普通科/共学/1学年約600人/2018年度入試合格実績(現浪計) 国公立大は、茨城大、筑波大、東京大、京大などに202人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、早稲田大などに延べ773人が合格。

2 特集

平成30年度試行調査の問題に見る 「大学入学共通テスト」で 求められる力とその育成のあり方

4 「大学入学共通テスト 平成30年度試行調査」 教科・科目別出題分析

4 国語 8 地理歴史 11 公民 12 数学 16 理科 20 英語

22 出題分析と現場の声から見てきた「求められる力」

23 座談会

試行調査の問題を解く上で必要とされた「読解力」とは何だったのか？

大阪教育大学附属高校天王寺校舎 河田良子 / 神戸大学附属中等教育学校 高木 優 /
東京都立西高校 寺島 求 / 高知県立高知西高校 高野和幸

27 事例●大阪府・私立明星中学校・高校 エッセー作成を通して、多様な情報を整理し、 自分の言葉でアウトプットする力を養う

今月の表紙メッセージ

真・読解力とは？

◎ PISA2015の結果において、日本の子どもたちが国際的には引き続き平均得点が高い上位グループに位置しているものの、前回調査と比較して平均得点が有意に低下している力であると指摘されて以来、注目されているのが「読解力」です。実際、読解力の低下を課題に挙げられる先生は、少なくありません。そして、先生方のご指摘する読解力は、単に文章を読み、その内容を理解するといった力にとどまらないようです。今、課題視されている読解力とは、どのような資質・能力なのか。特集では、昨年実施された「大学入学共通テスト」の2回目の試行調査の問題分析を通して、その本質に迫っていきます。

『VIEW21』高校版
編集長 柏木崇

32 改革事例から導く！「学校教育デザイン」を描く道標

32 栃木県立足利工業高校

「足工ステップアップシート」で授業ごとの到達目標を言語化し、達成状況の確認や評価に活用

34 主体的・対話的で深い学びへ 実践 アクティブ・ラーニング

34 英語

千葉県立柏陵高校 玉谷純基

ペアワークを中心に音読や問題に取り組みせ、主体的に学びに向かう態度を養う

38 化学

長崎県・私立長崎南山中学校・高校 徳田憲一郎

毎授業行う目標設定と振り返りを通じて、自分の学び方を確立させる

42 指導変革の軌跡

42 秋田県・私立秋田修英高校

学力向上・多様な希望進路の実現

全教師が連携して生徒一人ひとりと向き合い、意欲的な学習集団を形成

46 改良！ 指導ツール ビフォーアフター

1、2年生 三者面談シート

50 大学生による高校生のための 大学の学び 最新ナビ

50 早稲田大学 文化構想学部

LGBTなど性の多様性を学ぶ先端的な科目を設置し、時代を創る人材を育成

52 豊田工業大学 工学部

分野横断型のハイブリット工学を学び、次世代の国際産業リーダーを目指す

54 これからの会議・研修のあり方、つくり方

生徒とともに未来を考える教職員研修

——滋賀県立水口東中学校・高校による教職員研修レポート——

58 特別企画 都教委の挑戦

第3回 探究学習の推進

東京都教育委員会、東京都立南多摩中等教育学校

62 VIEW'S REPORT

62 専門職大学シンポジウム「次代のプロフェッショナルを育む大学へ—55年ぶりの新制度『専門職大学』とは—」開催

様々な分野を深く、実践的に学び、未来を創造するアイデアを育む

66 2020年4月実施に向け、新たな奨学金の制度化が大詰め 「高等教育無償化」で広がる学びの可能性

68 Reader's VIEW

巻末 教師を育てた言葉たち

「教師は神様ではない!!」

兵庫県立加古川南高校 上田慎志

VIEW21編集部が

カリキュラム・マネジメントのワークショップを開催!

詳しくは、31ページをご覧ください

平成30年度試行調査の問題に見る 「大学入学共通テスト」で 求められる力と その育成のあり方

まもなく迎える 2019 年度は、「大学入学共通テスト」実施の前年度となる。あと2年間で、生徒にどんな資質・能力を、どのような指導を通して身につけさせればよいのか、多くの教師が模索しているようだ。その指導を考える上での指針ともなるのが、大学入試センターが実施する「大学入学共通テスト」の導入に向けた試行調査（プレテスト）だ。そこで、今号では、2018年11月10日、11日に実施された2回目の試行調査で出された問題の分析を通じて、「大学入学共通テスト」で求められる力と、その育成に必要な指導のあり方について考えていく。

「大学入学共通テスト」の導入に向けた平成30年度試行調査（プレテスト）実施概要

区分	A日程		B日程	
会場	各大学が設定（監督者は各大学の教職員）			
日程	平成30年11月10日（土）午後		平成30年11月10日（土）、11日（日）の2日間 午前・午後	
対象者	高等学校2年生以上 （中等教育学校後期課程の相当する学年を含む）		原則、高等学校3年生（中等教育学校後期課程の相当する学年を含む） ※各校の実情により、履修が終了している場合は、高等学校2年生の受検も可能。	
受検者数	68,409人			
形態	全員が国語、数学①を受検		パターン 1 2	受検パターンにより実施教科・科目が異なる
実施教科・科目	国語	「国語」（100分）	○ ○	国語 「国語」（100分）
	数学①	「数学Ⅰ・数学A」（70分）	○ ○	数学① 「数学Ⅰ・数学A」（70分）
			○	数学② 「数学Ⅱ・数学B」（60分）
			○	地理歴史・公民 「世界史B」「日本史B」「地理B」「現代社会」「倫理」「政治・経済」から2科目（130分）《2科目必答》
			○ ○	外国語 「英語（筆記（リーディング）」）（80分） 「英語（リスニング）」（40分）
			○	理科① 「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」から2科目（60分）《2科目必答》
		○	理科② 「物理」「化学」「生物」「地学」から2科目（130分）《2科目必答》	

*独立行政法人大学入試センター「平成30年度試行調査（プレテスト）実施概要」を基に編集部で作成。

本号のテーマ

平成30年度試行調査の問題の分析を通じて考える、
「大学入学共通テスト」で求められる力と、その育成に必要な指導のあり方

1 平成30年度試行調査の出題の特徴

「大学入学共通テスト 平成30年度試行調査」教科・科目別出題分析【P.4～22】

特徴
1

「社会とのかかわり」や「探究活動」を意識した問題設定

- ◎すべての教科・科目で、「日常生活」や「社会の事象」を意識した素材を出題
- ◎グループワークの場面が扱われるなど、「探究」を意識した出題

特徴
2

複数の資料を読み取り、情報を統合・考察する力の重視

- ◎「文章」だけでなく、「グラフ」「図表」など、複数の資料が扱われる
- ◎文章や資料なども含め、現行のセンター試験より全体的に分量が増加し、思考力・読解力がより問われる

特徴
3

記述式問題+新形式のマーク式問題により、解答形式が多様化

- ◎根拠を示しながら論理的に記述する力が問われる（国語、数学I・A）
- ◎「正解が複数ある」「解なし」など、従来とは異なるマーク式設問



現場の教師の多くが挙げた、今回の試行調査の問題を解く上で
求められたと感じた力＝「読解力」

2 求められる「読解力」と、その育成に必要な指導のあり方

座談会
【P.23～26】

生徒の自由な思考、多様な意見を
教師が価値づけしていく授業を



思考を活性化させる問いづくりには、
教師同士の研鑽が必要



「読解力の育成」を教科共通の課題と
することで、カリマネ、を推進する



生徒は授業中の試行錯誤によって
本質に迫る読解力を獲得する

事例
【P.27～30】

エッセー作成を通して、多様な情報を整理し、
自分の言葉でアウトプットする力を養う
大阪府・私立明星中学校・高校

「大学入学共通テスト 平成30年度試行調査」 教科・科目別出題分析

2017年に続き、18年11月、「大学入学共通テスト」の試行調査が行われ、全6教科18科目の問題が公表された。ここでは、そのうち主要な教科・科目について、代表的な問題とその特徴を分析。前回の試行調査を経て、いずれの教科・科目も問題の情報量や難易度が調整された出題となった。

国語

第1問（記述式問題） 問3

第1問 次の【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】は、まことさんが「ヒトと言語」についての探究レポートを書くときに参考にしたものである。これらを読んで、後の問い（問1～3）に答えよ。なお、解答の際に「指差し」「指さし」など、【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】で表記の異なる語については、どちらの表記でもよいものとする。

【文章Ⅰ】 鈴木光太郎『ヒトの心はどう進化したのか——狩猟採集生活が生んだもの』による。

【文章Ⅱ】 正高信男『子どもはことばをからだで覚える メロディから意味の世界へ』による。

（※編集部注：【文章Ⅰ】【文章Ⅱ】の本文は略）

問3 「ヒトの指差し」と指示語についても考えたまことさんは、次の【資料】を見つけ、傍線部「指さされたものが、話し手が示したいものと同視できないケース」があることを知った。まことさんは、「話し手が地図上の地点を指さす」行為もこのケースに当てはまることに気付き、【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】に記された「指差し」の特徴から、

問題の構成と出題内容

多様なジャンルの文章への
対応力が求められる問題構成

今回の試行調査の国語は、5大問で構成された。

段階評価となる第1問の記述式問題は、2つの論理的な文章を参考に探究レポートを書くという設定で、3問出題された。問3では約300字の文章資料が追加され、80字から120字の字数設定での記述が課された。

第2問以降はマーク式問題で、現代文2題（3つの表を含んだ論理的な文章、著作権法の条文、それらを

なぜ「同一視できないケース」でも「話し手が示したいもの」を理解できるのかについての考えをまとめることにした。まことさんは、どのようにまとめたと考えられるか。後の(1)～(4)を満たすように書け。

【資料】

「話し手が何を指しているか」を明確に示すには、「あれ」「これ」「それ」のような指示詞や、「あの」「この」「その」を伴う一般名詞を使って、いわゆる「指さし」のジェスチャーを伴わせるのが有効です。しかし現実には、そうやって指さされたものが、話し手が示したいものと同一視できないケースがいくつもあります。一つには、指さしによって示されたものが、それ自体、文字や写真など「何かを表すもの」である場合です。たとえば、レストランのメニューに載っている料理の名前、あるいは料理の写真の写真を指さして「これにしよう」と言った場合、「これ」で指示されているのは指さしの直接の対象である文字や写真そのものではなく、文字や写真が表している料理です。

(川添愛「自動人形の城 人工知能の意図理解をめぐる物語」による)

(注) 1 指示詞——「指示語」のこと。

- (1) 二つの文に分けて、全体を八十字以上、百二十字以内で書くこと(句読点を含む)。
- (2) 一文目は、「話し手が地図上の地点を指さす」行為が「指さされたものが、話し手が示したいものと同一視できないケース」であることを、【資料】に示されたメニューの例に当てはめて書くこと。
- (3) 二文目は、聞き手が「話し手が示したいもの」を理解できる理由について書くこと。ただし、話し手と聞き手が地図の読み方について共通の理解をもっているという前提は書かなくてよい。
- (4) 二文目は、「それが理解できるのは」で書き始め、「からである。」という文末で結ぶこと。

正答の条件を全て満たしている解答の例

- 例1 • 話し手が地図上の地点を指さすことで、指示されているのは地図そのものではなく、地図が表している場所であることが聞き手には理解できる。それが理解できるのは、他者の視点に立つ能力があるからである。(95字)
- 例2 • 地図上の地点を指差して「ここに行きたい」と言った場合、「ここ」が示しているのは地図の実際の場所である。それが理解できるのは、指さした人間の位置に身を置くことで、指さされた人間が指さした人間と同一のイメージをもつことが可能になるからである。(119字)
- 例3 • 地図上の地点を指差して「ここに駅がある」と言った場合、「ここ」が示しているのは地図に対応している実際の駅である。それが理解できるのは、指さされた人間が指さした人間の視点に立つことで、実際に示したいものを想像するからである。(111字)

正答の条件

正答の条件は次の5つとする。

- ① 80字以上、120字以内で書かれていること。
- ② 二つの文に分けて書かれていて、二文目が、「それが理解できるのは」で書き始められ、「からである。」で結ばれていること。
 ただし、二文目が「理解ができるからである。」で結ばれているものは正答の条件②を満たしていないこととなる。
- ③ 一文目に、話し手が地図上の地点を示しているということが書かれていること。
- ④ 一文目に、話し手が指示しようとする対象が実際の場所だということが書かれていること。
- ⑤ 二文目に、次のいずれかが書かれていること。
 なお、両方書かれていてもよい。
 ・指差した人間の視点に立つということ。
 ・指差した人間と同一のイメージを共有できるということ。

参考に作成したポスターを用いた出題と、文学的な文章は小説ではなく、詩とエッセイからの出題)、古典2題(古文、漢文)の構成であった。また、古典の大問4、5では会話文を用いた出題もあった。

注目した問題とその分析

情報を比較・検討し、統合する力が求められる

第1問の記述式問題は、「指さし」と「言語」とのかかわりについて書かれた複数の論理的な文章を読んで、それぞれ30字以内、40字以内、80字以上120字以内で答えるものだった。特に問3では、ある現実的な事象を【資料】に示されたテキストの内容にあてはめ、経験や既得知識に基づいて情報を整理して論理的に記述することが求められた。

第2問(論理的な文章)の問6は、ポスターを作成するという場面設定の中で、本文の要旨を踏まえて空欄にあてはまる内容を考える問題。本文にはない具体的な事象について、示された資料(著作権法)と引き比べて考えることが必要で、情報を統合して考える力が求められた。

第4問(古文)の問5は、授業の

第2問 (論理的な文章) 問6

第2問 次の【資料Ⅰ】は、【資料Ⅱ】と【文章】を参考に作成しているポスターである。【資料Ⅱ】は著作権法(二〇一六年改正)の条文の一部であり、【文章】は名和小平(なわひら)の『著作権2.0 ウェブ時代の文化発展をめざして』(二〇一〇年)の一部である。これらを読んで、後の問い(問1~6)に答えよ。なお、設問の都合で【文章】の本文の段落に①~⑧の番号を付し、表記を一部改めている。(配点 50)

【資料Ⅰ】

著作権のイロハ

著作権とは(著作権法第二条の一より)

- ☐「思想または感情」を表現したもの
- ☐思想または感情を「創作的」に表現したもの
- ☐思想または感情を「表現したもの」
- ☐「文芸、学術、美術、音楽の範囲」に属するもの

著作物の例									
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>言語</th> <th>音楽</th> </tr> <tr> <td>・小説 ・脚本 ・講演 等</td> <td>・楽曲 ・楽曲を伴う歌詞 等</td> </tr> </table>	言語	音楽	・小説 ・脚本 ・講演 等	・楽曲 ・楽曲を伴う歌詞 等	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>美術</th> <th>地図・図形</th> </tr> <tr> <td>・絵画 ・彫刻 等</td> <td>・学術的な図面 ・図表 ・立体図 等</td> </tr> </table>	美術	地図・図形	・絵画 ・彫刻 等	・学術的な図面 ・図表 ・立体図 等
言語	音楽								
・小説 ・脚本 ・講演 等	・楽曲 ・楽曲を伴う歌詞 等								
美術	地図・図形								
・絵画 ・彫刻 等	・学術的な図面 ・図表 ・立体図 等								
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>舞踏・無言劇</th> </tr> <tr> <td>・ダンス ・日本舞踊 ・振り付け 等</td> </tr> </table>		舞踏・無言劇	・ダンス ・日本舞踊 ・振り付け 等						
舞踏・無言劇									
・ダンス ・日本舞踊 ・振り付け 等									

著作権の例外規定(権利者の了解を得ずに著作物を利用できる)

(例)市民楽団が市民ホールで行う演奏会

【例外となるための条件】

a

【資料Ⅱ】

「著作権法」(抄)

(目的)

第一条 この法律は、著作物並びに実演、レコード、放送及び有線放送に関し著作者の権利及びこれに隣接する権利を定め、これらの文化的所産の公正な利用に留意しつつ、著作作者等の権利の保護を図り、もって文化の発展に寄与することを目的とする。

(定義)

第二条 この法律において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

一 著作物 思想又は感情を創作的に表現したものであつて、文芸、学術、美術又は音楽の範囲に属するものをいう。

二 著作作者 著作物を創作する者をいう。

三 実演 著作物を、演劇的に演じ、舞い、演奏し、歌い、口演し、朗読し、又はその他の方法により演ずること(これらに類する行為で、著作物を演じないが芸術的な性質を有するものを含む。)をいう。

(技術の開発又は実用化のための試験の用に供するための利用)

第三十条の四 公表された著作物は、著作物の録音、録画その他の利用に係る技術の開発又は実用化のための試験の用に供する場合には、その必要と認められる限度において、利用することができる。(営利を目的としない上演等)

第三十八条 公表された著作物は、営利を目的とせず、かつ、聴衆又は観衆から料金(いずれの名義をもつてするかを問わず、著作物の提供又は提示につき受ける対価をいう。以下この条において同じ。)を受けない場合には、公に上演し、演奏し、上映し、又は口述することができる。ただし、当該上演、演奏、上映又は口述について実演家又は口述を行う者に対し報酬が支払われる場合は、この限りでない。

(時事的事件の報道のための利用)

第四十一条 写真、映画、放送その他の方法によつて時事的事件を報道する場合には、当該事件を構成し、又は当該事件の過程において見られ、若しくは聞かれる著作物は、報道の目的上正当な範囲内において、複製し、及び当該事件の報道に伴つて利用することができる。

問6 【資料Ⅰ】の空欄 a に当てはまるものを、次の①~⑥のうちから三つ選べ。ただし、解答の順序は問わない。解答番号は 10 ~ 12。

- ① 原曲にアレンジを加えたパロディとして演奏すること
- ② 楽団の営利を目的としない演奏会であること
- ③ 誰でも容易に演奏することができる曲を用いること
- ④ 観客から一切の料金を徴収しないこと
- ⑤ 文化の発展を目的とした演奏会であること
- ⑥ 演奏を行う楽団に報酬が支払われないこと

一面面を想定した設問。本文で引き歌として用いられた歌についての資料を参考に、本文の解釈として適当なものを考えるという問題だった。ここでも、複数の文章を比較・関連づけて考える力が求められた。

*

現代文、古典いずれの各大問でも、複数の、多様なテキストを比較・検討するなど、情報を統合して考える力が求められた。複数の文章・資料を比較・検討して答えを導く問題は、「大学入学共通テスト」における典型的な出題パターンの一つになると予想される。同じ事象について異なる観点から書かれた複数の文章を読み比べるなど、多様な見方・考え方に触れ、共通点や差異に着目しながら情報を整理する練習を、生徒には平素から積ませたい。

また、今回の試行調査では、問題解決が必要な場面設定の中で情報を読み取り、考えを説明することが求められた。授業においては、テーマ・課題についてグループ討議するなどの言語活動の場面を通して、「何が問われているのか」を捉える「メタ的な視点」を生徒に身につけさせたい。その際、議論の内容を既知知識

第4問 (古文) 問5

第4問 次の文章は『源氏物語』「手習」巻の一節である。浮舟という女君は、薫という男君の思い人だったが、匂宮という男君から強引に言い寄られて深い関係になった。浮舟は苦悩の末に入水しようとしたが果たせず、僧侶たちによって助けられ、比叡山のふもとの小野の地で暮らしている。本文は、浮舟が出家を考えつつ、過去を回想している場面から始まる。これを読んで、後の問い(問1～5)に答えよ。(配点 50)

(※編集部注…文章の本文は略)

問5 次に掲げるのは、二重傍線部「かかれとてしも」に関して、生徒と教師が交わした授業中の会話である。会話中にあらわれる遍昭の和歌や、それを踏まえる二重傍線部「かかれとてしも」の解釈として、会話の後に六人の生徒から出された発言①～⑥のうち、適当なものを二つ選べ。ただし、解答の順序は問わない。解答番号は **7**・**8**。

生徒 先生、この「かかれとてしも」という部分なんですけど、現代語に訳しただけでは意味が分からないんです。どう考えたらいいですか。
教師 それは、

たらちねはかかれとてしもばたまの我が黒髪をなでずやありけむ
という遍昭の歌に基づき表現だから、この歌を知らないとは分りにくかったらうね。古文には「引き歌」といって、有名な和歌の一部を引用して、人物の心情を豊かに表現する技法があるんだよ。

生徒 そんな技法があるなんて知りませんでした。和歌についての知識が必要なんです。

教師 遍昭の歌が詠まれた経緯については、『遍昭集』という歌集が詳しいよ。歌の右側には、
なにくれといひありきしほに、仕まつりし深草の帝隠れおはしまして、かはらむ世を見むも、堪へがたくかな。蔵人の頭の中將
などいひて、夜昼馴れ仕まつりて、「名残りならむ世に交じらほじ」とて、にはかに、家の人にも知らせ、比叡によりて、頭下
ろし侍りて、思ひ侍りしも、さすがに、親などのことは、心にやかかり侍りけむ。
と、歌が詠まれた状況が書かれているよ。

生徒 そこまで分かると、浮舟とのつながりも見えてくる気がします。

教師 それでは、板書しておくから、歌が詠まれた状況も踏まえて、遍昭の和歌と『源氏物語』の浮舟、それぞれについてみんな意見を出し合ってください。

- ① 生徒A —— 遍昭は、お仕えしていた帝の死をきっかけに出家したんだね。そのときに「たらちね」、つまりお母さんのことを思って「母はこのように私が出家することを願って私の髪をなでたに違いない」と詠んだんだから、遍昭の親は以前から息子に出家してほしいと思っていたんだね。
- ② 生徒B —— そうかなあ。この和歌は「母は私がこのように出家することを願って私の髪をなでたはずがない」という意味だと思わない。出家をして帝への忠義は果たしたけれど、育ててくれた親に申し訳ないという気持ちもあって、だから『遍昭集』で「さすがに」と言っているんだよ。
- ③ 生徒C —— 私はAさんの意見がいいと思う。浮舟も出家することで、遍昭と同じくお母さんの意向に沿った生き方をしようとしているんだよ。つまり、今まで親の期待に背いてきた浮舟が、これからの人生をやり直そうとしている決意を、心の中でお母さんに誓っていることになるね。
- ④ 生徒D —— 私も和歌の解釈はAさんの方がいいと思うけど、『源氏物語』に関してはCさんとは意見が違う。薫か匂宮と結ばれて幸せになりたいというのが、浮舟の本心だったはずだよ。自分も遍昭のように晴れ晴れした気分で出家できたらどんなにいいかという望みが、浮舟の独り言から読み取れるよ。
- ⑤ 生徒E —— いや、和歌の解釈はBさんのほうが正しいと思うよ。浮舟も元々は気がすまなかった、親もそれを望んでいない、それでも過去を清算するためには出家以外に道はないとわきまをきった浮舟の潔さが、遍昭の歌を口ずさんでいるところに表れているんだよ。
- ⑥ 生徒F —— 私もBさんの解釈のほうがいいと思う。でも、遍昭が出家を遂げた後に詠んだ歌を、浮舟は出家の前に思い起こしているという違いは大きいよ。出家に踏み切るだけの心の整理を、浮舟はまだできていないということが、引き歌によって表現されているんだよ。

や経験に結びつけて考えるなど、抽象的な内容を現実的な事象にあてはめて(≠演繹的に推論して)考えをまとめる練習や、筆者が読み手(≠受け手)に対して用いている表現方法などにも着目させたい。

今回の試行調査においても前回同様、大学入試センターから、正答例、正答の条件が公表された。さらに、今回初めて評価の段階表と正答の条件の組み合わせによる段階評価のイメージが示された。

生徒にとつて、自分の解答が正答の条件を満たしているかどうかについて「振り返り」活動を行うことは、自己採点の正確性の訓練だけでなく、深い理解につながる活動として今後重要になるだろう。

第5問 A 問3

第5問 世界史に関わる経済・統計の資料に基づく授業を想定した、次の会話文A・Bを読み、下の問い(問1～6)に答えよ。(配点 18)

A イギリスの綿工業に関する授業

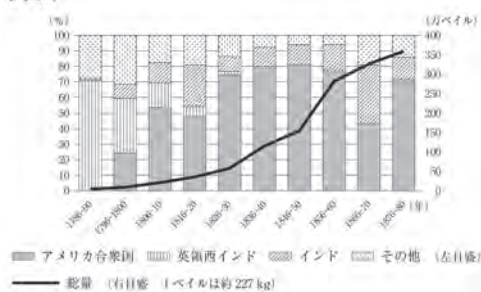
先生：今日は、産業革命をリードしたイギリスの綿工業について学びます。表1は、ワイシャツ生地の原料となる細い綿糸の価格の推移を表しています。原料綿花コストと生産コストの合計が綿糸価格です。

表1

年	1779	1784	1799	1812	1830	1860	1882
原料綿花コスト(x)	24	24	40	18	7.75	6.875	7.125
生産コスト(y)	168	107	50	12	6.75	4.625	3.375
綿糸価格(x+y)	192	131	90	30	14.5	11.5	10.5

※単位：綿糸1ポンド(約454g)当たりリペンス

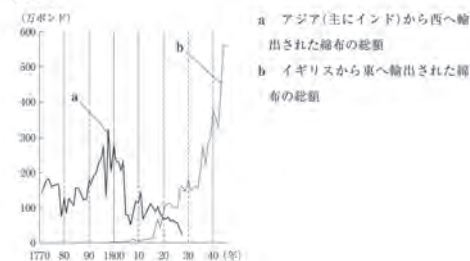
グラフ1



(※編集部注：先生と生徒の会話の一部を省略)

先生：最後に、東西間の綿布の流れを示すグラフ2と、これまでの表1やグラフ1を参考にして、イギリスの産業革命によって、当時の経済状況がどのように変化したのか、パネルにまとめてください。

グラフ2



問3 先生の指示によって生徒たちが作った次のパネルのうち適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 31

- ① 1820年頃に境に、イギリス産綿布の東への輸出総額が、インド産綿布の西への輸出総額を上回りました。
- ② 産業革命期において、イギリスの綿糸価格が下落した最も大きな要因は、原料綿花コストが下がったことです。
- ③ 19世紀半ばのイギリスは、アメリカ合衆国産の綿花を主な原料として綿布を生産し、インドなど東へ大量に輸出しました。
- ④ イギリスで産業革命が進展した時期には、イギリスからの綿布輸出と、イギリスへの原料綿花の輸入は共に増加傾向にあります。

問題の構成と出題内容

会話文、文章資料、グラフ、地図と、資料がより多彩に

大問の数は5大問だった。全体を通して、センター試験と同様に幅広い時代・地域・分野から出題されていた。

出題形式では、前回の試行調査と同様、連動式や複数選択の形式が見られ、複数の資料の読み取りを必要とする、新しい傾向の問題が引き続き見られた。例えば、第2問Bでは、文語体で書かれた初見の文章資料を読み、帝国主義時代のフィリピンをめぐる国際関係についての理解や、著者の活動内容を一般化して考察することが必要だった。前回の試行調査よりも文章資料の分量は少なかったが、文章の大意把握と歴史的背景を踏まえてあてはまる活動を結びつけなければ答えられない問題だった。また、知識のみを問う正誤問題に代わって、歴史的事象の原因・背景・影響などを問う問題や、同時代の世界、時代の特徴を捉える問題が散見された。地図と年代整理を組み合わせたリ、文章資料を讀解して国と国の関係を考察したりするといった力

が必要だろう。

前回の試行調査と同様、時代を大観し、歴史的事象の背景・要因やその根拠についてより深い考察が求められるといえる。提示される資料も、会話文や文章資料によるリード文、グラフ、絵画、地図など多彩だ。授業では、個々の歴史的事象の背景や因果関係などを、根拠となる資料に基づいて生徒自身が既習事項と結びつけながら考察するよう促したい。

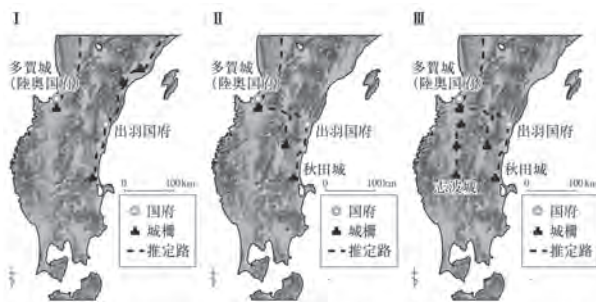
注目した問題とその分析

複数の統計資料を基に多面的・多角的に考察する

第5問は、授業場面を想定した教師と生徒との会話文を通して、複数の統計資料を読み解く問題だった。中でも、イギリスの産業革命の影響による経済状況の変化を考察したパネル内容が妥当であるかを判断する問3では、問1・問2で提示された図を踏まえて表1の内容を読み取って解答する。イギリスの綿糸価格下落の要因を、原料となる綿花のコストだけでなく、生産コストからも考察する必要があり、問題を解き進めていく中で、多面的・多角的に考察する力が求められた。

第2問 問3

問3 東北地方の官道や国府・城柵は、「中央政府にとり蝦夷支配の重要拠点であった」が、方位を逆転した次の地図Ⅰ～Ⅲを参考にすれば、「蝦夷にとり中央政府の脅威を象徴するものであった」と見ることもできる。その根拠として、**地図から読み取れる情報**の中から正しいものをX～Zから選び、選んだ**情報と歴史的事実**a～cの組合せとして正しいものを、下の①～⑨のうちから二つ選べ。 10・11



(群馬県立歴史博物館「古代のみち」, 地理院地図などにより作成)
 (注) 地図中、陰影の薄い部分は平野部を表す。

地図から読み取れる情報

- X 中央政府はこの地域には国を設置しなかった。
- Y 中央政府はこの地域の平野部から支配域を拡大していった。
- Z 中央政府はこの地域の太平洋沿岸部に城柵を多く設置した。

歴史的事実 (a～cはすべて正しい)

- a 蝦夷は、しばしば多賀城や秋田城を襲撃の対象とした。
- b 中央政府は、城柵の近くに関東の農民を移住させて開墾を行った。
- c 蝦夷は、独自の言語や墓制などを保持した。

- ① X—a ② X—b ③ X—c
- ④ Y—a ⑤ Y—b ⑥ Y—c
- ⑦ Z—a ⑧ Z—b ⑨ Z—c

問題の構成と出題内容
**考察・選択・判断する力が
 大問で求められる**

大問の数は、前回の試行調査と同様、6大問だった。幅広い時代・分野からの出題であり、すべての大問で考察・選択・判断する力が求められていた。一部の問題では、考察した過程や結果を、理由や根拠に基づいて説明する力も必要だった。

出題内容を見ると、これまでのように「史資料から何が読み取れるか」が重視された問題が多かった。提示された史資料も、古文書史料、主題に沿った年表、碑文の写真、南北を逆にした地図、複数のグラフなど、多彩であり、処理すべき情報量は前回並だった。

そして、複数の史資料を、提示された史実や既習事項と関連づけ、根拠となるデータを選び、仮説を立て、その検証のためのデータを選ぶなど、踏み込んだ思考力・判断力が求められている。例えば、第5問の間2は、提示されたグラフでは関税収入額が1894年以降上昇していることから、関税自主権の一部回復が想起できたかがポイントと

なった。複数の史資料から浮かび上がって見えるものは何かという視点で、史資料の読解を授業で行うことが一層重要になる。

また、正解が1つではない問題も出された。第6問の間7は、近代の転換点としてポツダム宣言の受諾、1945年の衆議院議員選挙法改正のどちらを支持するか問われ、理由との組み合わせが正しければ、どちらを選んでも正解となった。

注目した問題とその分析

**読み取れる情報と史実を
 組み合わせさせて考える**

第2問の間3は、古代国家による東北地方への支配の推移についての理解を問う問題で、中央政府が整備した官道や城柵が周辺地域に与えた影響を捉え、その評価の根拠となる歴史的事象を示すという内容だった。提示された地図から平野部を中心に進出していたことを読み取る技能に加え、史実と適合するかどうかを点検する力が求められた。

また、地図が南北が逆向きに提示されたように、中央政府の東北経営を「蝦夷の立場」から捉えていたことも、新しい視点として注意したい。

正解 10-11……4-5 (両方正解の場合のみ得点、順序は問わない)

第3問 問6

問6 ミズホさんたちが文化祭で展示資料Ⅲについて説明していると、他の生徒から質問があった。次の会話文中の空欄カとキに当てはまる文の正しい組合せを、下の①～④のうちから一つ選べ。 [18]

他の生徒 「世界の食文化は多様というけれど、最近は欧米諸国の文化が世界中に広がって、食文化はどんどん画一化されていってるんじゃないかな」

ミズホ 「確かに画一化している面もあるね。日本でも [カ] しているね」

他の生徒 「日本での食文化の画一化について、何か説明できるデータはないかな」

アズサ 「例えば [キ] を比較してみたらどうだろう」

ツバサ 「長い期間の推移をグラフにしてみる必要があるよね」

T フランス料理店やスペイン料理店など各国の料理を提供する店が立地

U アメリカ合衆国の巨大企業が全国各地でハンバーガーショップを展開

X 日本と欧米諸国の1人当たりカロリー摂取量とその内訳

Y 日本と欧米諸国の農産物輸出額とその内訳

- ① カーT キーX ② カーT キーY
③ カーU キーX ④ カーU キーY

問題の構成と出題内容
センター試験より問題数は少ないが、1問のボリューム感が増加

今回の試行調査では、地誌の出題が比較地誌を含めて1大問であり、大問の数は5大問だった。センター試験よりも地誌で1大問減ったが、問題文の長さや資料の点数は同程度だ。むしろ、会話文など比較的長い文章を読んで判断する問題もあったため、1大問にかかる時間が増加したと考えられる。

出題内容はセンター試験と同じで、全分野から出題された。変化や差異を考察させる問題、地理的事象をモデル化して考察する問題や、仮説を立てる際に根拠となった資料を判断する問題など、出題や解答の形式は前回の試行調査と同様に多彩であった。提示された資料は、GISや仮想地域の模式図、地理院地図などだった。ほとんどの問題で資料が用いられ、複数の資料を組み合わせて複合的に判断する問題もあった。問題を解く上で必要となる知識のレベルは、センター試験と大きく変わらない。ただ、仮説の検証方法を考察したり、根拠となる資料を選ば

せたりする問題も見られ、思考力が一層重視されている。例えば、第1問の問4は、「今年の夏季は例年に比べて暑かった」という感覚を、客観的に検証する方法を考えるという新傾向の問題だった。また、複数の資料から判断する問題や、模式図の中から解答を選ぶ問題もあり、総合的な学力が必要だといえる。

注目した問題とその分析

根拠となる指標を論理的に判断する力が求められる

第3問の問6は、会話文から食文化の画一化について考察し、日本の事例をとらえた上で、食文化の画一化の根拠となり得る資料を正しく判断する問題だ。

選択肢であるT・U及びX・Yの内容に誤りはなく、会話文の「画一化」「説明できるデータ」の文脈に沿った文を論理的に選ぶことがポイントだ。例えば「キ」は、食生活が似通ってきていることを示すためにXのデータを用いると判断できる。

仮説や検証に基づく問題は今後も出題される可能性が高く、根拠となり得る指標は何かを論理的に判断する力が求められる。

第6問 問1

問1 次ページの図は、「『食』をめぐる社会問題とその解決」というテーマでグループ討議を行った内容を整理するために生徒Aが書いたものである。図中の「X」には、図の下方にある<探究する具体的な問い>の①について考えるために、44ページ以降の資料ア～ウのうちの二つが、「Y」には、<探究する具体的な問い>の②について考えるために、46ページ以降の資料カ～クのうち二つが入る。その組合せとして最も適当なものを、次の①～⑨のうちから一つ選べ。 **32**

(※編集部注：「次ページの図」「資料ア～ウ」「資料カ～ク」は下に表示)

- | | | |
|---|-----|-----|
| | X | Y |
| ① | アとイ | カとキ |
| ② | アとイ | カとク |
| ③ | アとイ | キとク |
| ④ | アとウ | カとキ |
| ⑤ | アとウ | カとク |
| ⑥ | アとウ | キとク |
| ⑦ | イとウ | カとキ |
| ⑧ | イとウ | カとク |
| ⑨ | イとウ | キとク |



問題の構成と出題内容
概念や理論を別の文脈や例にあてはめる問題が複数出題

大問の数は、前回の試行調査から1大問増え、6大問だった。そのうち第1問と第2問、第6問は、センター試験では見られなかったリード文のない問題だった。

出題内容では、前回の試行調査と同様に、概念や理論を別の文脈や具体例にあてはめて考えさせる問題が目立った。例えば、第1問の問3は、経済的自由と精神的自由の考え方を基に、具体的な制度や政策がどの領域にあてはまるかを考察する問題だった。経済的自由と精神的自由の考え方を踏まえた上で、モデル図を参考に、国や地方公共団体の具体的な政策や制度を概念と結びつけて考える力が求められた。また、第2問は、国際経済の流れの中で国際政治の出来事がどのように影響したかを関連づけて考えることが求められた新しい出題だった。

在外国民の選挙権についての最高裁判所判決文やアダム・スミスの『国富論』、人口の推移グラフなど、文献資料や統計資料が多数扱われた。

文章の趣旨を把握して判断する問題、複数の統計資料から根拠となる資料を選ぶ出題などがあつた。

注目した問題とその分析

探究学習をテーマに、前提図と図表6点を読み解く

第6問は、大問を通して探究学習をテーマとした出題だった。生徒が設定したテーマについて探究する場面設定で、主張に対する根拠となる資料を判断する問題や、質問や意見を複数の観点で整理し分類する問題が出題された。

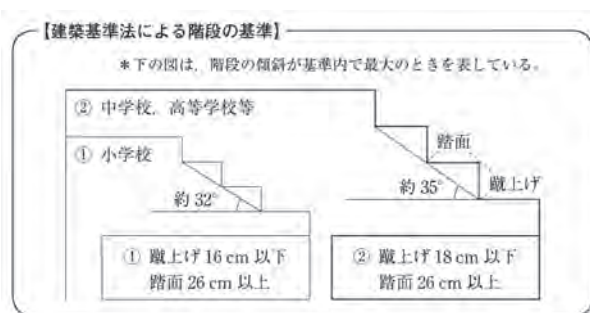
その中で、問1は、探究学習の結果を示すために様々な考えをいくつかの観点から分類・整理し、適切な資料を選ぶ問題だ。前提図の関係図と、図表6点が提示され、それぞれの資料から読み取れる内容を把握し、資料をそれぞれの関係性を考えながら組み合わせ、具体的な問いを考える根拠になり得るかを判断できるかがポイントだった。

授業では、根拠となる着目点を明確にして資料を与えるなど、資料から必要な情報を抽出したり、複数の資料を関連づけて考察したりする演習を積ませたい。

第1問 (3)

(3) 久しぶりに小学校に行くと、階段の一段一段の高さが低く感じられることがある。これは、小学校と高等学校とでは階段の基準が異なるからである。学校の階段の基準は、下のように建築基準法によって定められている。

高等学校の階段では、蹴上げが18cm以下、踏面が26cm以上となっており、この基準では、傾斜は最大で約35°である。



階段の傾斜をちょうど33°とすると、蹴上げを18cm以下にするためには、踏面をどのような範囲に設定すればよいか。踏面を x cmとして、 x のとり得る値の範囲を求めるための不等式を、33°の三角比と x を用いて表せ。解答は、解答欄 (い) に記述せよ。ただし、踏面と蹴上げの長さはそれぞれ一定であるとし、また、踏面は水平であり、蹴上げは踏面に対して垂直であるとする。

(本問題の図は、「建築基準法の階段に係る基準について」(国土交通省)をもとに作成している。)

問題の構成と出題内容

問題ごとにテーマが設定され、**数学的性質を読み取る力が必要**

今回の試行調査は、第1問、第2問が必答問題、第3問、第4問、第5問が選択問題(3問から2問を選択)という大問構成であった。

問題文の分量は、現行のセンター試験より多いものの、前回の試行調査と比べるとやや減少している。記述式問題は、第1問から2問、第2問から1問の計3問の出題であった。解答方法は前回より簡略化し、数式のみや短い文章を端的に記述する問題であった。

問題ごとにテーマが設定されており、コンピュータを利用した学習場面が設定されている問題、日常生活や社会の事象を扱った問題、会話形式で事象について考察し、解決過程を振り返るなどして体系化する問題など、授業を中心とした学習場面を強く意識した出題であった。

また、考察の過程から数学的性質を見抜くことを必要とする選択肢式の出題もあり、多くの文章、設定から数学的性質を読み取る力が必要となった。

正答例 (い) $\dots 26 \leq x < \frac{18}{\tan 33^\circ}$

第2問 (2)

(2) 太郎さんと花子さんは二つの変数 x, y の相関係数について考えている。二人の会話を読み、下の問いに答えよ。

花子：先生からももらった表計算ソフトのA列とB列に値を入れると、E列にはD列に対応する正しい値が表示されるよ。
 太郎：最初は簡単などころで二組の値から考えてみよう。
 花子：2行目を $(x, y) = (1, 2)$ 、3行目を $(x, y) = (2, 1)$ としてみるね。

このときのコンピュータの画面のようすが次の図である。

	A	B	C	D	E
1	変数 x	変数 y		$(x$ の平均値) =	セ
2	1	2		$(x$ の標準偏差) =	ソ
3	2	1		$(y$ の平均値) =	セ
4				$(y$ の標準偏差) =	ソ
5					
6				$(x$ と y の相関係数) =	タ
7					

(※編集部注：(1)～(3)は略)

花子：値の組の個数が2のときは、相関係数の値は1.00か **タ**、または計算できない場合の3通りしかないね。
 太郎：値の組を散布図に表したとき、相関係数の値はあくまで散布図の点が **テ** 程度を表していて、値の組の個数が2の場合に、花子さんが言った3通りに限られるのは **ト** からだね。値の組の個数が多っても値の組が2種類のときはそれらにしかならないんだね。
 花子：なるほどね。相関係数は、そもそも値の組の個数が多いときに使われるものだから、組の個数が極端に少ないときなどにはあまり意味がないのかもしれないね。
 太郎：値の組の個数が少ないときはもちろんのことだけど、基本的に散布図と相関係数を合わせてデータの特徴を考えるとよさそうだね。

(4) **テ**、**ト** に当てはまる最も適当なものを、次の各解答群のうちから一つずつ選べ。

テ の解答群

- ① x 軸に関して対称に分布する
- ② 変数 x, y のそれぞれの中央値を表す点の近くに分布する
- ③ 変数 x, y のそれぞれの平均値を表す点の近くに分布する
- ④ 円周に沿って分布する
- ⑤ 直線に沿って分布する

ト の解答群

- ① 変数 x の中央値と平均値が一致する
- ② 変数 x の四分位数を考慮することができない
- ③ 変数 x, y のそれぞれの平均値を表す点からの距離が等しい
- ④ 平面上の異なる2点は必ずある直線上にある
- ⑤ 平面上の異なる2点を通る円はただ1つに決まらない

注目した問題とその分析

日常的な事象や数学における
 学習活動をテーマとした出題

第1問(3)は、階段の傾斜が33°である時の踏面のとり得る値の範囲を考えるとという問題で、指定された条件を踏まえつつ、扱われている事象の特徴を捉えて数学的に表現する力が求められた。

第2問(2)は、コンピュータの表計算ソフトを利用した学習活動が場面として設定されていた。前回の試行調査では、「日常生活や社会の事象」におけるデータの考察がテーマであったが、今回は「データの分析」の分野の基本的な用語に関する本質的な理解がテーマとなった。(4)では、2人の会話を通じて考察した結果を基に、相関係数の値について、一般化することが求められた。

第2問 (1)

(1) 100g ずつ袋詰めされている食品 A と B がある。1 袋あたりのエネルギーは食品 A が 200kcal、食品 B が 300kcal であり、1 袋あたりの脂質の含有量は食品 A が 4g、食品 B が 2g である。

(1) 太郎さんは、食品 A と B を食べるにあたり、エネルギーは 1500kcal 以下に、脂質は 16g 以下に抑えたいと考えている。食べる量 (g) の合計が最も多くなるのは、食品 A と B をどのような量の組合せで食べるときかを調べよう。ただし、一方のみを食べる場合も含めて考えるものとする。

(i) 食品 A を x 袋分、食品 B を y 袋分だけ食べるとする。このとき、 x, y は次の条件①, ②を満たす必要がある。

摂取するエネルギー量についての条件 ア …… ①
 摂取する脂質の量についての条件 イ …… ②

ア, イ に当てはまる式を、次の各解答群のうちから一つずつ選べ。

ア の解答群

- ① $200x + 300y \leq 1500$ ① $200x + 300y \geq 1500$
 ② $300x + 200y \leq 1500$ ③ $300x + 200y \geq 1500$

イ の解答群

- ① $2x + 4y \leq 16$ ① $2x + 4y \geq 16$
 ② $4x + 2y \leq 16$ ③ $4x + 2y \geq 16$

問題の構成と出題内容
**事象を数式化し、
 数学的な性質を考察させる**

第1問、第2問が必答問題、第3問、第4問、第5問が選択問題(3問から2問を選択)で、今回も数学Ⅱの内容が広く問われた。

全体として複雑な計算処理は見られず、事象を数式化したり、数学的な性質を図やグラフから考察したりする問題が多く扱われた。第2問〔1〕では、「図形と方程式」の領域と最大・最小の考え方を用いて、食品の摂取量の最大値などを考察させ、第3問では大学生の読書時間について統計を用いて考えさせた。また、第1問〔1〕の「三角関数」ではグラフの選択を、第2問〔2〕の「図形と方程式」では軌跡の図から方程式を選択するなど、図と式の関係を問う出題が多く、グラフや図の特徴を見抜くことが求められた。さらに、第4問の「数列」と第5問の「ベクトル」は、2つの解答方針が与えられ、どちらの方針でも取り組める問題であった。問題解決に向けて構想を立て、的確かつ能率的に処理することが求められた。

正解 ア …… 0 イ …… 2

(ii) x, y の値と条件①, ②の関係について正しいものを, 次の①~③のうちから二つ選べ。ただし, 解答の順序は問わない。 ,

- ① $(x, y) = (0, 5)$ は条件①を満たさないが, 条件②は満たす。
- ② $(x, y) = (5, 0)$ は条件①を満たすが, 条件②は満たさない。
- ③ $(x, y) = (4, 1)$ は条件①も条件②も満たさない。
- ④ $(x, y) = (3, 2)$ は条件①と条件②をともに満たす。

(iii) 条件①, ②をともに満たす (x, y) について, 食品AとBを食べる量の合計の最大値を二つの場合で考えてみよう。

食品A, Bが1袋を小分けにして食べられるような食品のとき, すなわち x, y のとり得る値が実数の場合, 食べる量の合計の最大値は g である。このときの (x, y) の組は,

$$(x, y) = \left(\frac{\text{ク}}{\text{ケ}}, \frac{\text{コ}}{\text{サ}} \right) \text{ である。}$$

次に, 食品A, Bが1袋を小分けにして食べられないような食品のとき, すなわち x, y のとり得る値が整数の場合, 食べる量の合計の最大値は g である。このときの (x, y) の組は 通りある。

(2) 花子さんは, 食品AとBを合計600g以上食べて, エネルギーは1500kcal以下にしたい。脂質を最も少なくできるのは, 食品A, Bが1袋を小分けにして食べられない食品の場合, Aを 袋, Bを 袋食べるときで, そのときの脂質は g である。

注目した問題とその分析

与えられた設定を
数式で表す力が求められる

第2問「1」は、食品のエネルギーと脂質、さらに包装された袋を小分けできるかどうかという「日常生活や社会の事象」を題材とした「図形と方程式」の問題。与えられた設定を数式化して、条件に合う食品の組合せを考察することが求められた。数式は比較的単純であるが、 x, y を整数値で求める問題では、正確なグラフをかき、条件を満たす格子点を吟味することが必要とされた。

*

数学全体として今回の試行調査で求められたのは、「数学の事象」または「日常の事象」について数学的な性質を読み取り、表現する力と、基本的な定理・公式や概念に関する本質的な理解だ。そうした資質・能力を生徒に育むには、例えば、定理・公式がどのように成り立つのか、道具としてどのような有用性があるのかを意識させたり、生徒同士で問題を解き合わせ、その解き方や間違えた理由を考えさせて、多様な数学的思考に触れさせることも有効だ。

正解 , …… 1, 3 (解答の順序は問わない) …… 575 $\frac{\text{ク}}{\text{ケ}}, \frac{\text{コ}}{\text{サ}}$ …… $\frac{9}{4}, \frac{7}{2}$ …… 500 …… 4 , …… 3, 3 …… 18

第2問 B 問3

B 高校の授業で、衝突中に2物体が及ぼし合う力の変化を調べた。力センサーのついた台車 A, B を、水平な一直線上で、等しい速さ v で向かい合わせに走らせ、衝突させた。センサーを含む台車1台の質量 m は 1.1kg である。それぞれの台車が受けた水平方向の力を測定し、時刻 t との関係を図1のように表す。ただし、台車 B が衝突前に進む向きを力の正の向きとする。

問3 次の文章は、この実験結果に関する生徒たちの会話である。生徒たちの説明が科学的に正しい考察となるように、文章中の空欄に入れる式として最も適当なものを、下の選択肢のうちからそれぞれ一つずつ選べ。 3 4

「短い時間の間だけど、力は大きく変化していて一定じゃないね。」

「そのような場合、力と運動量の関係はどう考えたらいいのだろうか。」

「測定結果のグラフの $t = 4.0 \times 10^{-3}\text{s}$ から $t = 19.0 \times 10^{-3}\text{s}$ までの間を2台の台車が接触していた時間 Δt としよう。そして、測定点を滑らかにつなぎ、図2のように影をつけた部分の面積を S としよう。弾性衝突ならば、 $S =$ 3 が成り立つはずだ。」

「その面積 S はグラフからどうやって求めるのだろうか。」

「衝突の間に A が受けた力の最大値を f すると、面積 S はおよそ 4 に等しいと考えていいだろう。」

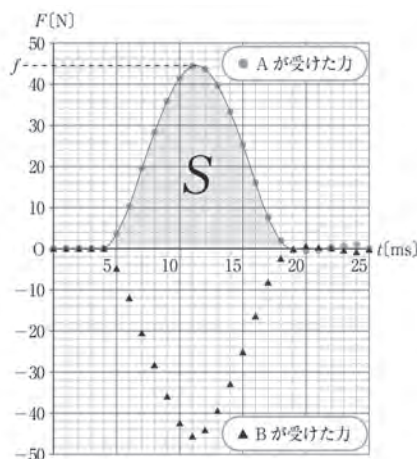


図2

(※編集部注: 図1は、その要素が図2に含まれるため省略)

3 の選択肢

- ① $\frac{1}{2}mv$ ② mv ③ $2mv$ ④ 0
 ⑤ $\frac{1}{2}mv^2$ ⑥ mv^2 ⑦ $2mv^2$

4 の選択肢

- ① $\frac{1}{3}f\Delta t$ ② $\frac{1}{2}f\Delta t$ ③ $\frac{2}{3}f\Delta t$ ④ $f\Delta t$ ⑤ $2f\Delta t$

問題の構成と出題内容

日常生活での物理現象を題材に
実験・観察を重視した問題

大問の数は、前回の試行調査と同様、全問必答の4大問だった。

第3問は、身近な物理現象を題材に、実験考察力を問う問題で、センター試験では見られなかった問題だ。第2問は、問1で符号を間違えてしまい、その間違えた解答を用いて問2を考えた場合、その考えが正しい時は、問2を正解とする工夫がなされていた。また、センター試験と同様、「物理基礎」の範囲も含まれ、まんべんなく出題されていた。

出題内容を見ると、前回の試行調査に比べて数値の計算問題が減少し、文字式を選ぶ問題や選択肢から最も近い数値を選ぶ問題が増えた。これは、センター試験と近い内容だ。出題方法の特徴は、前回の試行調査と同様、日常生活で見られる物理現象を題材に実験・観察を行い、考察を深めるといったストーリー性がある点だ。例えば、せっけん膜を題材とした第3問Aは、観察から考察まで展開を読み取り、それを基に思考・判断できる力が求められる問題だった。

た。グラフや図、イラストといった

複数の資料から、グラフを近似して読み取ったり、数値データを分析したりして、情報を統合し、実験結果を適切に考察して、課題を解決する力が求められた。

初めて見る実験の問題にも対応できるよう、実験手法や仮説の検証、結果の考察などに慣れておくことが大切と言える。

注目した問題とその分析

会話文とグラフから
分析する力が求められる

第2問Bの問3・4は、生徒が実験に基づいて考察を行う問題で、会話文の誘導に従い、考えていく。

問3は、力学台車を用いた衝突実験において、力-時間グラフが囲む面積が表す力積の式を、力積や弾性衝突の理解を基に求める。問4は、力センサーを取りつけた力学台車を用いた衝突実験の、力-時間グラフの曲線で囲まれた図形について、近似の考え方を基におよその面積を求める。いずれも、自然の事物・現象にかかわる値について、原理・法則に従って処理し、グラフ等を活用して分析する力が求められた。

第4問 問4

ある市郊外の広大な草原に生息しているリス科の小動物(以下、リス)は、この地方の象徴として愛されている。先頃、草原の近くに商業施設を誘致し、生息地を分断して道路を建設する計画が持ち上がった。「豊かな財政と高い生物多様性を市にもたす」が公約の市長は難しい判断を迫られることになった。「分断しても全体の面積はほとんど変わらないが、分断によって、^(a)生息地が細分化されたり、^(b)個体群が小さな集団に分けられたりするだろう。このまま計画を進めても大丈夫だろうか」と懸念した市長は、調査官としてあなたを招き、リスの個体群の状態と生息地の分断の影響について、調査を依頼した。次の表1は、あなたが調査した結果をもとに作成したリスの生命表である。ただし、6歳以上の個体はいなかった。なお、表1ではオスとメスを区別せずに示している。

表 1

x : 年齢	N_x	ℓ_x	p_x	m_x	$\ell_x m_x$
0	180	1.00	0.25	0.0	0.000
1	45	0.25	0.60	1.1	0.275
2	27	0.15	0.59	2.1	0.315
3	16	0.09	0.56	2.2	0.198
4	9	0.05	0.56	2.5	0.125
5	5	0.03	0.00	2.9	0.087
合計	282			10.8	1.000

N_x : x 歳の初めの個体数
 ℓ_x : N_x/N_0 , 0歳の初めの個体数に対する x 歳の初めまで生存した個体数の比率
 p_x : N_{x+1}/N_x , x 歳の初めから $(x+1)$ 歳の初めまでの生存率
 m_x : x 歳の個体が産んだ子の平均数
 $\ell_x m_x$: ℓ_x と m_x の積

問4 下線部(b)に関連して、生息地が分断されて個体群が小さくなることで、絶滅のリスクが上昇する理由として適当なものを、次の①～⑤のうちから二つ選べ。ただし、解答の順序は問わない。 4 ・ 5

- ① 近親交配に伴う ℓ_x の上昇
- ② 近親交配に伴う m_x の低下
- ③ 偶然に個体数がゼロになる確率の上昇
- ④ 種間競争の緩和による競争排除の減少
- ⑤ 共倒れ型の種内競争の激化

問題の構成と出題内容
 様々な場面を想定した問題や
 観察・実験の問題が多い

前回の試行調査と同様に全問必答で、大問の数は前回より1大問少ない5大問だった。

出題形式では、前回の試行調査で見られた1つの解答番号に対して複数解答する形式がなくなり、解答した選択肢に応じて部分点が与えられる形式が見られた。また、前回の試行調査やここ数年のセンター試験では見られなかった、下線部の正誤を判断する出題もあった。

出題内容の特徴は2つあった。1つめは、身近なものや現実の課題を題材とした観察・実験の問題が多かったことだ。第1問Aでは缶詰のツナを利用した骨格筋の観察・実験が題材で、第4問はリスが題材で生物が絶滅するリスクについて考察する問題が出題された。いずれも、グラフや表、図、写真などから必要な情報を抽出し、情報を分析・整理する力や、複数の分野にわたる内容を考察する力が求められた。2つめは、小・中学校で習得した内容に関連した出題があったこと

だ。第2問では、身近にある植物について、小学校から高校までに習得した生物分類に関する問題が出題され、実際の写真からそれぞれの植物がどのグループに属するのかを判断できるかが問われた。高校での学習分野を横断して理解するだけでなく、小・中学校で習得した内容とも結びつけ、体系的に理解しておくことが必要だ。

注目した問題とその分析

複数の情報を整理・統合して
 考察する力が問われる

第4問の間4は、生物が絶滅するリスクについて、個体群内や個体群間の相互作用に関する理解を基に、生息地の分断による個体群の縮小によって、絶滅のリスクが上昇する理由について考察する。

前回の試行調査では、現実の場面として高校生の活動を想定していたが、本問は、市長から調査官として招かれた場面を想定した問題だ。表の意味を理解し、情報を整理・統合して考察する力や、原理・法則に従って自然の事物・現象の基本的な概念との整合性を判断する力が求められた。

理科
 地学

第4問 A 問3

地球が受け取る太陽放射と地球から出ていく地球放射は地球全体ではつり合っているが、次の図1に示すように緯度ごとではつり合っていない。地球の大気と海洋は低緯度から高緯度に向けた極向き熱輸送を担い、太陽放射の緯度変化の大きさに比べて、地球放射の緯度変化の大きさを小さくしている。

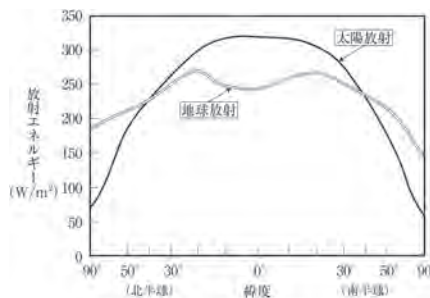


図1 太陽放射と地球放射の緯度分布

問3 次の図2のように、横軸を北緯10°における極向き熱輸送量、縦軸を赤道と極の温度差とすると、現在の状態は図中の点Pとして表される。

地球に大気と海洋が存在しないと仮想的に考えた場合、大気と海洋による極向き熱輸送もない。極向き熱輸送がなければ、太陽放射と地球放射がそれぞれの緯度でつり合うことで、地球全体の放射がつり合わなければならない。この状態を表す図中の位置として最も適当なものを、次の図2中の①～⑧のうちから一つ選べ。 3

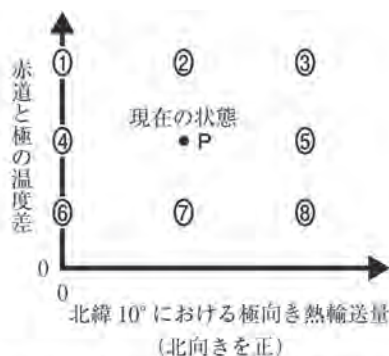


図2 「極向き熱輸送量」と「赤道と極の温度差」との関係

問題の構成と出題内容

仮説の設定や検証方法の検討等
 探究活動への理解が問われる

前回の試行調査と同様に、全問必答で5大問だった。

出題形式では、「ある岩石に関連した学習内容」という切り口で複数の分野の内容を小問集合的に扱う形式の出題、1つの選択肢群から2つ選択する形式で完解とする出題が見られた。問題文での設定の理解を要する問題や見慣れない図からの読み取りを要する問題が多く、題意の把握に時間を要しただろう。

出題内容は、前回の試行調査やセンター試験と同様、「地学基礎」も含めた幅広い分野にわたっていた。

特徴的な出題を挙げると、第2問の間6は、グラフで与えられた3つの変数の関係式を求める問題で、前回の試行調査でも類似問題が出されていた。センター試験よりも高度な数学的処理の力が必要であった。

第2問の間3は仮説に対する反例を選ぶ問題、第3問の間5は仮説に関する検証方法を検討する問題であり、いずれも探究活動における仮説とその検証に踏み込んだ理解が求め

られた。

なお、第3問の間5は、教科書の範囲内で解答できる内容だが、実際の地質調査への応用をイメージする力が求められた。最新の研究や自然災害・環境問題など、地学現象について折に触れて話題にし、日ごろから関心を持つよう促しておきたい。

注目した問題とその分析

問題の趣旨と、見慣れない図の読解に時間を要する問題

第4問Aの間3では、大気と地表における熱収支、熱輸送に関連した海水の運動についての理解が問われた。問題文に従って見慣れない図を理解し、与えられた仮想的な状況に該当する位置を選択する。問題文から情報を読み取り、図・表や資料を基に設定された条件で自然の事物・現象にかかわる情報を、原理・法則に従い整理する力、条件を満たす位置を図中に表現する力が求められた。

図の中に直接、解答選択肢の番号を示した出題は目新しい。文章や図での表現に注意を向けさせ、文章での説明から図を描かせる指導がポイントになりそうだ。

第2問 A 問4・5

A You are a member of the cooking club at school, and you want to make something different. On a website, you found a recipe for a dish that looks good.

EASY OVEN RECIPES
Here is one of the top 10 oven-baked dishes as rated on our website. You will find this dish healthy and satisfying.


Meat and Potato Pie
 Ingredients (serves about 4)

A 1 onion	2 carrots	500g minced beef
× 2 flour	× 1 tomato paste	× 1 Worcestershire sauce
× 1 vegetable oil	× 2 soup stock	salt & pepper


B 3 boiled potatoes 40g butter


C sliced cheese

Instructions
Step 1: Make A
 1. Cut the vegetables into small pieces, heat the oil, and cook for 5 minutes.
 2. Add the meat and cook until it changes color.
 3. Add the flour and stir for 2 minutes.
 4. Add the soup stock, Worcestershire sauce, and tomato paste. Cook for about 30 minutes.
 5. Season with salt and pepper.
Step 2: Make B
 1. Meanwhile, cut the potatoes into thin slices.
 2. Heat the pan and melt the butter. Add the potatoes and cook for 3 minutes.
Step 3: Put A, B, and C together, and bake
 1. Heat the oven to 200°C.
 2. Put A into a baking dish, cover it with B, and top with C.
 3. Bake for 10 minutes. Serve hot.



REVIEW & COMMENTS

 cooking@master January 15, 2018 at 15:14
 This is really delicious! Perfect on a snowy day.

 Seaside Kitchen February 3, 2018 at 10:03
 My children love this dish. It's not at all difficult to make, and I have made it so many times for my kids.

(※編集部注：問1～3略)

問4 According to the website, one **fact** (not an opinion) about this recipe is that it is **9**.

- ① highly ranked on the website
- ② made for vegetarians
- ③ perfect for taking to parties
- ④ very delicious

問5 According to the website, one **opinion** (not a fact) about this recipe is that **10**.

- ① a parent made this dish many times
- ② it is easy to cook
- ③ it is fun to cook with friends
- ④ the recipe was created by a famous cook

問題の構成と出題内容
 実際のコミュニケーションの
 場面を意識した出題

英語の各技能の能力をバランスよく把握することなどを前提として、筆記「リーディング」とリスニングの満点が各100点となった。前回の試行調査では公表がなかった小問配点も公表された。解答時間については、前回から変更はなかった(筆記「リーディング」80分、リスニング30分)。なお、センター試験で出題されていた発音・アクセント問題や、文法・語彙・語法問題、整序問題などは今回も出題されなかった。

筆記「リーディング」は、前回の試行調査同様に、設問指示文はすべて英語で、デイベートやプレゼンテーションの準備など、各問題で場面設定やタスクの状況設定が明確になされており、「話す」「書く」の活動にもつながる課題設定であった。また、ポスターを使ってポイントをまとめさせる形式も出題された。

素材は、レシピ・ブログ・記事など、日常生活で身近なものが多く使われ、読む素材の英文量も多かった。意見と事実の区別、意図を選ぶもの

などが前回の試行調査と同様に出题され、また、設問形式の点では、あてはまるものをすべて選ぶ問題が前回より多く出題された。

生徒には、読みやすくまとめられた英文だけでなく、ブログや広告、ネット情報など、実生活に即した身近で多様な素材に触れさせることが必要だ。探究学習などで、生徒自身に英文の情報にアクセスさせて読ませることも有効であろう。

注目した問題とその分析

概要を押さえ、
 情報を整理する力を問う

第2問のAでは、インターネット上に掲載されたレシピから料理の特徴を読み取ったり推測したりすることを通じて、平易な表現で書かれた短い説明文の概要や要点を捉えたり、情報を整理したりする力が問われた。問4・問5では、レシピやレシピ利用者のコメントを読み、その内容を事実と意見に分けて整理することが求められた。パラフレーズされた選択肢を基に資料上から必要な情報を探すことに加え、それらが事実なのか、意見なのか、情報の種類を区別できる思考力が必要とされた。

英語

リスニング

第5問 問1 (b)

状況
 あなたはアメリカの大学で、技術革命と職業の関わりについて、ワークシートにメモを取りながら、講義を聞いています。

ワークシート

○ The impact of technological changes*
*artificial intelligence (AI), robotics, genetics, etc.

By 2020

Technological change → [Number of jobs]

+ gain: [] = Overall result: [25]
 - loss: []

○ Kinds of labor created or replaced

	Technological development	Change: ① create or ② replace	Kind of labor: ③ mental or ④ physical
19th century	machines	→ [26]	→ [27]
		→ [28]	→ mental
Today	robots	→ replace	→ [29]
	AI	→ [30]	→ [31]

音声スクリプト
 (※編集部注：前略)

This kind of thing has happened before. Jobs were lost in the 19th century when mass production started with the Industrial Revolution. Machines replaced physical labor, but mental labor like sales jobs was generated. Today, many people doing physical labor are worried that robots will take over their roles and that they will lose their current jobs. This time, the development of AI may even eliminate some jobs requiring mental labor as well.

(※編集部注：後略)

(※編集部注：問1 (a) 略)

問1 (b) ワークシートの表の空欄 **26** ~ **31** にあてはめるのに最も適切なものを、四つの選択肢 (①~④) のうちから一つずつ選びなさい。選択肢は2回以上使ってもかまいません。

① create ② replace ③ mental ④ physical

問題の構成と出題内容
必要な情報を聞き分け、判断する力が求められた

6大問構成で、6大問中英文が短い第1問〜第3問は2回読み、英文が長い第4問〜第6問は1回読みとなった。第4問〜第6問は、4つのイラストを聞こえてくる順番に並べ変えたり、図表やワークシートを完成させたりする問題が出された。情報を統合して要点を整理・判断するなど、多くの情報の中から必要な情報を聞き分け、素早く判断することが求められた。

総語数は約1400語、平均音声速度は約135WPM(＊)で、音声の読み上げは大半がアメリカ人だったが、イギリス人や英語を母語としない話者を想定したものも含まれていた。

今回は図表やワークシートの空所を埋める問題などが出され、聞き取った情報を構造化したり整理したりする力が必要となった。数値などの重要情報をメモする際には、簡略化したり記号化したりして時間をかけすぎないようにしつつ、情報の関係性が残るような記録力(ノートテ

イキング力)を生徒には身につけさせたい。また、聞き取るだけでなく、読んで取得しなければならぬ情報の量も多く、短時間で必要な情報を読み取る力も求められた。そのため、リーディング力の育成と同期した指導が重要となるだろう。

注目した問題とその分析

講義を聞き、ワークシートを完成させる

第5問の問1 (b) では、技術革新と未来の職業のかかわりについての講義を1回だけ聞き、ワークシートの空欄にあてはまる単語を選ぶ問題が出された。身近な話題や既知の社会的な話題に関する講義を聞き、メモを取ることを通じて、概要や要点を捉える力や、聞き取った情報と図表から読み取れる情報を組み合わせる判断する力が問われた。

状況と問いを読む時間(約60秒)に対して、与えられた情報量は多く、それを踏まえて、ワークシートとの関連も考えながら講義を聞き、メモを取る力が求められた。必要な情報に焦点化して聞き取り、要点を捉える練習をしておくことが重要である。

* words per minute の略。1分間で読むことができる語数のこと。

出題分析と現場の声から見えてきた

「求められる力」



ベネッセコーポレーション
進研模試編集責任者
松永和喜かずき

今回の試行調査の問題は、前回の

試行調査における出題コンセプトを強く継承したものとなりました。すべての教科・科目で「日常生活や社会の事象」を意識した素材が取り上げられるとともに、グループワークの場面が扱われるなど、探究を意識

した出題もありました。また、文章

だけではなく、グラフや図表など、多様で複数の資料が扱われました。以上のような特徴を持つ問題が、大

学入試共通テスト本番でも出題されると予測されます。

今回の試行調査の問題をご覧に

を5割程度に想定していましたが、数学2科目と理科3科目（物理・生物・地学）は、5割程度を下回る結果となりました。それを受けて大

なつた高校現場の先生方からは、「複

数」の「多様」で「大量」の情報に基づいて問題を解くことに、生徒が苦勞

を課題として挙げています。事実、先生方も、「表や図などのテキストに不慣れ」「情報を抜き出すのが難

試行調査の出題の特徴のまとめ

- 「社会とのかかわり」や「探究活動」を意識した問題設定
- 複数の資料を読み取り、情報を統合・考察する力の重視（現行のセンター試験よりも、問題の文章量や資料が増加）
- 記述式問題や新形式のマーク式問題が出題されるなど、解答形式が多様化

高校現場の先生方の声

- 生徒は表や図の入った文章に慣れていないので、解くのが難しかったと思われる。（国語科）
- すべての問題において文章量が多かったため、体力的にしんどい、疲れたという声が生徒から多く上がった。（国語科）
- これまで見たことのないシチュエーション、図表から問題が出た。（地理歴史科）
- 見たことのないグラフや表が多く出てきた。読解力がないと解けない問題が多数見られた。（地理歴史科）
- 問題文が長く、解き始めるまでに時間がかかった生徒が多かった。（数学科）
- 今までの問題と比べると、純粋な数学の力以外にも、読解力などが必要になった。（数学科）
- 教科書や演習で直接は学んでいなくても、初見の単語やテーマ設定を見て、「この分野の問題だな」とピンとくる力が必要。（理科）
- 速読ではなく、ポイントで大事な部分を抜き出すことが求められる、情報検索型の問題が多かった。（英語科）

複数の、多様で、大量な
情報の中から必要なものを見抜く「読解力」が
求められた

次ページでは、4教科の先生方が、「読解力」をテーマに語り合います

座談会

試行調査の問題を解く上で必要とされた 「読解力」とは何だったのか？

今回の試行調査の問題に対して、いずれの教科の担当教師からも上がったのが「読解力」の重要性を指摘する声であった。そこで、試行調査の問題を解く上で必要とされた読解力とは、具体的にはどのような力だったのか、そして、そのような力を今後どのようにして生徒に育んでいけばよいのか、4教科の担当教師に語り合ってもらった。

参加者



高野和幸
高知県立高知西高校
たかの・かずゆき
教職歴32年。同校に赴任して2年目。副校長。理科。



寺島 求
東京都立西高校
てらしま・もとむ
教職歴37年。同校に赴任して10年目。数学科。



高木 優
神戸大学附属中等教育学校
たかぎ・すむる
教職歴24年。同校に赴任して9年目。地理歴史科。



河田良子
大阪教育大学附属高校天王寺校舎
かわた・りょうこ
教職歴9年。同校に赴任して5年目。国語科。

従来の問いにたどり着くための 読解力が必要に

松永 今回の「大学入学共通テスト」（以下、共通テスト）の試行調査の問題をご覧になった先生方からは、PISA2015や次期学習指導要領答申（*）などで説明されている「書かれたテキストを理解し、利用し、熟考」する力や、「見つけ出した情報を多面的・多角的に吟味し見定めていくことや、情報と自分の知識等を結びつけたりして考えをまとめていく」力、すなわち「読解力」の育成が不可欠だと実感したというお声を多く伺いました。実際、今回の試行調査の問題は、現行のセンター試験と比べると読解に時間を要する内容であり、与えられる情報が文章だけでなく、表や図など多岐にわたりました。また、素材や場面設定が日常生活や社会にかかわるものが多いなど、問題文の質の変化の点からも、前述のような読解力が必要とされたと考えられます。

寺島 数学では、今回の試行調査でも、日常的な事象を

* 中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」



テーマとし、与えられる情報量が多い問題がありました。そのような問題では、どのような状況下で何が求められているのかを読み解いてから「数学」が始まります。そのため、読解力がないと数学の問いにたどり着けない恐れがあります。これまで数学では、問題の読み解き段階での誤解を避けるため、問題文は短い方がよいとされてきましたから、そういった点では、現行のセンター試験と今回の試行調査の数学は大きく異なります。

河田 国語では、問題を解くまでに接する情報が多く、複数のテキストの内容を整理しながら、必要な情報を素早く取捨選択したり、全体像をつかんだりする力が求められています。ただし、要求される学力は、現行のセンター試験の国語から一変したわけではないと思います。従来のように、精読して解釈する力を見る問題も出ており、8割弱は従来の問題だと捉えています。残りの2割強が、現場の先生方がご指摘されている読解力が求められる部分ではないでしょうか。

高野 理科も、前回の試行調査に続いて、日常生活で見られる現象を題材とし、データや資料から必要な情報を読み取って活用する問題が出されました。また、生徒が実験結果に基づいて考察を行う物理の問題、かぜ薬の合成がテーマの課題研究を題材にした化学の問題など、日頃の実験や探究活動の経験の有無が取り組みやすさを左右する問題も出ました。

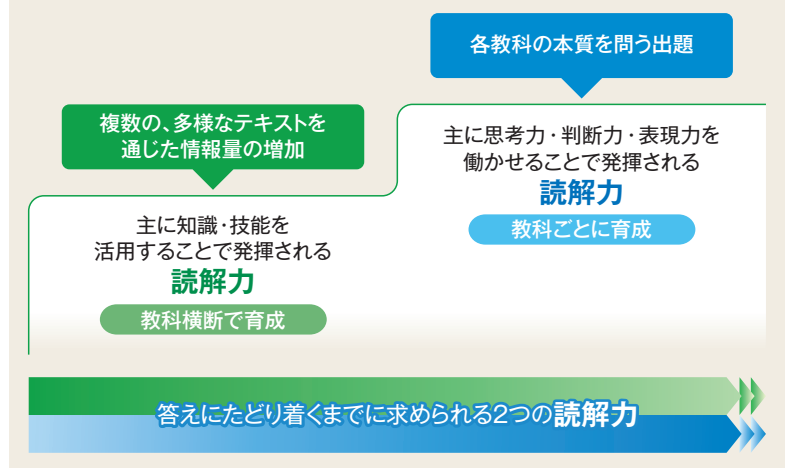
高木 前回の試行調査同様、日本史や世界史は現行のセンター試験と比べて史料が増えています。ただ、求められている力は従来と大きく変わりません。これまでも、地理歴史、公民では史料・資料が提示され、その内容を読解することが求められてきました。

河田 読解のスピードが求められたことは確かです。国語も、普段から活字に多く触れ、多様な文章に接した経験を持つ生徒は対応しやすかったはずですが、

寺島 情報を取捨選択し、従来の数学の問いにたどり着いた後は、現行のセンター試験でも求められている、定理・公式の運用力や計算力を発揮するために必要な、数学的な事象の本質を読み取る力が求められました。

高木 試行調査の問題を解く上で必要とされた読解力は、2種類あると思います。「主に知識・技能を活用することで発揮される読解力」と、「主に思考力・判断力を発揮する読解力」です(図)。前者はどの教科でも同様に求められ、教科横断で育むことができます。一方、後者は教科固有で、各教科の授業の中で育まれるものです。まず、読解力について共通認識を図ることが重要なのではないのでしょうか。

図 「大学入学共通テスト」の問題を解く上で必要だと考えられる「2つの読解力」





生徒の自由な思考、多様な意見を教師が価値づけしていく授業を 河田

大阪教育大学附属高校天王寺校舎 ◎自然科学や社会科学に関する基礎的な研究方法を習得しながら個々の好奇心を満たす「ブルーフ（課題研究）」、各自の生命観を醸成する「生命論」などの独自の学習空間を設置。文部科学省「スーパーサイエンスハイスクール」指定校。
 ◎設立 1956（昭和31）年 ◎形態 全日制/普通科/共学 ◎生徒数 1学年約160人 ◎2018年度入試合格実績（現浪計） 国公立大は、東京大、京大、大阪教育大、大阪大、神戸大などに102人が合格。私立大は、慶應義塾大、東京理科大、早稲田大、同志社大、立命館大、関西大、関西学院大などに延べ235人が合格。 ◎URL <http://www.tennoji-h.oku.ed.jp/tennoji/index.html>

読解力とは何かを 校内で語り合う

松永 これからの授業のあり方について伺います。「主に知識・技能を活用することで発揮される読解力」は、どのようにして育めるのでしょうか。

河田 いろいろな話題、多様な知識に触れさせる時間が、それぞれの教科でより重要になると思います。国語であれば、教科書に載っている文章にとどまらず、多彩なジャンルの文章を読ませる機会を増やすことです。その一方で、精読する力も必要です。国語科の教師には特に、「今は大まかに読ませる」「次はじっくり読ませよう」などと、指導のモードを明確に判断することが求められます。

高野 教科書の内容から派生する関連知識を生徒に多く与えるためには、「保健体育」や「家庭」などの教科が横串となつて、各教科を結びつけることも必要です。

河田 情報の収集・整理・分析のステップの中で、様々な教科の関連知識に触れるという意味では、「総合的な探究の時間」が鍵になりそうですね。

高野 何が大切なのかを生徒自身が選択する場面を、授業に盛り込むことも重要です。これまでなら教師が「キーワードはこれ」などと説明していたところで、あえて生徒の気づきを待つ場面も、今後は増えると思います。

高木 「読解力の育成」を、教科を超えた共通の課題とするとういことです。そして、試行調査のような問題を、高1の段階から校内テストなどで出していけば、生徒も読解力の重要性を実感

し、学習の姿勢も変わっていくと思います。

寺島 「読解力の育成」が校内共通の課題になると、各教科ですべきことが見えてきます。「数学で得られた論理的な思考力は、国語の評論読解にも役立つ」と、各教科が読解力の育成に向けて「できること」を考えたいですね。

高木 「図を読み解く力」「文章を読み解く力」といった、活動領域ごとの読解力を、どの教科が中心になって育むのかを話し合い、分担することも必要でしょう。

生徒の試行錯誤と 教科の本質の理解が必要

松永 「主に思考力・判断力・表現力を働かせることで発揮される読解力」、すなわち教科固有の読解力についてはいかがでしょうか。

寺島 答えが出たら終わりではなく、得られた数値の意味や価値を考察するといった、本質的な理解を求める指導が教科を問わず必要です。また、今回の試行調査の数学Ⅱ・Bでは、現行のセンター試験で見られる微分・積分の複雑な計算は求められませんでしたが、その傾向が実際の共通テストでも踏襲されれば、パターン演習的な学習では対応できませんから、授業改善が不可欠です。

河田 他教科と連携して、「このテーマはほかの教科でも扱ったよね」と教師が話すことができれば、生徒のメタ認知が促進され、本質的な理解へと近づくでしょう。

高野 科学の本質を理解するために重要なものは、基礎事項を身につけた上での、授業中の試行錯誤です。実験も、

「読解力の育成」を教科共通の課題とすることで、「カリマネ」を推進する 高木

神戸大学附属中等教育学校 ◎神戸大学発達科学部の旧附属明石中学校・住吉中学校を母体とし、中等教育学校として発足。2012年度、後期課程（高校）が開校。小集団学習や総合的な学習の時間「Kobeプロジェクト」など、言語活動を重視した特徴的な教育を展開する。
 ◎設立 2009（平成21）年 ◎形態 全日制/普通科/共学 ◎生徒数 1学年約155人 ◎2018年度入試合格実績（現浪計） 国公立大は、北海道大、東京大、京大、大阪大、神戸大などに69人が合格。私立大は、慶應義塾大、中央大、早稲田大、同志社大、立命館大、関西大、関西学院大などに延べ366人が合格。 ◎URL <http://www.edu.kobe-u.ac.jp/kuss-top/index.html>





思考を活性化させる問いづくりには、教師同士の研鑽が必要 寺島

東京都立西高校 ◎昭和12年に創立された府立第十中学校を母体とする。教育理念は「文武二道」「自主・自律」。国際社会で活躍できる人材の育成を目指す。東京都教育委員会による「進学指導重点校」の指定校。◎設立 1937(昭和12)年 ◎形態 全日制/普通科/共学 ◎生徒数 1学年約320人 ◎2018年度入試合格実績(現役のみ) 国公立大は、東京工業大、東京大、一橋大、京大、大阪大などに106人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、中央大、東京理科大、早稲田大などに延べ357人が合格。◎URL <http://www.nishi-h.metro.tokyo.jp/index.html>

できるだけ生徒に委ね、どのような結果が予測されて、実際に得られたのか、その結果の原因は何かを話し合わせることも重要になるでしょう。そうすることで、与えられた情報を既知の知識と統合して突き詰めていく、本質に迫る読解力が身につきます。

河田 今回の試行調査の国語の大問2では、「文章」に添えられた2つの表について、それぞれの意図を問う問題が出されました。文章にしる図表にしる、具体的な目的の達成のためにテキストを作成したところのある生徒は解きやすかったです。具体的な課題に向き合って、仲間と話し合う中で自分の考えを形成していく、言わば「動的な思考力」が求められると思います。

高木 教員が答えを指し示すのではなく、グループ学習など、生徒と生徒の対話を通して答えを考える授業でこそ、動的な思考力を養うことができます。

河田 1つの問いに対してグループ別に、図や文章など自由な形式で思考の過程をまとめさせることが重要です。そして、多様な意見や考えを歓迎する授業であるならば、生徒の言葉にうなずくだけでなく、「ここに着目できたね」と価値づけしていきたいです。

高木 教員の適切な価値づけこそ、本質を読み解く力をも身につけるために不可欠な指導かもしれませんね。

寺島 本校では、年2回、教科を超えた授業見学の期間が設定されていますが、そこで重要視している観点は、「生徒の思考を活性化させる問いかけ」です。思考を活性化させる問いづくりには、教師相互の研鑽が必要です。さらに、私は「生徒の間違いを生

かした授業展開」も重視しています。

高木 授業の構成も変わります。地理歴史科ならば、地球的課題を主題に、その問題の解決方法を考えることで歴史的・地理的な見方・考え方を働かせる授業が求められます。歴史や地理の知識を覚えさせるだけの授業では、これからの入試には対応できません。地球的な課題が歴史や地理のどの事象と関係するのかを読み解くことが、地理歴史科固有の読解力です。

“カリマネ”の推進で 新入試対応の授業づくりを

高野 授業での試行錯誤と教科の本質的な理解のためには、そうした時間をどのように確保するかが課題になります。化学でも、例えば試薬の色など、覚えてしまえばよいところは、プリント学習で済ませて授業の中では説明しないなど、メリハリが必要です。

高木 年間を見通した単元構成などのカリキュラム・マネジメントの重要性が高まると思います。

河田 時間をかけて生徒が深く対話するような授業を実現しながら、教科書、さらには教科をも超えた知的な話題も提供し、生徒が知識と思考の広がりを楽しむようなメリハリを大切にしたいです。

寺島 共通テストへの準備は確かに必要ですが、それは形式の変化に対応するためのものです。これまでも求められた2つの読解力の育成を、すべての教師が意識しながら、本質を押さえた教科指導を続けていくことで、共通テストにも対応することができるはず。



生徒は授業中の試行錯誤によって本質に迫る読解力を獲得する 高野

高知県立高知西高校 ◎1968年、高知県の高校としては初となる英語科を設置。国際交流の先進校として積極的に活動。2023年度に高知南中学校・高校と統合完了し、国際バカロレアコースを含むグローバル教育を展開していく。文部科学省「スーパーグローバルハイスクール」指定校。◎設立 1957年(昭和32年) ◎形態 全日制/普通科・英語科/共学 ◎生徒数 1学年約280人 ◎2018年度入試合格実績(現役のみ) 国公立大は、岡山大、広島大、香川大、愛媛大、高知大などに92人が合格。私立大は、慶應義塾大、同志社大、立命館大、関西大、関西学院大などに延べ111人が合格。◎URL <http://www.kochinet.ed.jp/nishi-h/>

事例

大阪府・私立明星中学校・高校

エッセー作成を通して、多様な情報を整理し、
 自分の言葉でアウトプットする力を養う

長文を粘り強く読み通す力や、問題の意図を正確に読み取る力に課題を感じていた明星中学校・高校。教科の授業で多様な知識を学び、「総合的な学習の時間」ではそれらの知識を整理・統合して、生徒自身がテーマを決めてエッセーを書く活動を行っている。教科横断で総合的な読解力を育もうとしている同校の取り組みを紹介する。

感覚的に捉えずに、
 論理的に読み取る力が必要

大阪府・私立明星中学校・高校は、大阪府中心部に位置するカトリックの男子校だ。授業重視の教科指導、英語4技能の育成などにより、例年150人前後が国立大学に合格している。そのため、生徒の希望進路の実現に向けて、「大学入学共通テスト」で求められる思考力や読解力などの育成の強化は、大きな課題と捉えている。国語科主任の根来正彦先生は、次のように説明する。

「まず、長い文章を粘り強く読み通す力が弱くなっていると感じています。また、国語に限らず、文章題で

間違える生徒の多くは、問題の意図を正確に読み取れていません。何が問われているのかを論理的に解釈せず、感覚的に捉えているため、同じ間違いを繰り返してしまうのです」

一方、図やグラフなどの形で提示された複数の資料から必要な情報を読み取って答える問題に対しては、生徒はそれほど抵抗感を持っていないと、根来先生は語る。

「国語の授業でも、図やグラフなどから必要な情報を読み取って記述する問題には、長文読解に比べて意欲的に取り組んでいます。デジタルネイティブの生徒たちにとってそれらは親和性の高い素材であり、視覚的に捉えられるものでもあるので、

取り組みやすいのかもしれませんが」

ただ、そうした課題でも、問題の難易度が上がると対応できない生徒が出てくると、進路指導部部長の上畑卓治先生は指摘する。

		
大阪府・私立明星中学校・高校 教職歴29年。同校に赴任して29年目。教頭補佐。進路指導部部長。国語科。	大阪府・私立明星中学校・高校 教職歴32年。同校に赴任して32年目。国語科主任。	大阪府・私立明星中学校・高校 教職歴19年。同校に赴任して19年目。教務部。国語科。

「問題の意図を理解し、それに沿って図やグラフから必要な情報を読み取って答えを導くためには、思考力や判断力を含めた総合的な読解力が必要です。すなわち、複数の視点か

大阪府・私立明星中学校・高校

- ◎カトリック男子修道会「マリア会」により、創設。「地の塩、世の光」「よき明星紳士たれ！」を学園の標語として、カトリック精神にのこった全人教育を展開。
- ◎設立 1898（明治31）年
- ◎形態 全日制／普通科／男子
- ◎生徒数 1学年中学校約260人、高校約400人
- ◎2018年度入試合格実績（現浪計）
 国立大は、北海道大、東北大、東京大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大などに164人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大、同志社大、立命館大、関西大、関西学院大などに延べ962人が合格。
- ◎URL <http://www.meisei.ed.jp/>

ら提示された資料の内容をきちんと読み取り、必要な情報を抜き出した後、共通点を見つかったりして、それらを問題の意図に沿って統合・考察する力が求められるでしょう。それは、『大学入学共通テスト』で求められる力であると同時に、職業を問わず、仕事をする上でも今後ますます求められる力だと思います。そのような資質・能力を育成する指導は、国語科だけではなく、教科横断で取り組むべき課題だと捉えています」

動画や音声の教材も用いて、読解力を多面的に育成

総合的な読解力を高めるために、同校が重視しているのがエッセー作成の指導だ。上畑先生は、読解力と記述力は不可分な関係にあると語る。

「読み取った内容を、本当に理解できているかどうかを本人が認識したり、第三者が評価したりするためにはアウトプット、つまり、書くことが必要になります」

そこで、2018年度の中学3年次から、「総合的な学習の時間」（以下、総合学習）において教科横断でのエッセー作成の指導を始めた。前

期は国語科と理科、後期は国語科と社会科が連携し、各教科の授業で学習する内容と、総合学習におけるエッセー作成を連動させた。それらの指導は、高校で行う探究学習の事前学習としても位置づけている。

「多様な情報を整理・統合し、考察する読解力は、探究学習における課題設定を行う際にも必要な資質・能力です。そしてそれは、試行調査でも多様な資料を読み解き、答えを導き出す問題が中心となっていた『大学入学共通テスト』に対応するために必要なものだと考えています」（根来先生）

今回は、後期に行われた「人口問題」をテーマにしたエッセー作成の指導の流れを見ていく。

まず、社会科の授業において、環境・雇用・食糧などの分野を取り上げ、それらの視点から捉えた人口問題に関する様々な知識を学ばせた。それと並行して総合学習では、国語科が、段落構成や起承転結など、エッセーの書き方を指導し、短いエッセーの作成に何度も取り組ませた。その際、人口問題に関する動画を視聴させ、その内容の要約と疑問点、感想を書かせた。そのねらいは、文

章やグラフなどだけでなく、動画や音声といった素材からも情報を的確につかみ取り、整理する力を育成することにある。

「グローバル化が進む中、言語だけの情報のやり取りには限界があると思います。これからは、言語以外の表現に込められた意図を理解する力も必要になるでしょう。そうした力は、文章の内容を読み解く従来型の読解の指導だけで身につけるのは難しく、様々なメディアを駆使して、多面的に育成する必要があると考えています」（上畑先生）

ステップを踏みながら多様な情報を整理し解釈する

指導では、国語科と社会科で進捗状況や指導内容を共有し、エッセーのテーマを何にするか、どんなキーワードをインプットさせるのかといった目線合わせを随時行なった。

そのような指導を通して、人口問題やエッセーの書き方に関する様々な知識・技能を習得させた上で、学期末に人口問題に関するテーマを1つ決めて、その背景と対応策について1200～1600字のエッセー

を書かせた。その際、いきなりエッセーを書かせるのではなく、段階を踏んで完成に近づくようにした。

①人口問題に関するテーマ（論題）を思いつくままに箇条書きする。

②書き出したテーマの背景や問題の原因について書く。

③②で挙げたテーマの中から、自分が取り上げるテーマを1つ決め、その問題の解決策を書く。

④③の解決策の根拠と効果を書く。

⑤序論、本論、結論の段落構成で内容を考え、下書きをする。

⑥エッセーを書く。

それらの段階を踏むことで、社会科や総合学習の授業で学んだ多様な情報を的確に整理・統合し、それについて考察しながら、読解力を高めしていく。

相互評価の方法を工夫し、信頼性の高い評価手法を模索

エッセーの評価は、生徒同士の相互評価で行っている。評価項目は、句読点の位置や言葉の係り受けの正確さ、論旨の明確さ、段落構成などの5つ（図1）で、執筆者以外の5人の生徒が4段階で評価する。また、

評価にエッセー以外の情報が入らないよう、執筆者の名前は伏せ、無作為の5人に配布するようにした。

同校が行う相互評価の特徴は、採

点結果に関するアンケートも行い、その中で「あなたはこの採点結果を信用しますか」という項目を用意したことだ。評価者の名前は伏せられ

ているが、自分が書いたエッセーへの評価が的確かどうかを考えさせ、評価者を評価するのである。

「評価する側にも自分の評価に責任を持たせるために、この項目を設けました。また、他者を評価すること

で、自身のエッセーを客観的に読むメタ認知能力の向上にもつながると期待しています」(上畑先生)

現在、相互評価とアンケートの結果を分析し、教師1人が評価した場合と、複数の生徒で評価する場合とで、整合性はあるのか、どちらかに一貫性があるのかを調べている。東京工業大学の大学院生と共同でデータの解析を進めており、相互評価に一貫性が認められれば、エッセーの評価は生徒の相互評価を中心にする

ことも視野に入れている。「小論文や探究学習など、正解が1つではない問いに取り組む学びをどのように評価すればよいのかは、学校現場の大きな課題です。エッセーを書かせるのは簡単ですが、それを適切に評価し、生徒の資質・能力を着実に伸ばすためには、客観的で効果的な評価手法の確立が必要です。相互評価の信頼性の高さがデータで実証できれば、相互評価に対す

る生徒の納得感が高まり、取り組みに対する意欲も向上すると期待しています」(上畑先生)

出題者の意図を読み取る1つは コミュニケーション力の1つ

教科指導においても、総合的な読解力の育成を重視している。国語科の木村幸広先生は、出題の意図を読み取る力を身につけさせようと、教科書を題材にして、生徒自身に作問を行わせている。高校1年次の『羅生門』を例に流れを見ていく。

以前の授業では、場面や段落ごとに、書かれた内容について共通理解を図った上で、登場人物の心情など、さらに深い読解に進む流れにしていた。現在は、心情の読解に進む前に、グループワークによる作問を行う。

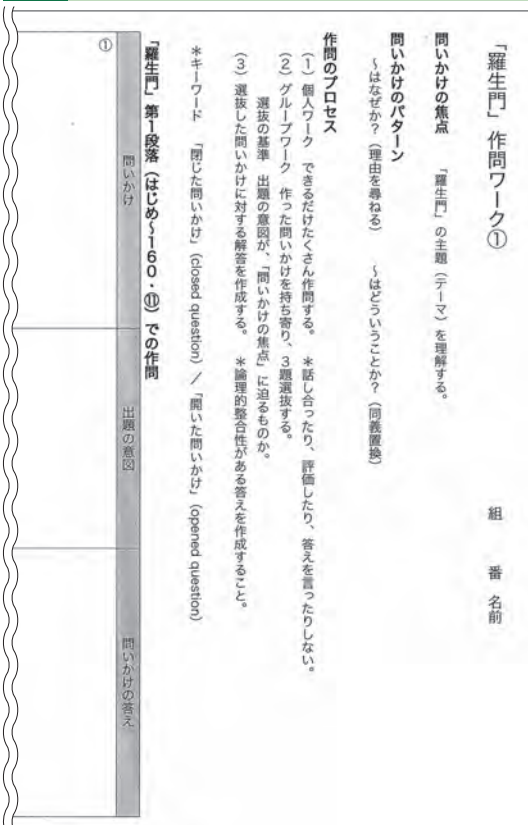
まず、一人ひとりができるだけの多くの問題を作り、それを3〜4人のグループになって持ち寄る。問題内容は、「はい・いいえ」で答えられるようなクローズド・クエスチョンでも、解答に幅を持たせることのできるオープン・クエスチョンのどちらでも構わない。グループで話し合っ

図1 「評価シート」と「ピア・アセスメントと採点結果に関するアンケート」



生徒同士の相互評価は、5項目で行う。それらはエッセーを書く際に注意すべき観点でもある。また、今後の相互評価の方法に生かそうと、相互評価をどう思うかについて聞くアンケートも行った。
 *学校資料をそのまま掲載。

図2 『羅生門』の作問ワークのプリント



*学校資料をそのまま掲載。

図と答えをワークシートに書き込む(図2)。そして、作った問題はグループ間で出し合い、各グループが解答・解説を行ってから、従来の心情の読解へと進む。

「グループ間で問題を出し合い、解答・解説を行う段階で、教師が伝えたい内容の大半が出てくるため、進度を速めることにもつながり、以降の授業がスムーズに進むようになりました。生徒も意欲的に取り組んでいて、主体的・対話的で深い学びという点でも、有効な方法だと思います」(木村先生)

評論の場合は、教科書の本文を読んで100〜200字の要約を作成

させた後、『羅生門』と同じ手順でグループワークによる作問を行う。大学入試で求められる出題者の意図を読み解く力は、日常生活におけるコミュニケーション力にも通じると、木村先生は考えている。

「相手が話した内容やその意図を理解すること、相手に分かるように伝えることは、コミュニケーションの基本ですが、生徒同士の問題は、大半がコミュニケーションがうまく取れていないことに起因します。入試問題を解くことは、出題者の意図を読み取り、それ的確に答えるという、出題者とのコミュニケーションでもあります。仲間と協力して作

問し、解答し合う活動を通して、社会で必要となる対人関係能力を高めてほしいと考えています」

教科・科目を超えたチームづくりがさらなる飛躍の鍵

一連の取り組みを通して、多様な情報を整理・統合し、自分の考えを論理的に表現する力、情報の発信者の意図を読み解く力は徐々に向上している。例えば、動画や音声視聴しながら素早く要点を書き、疑問点を出したり、考えをまとめたりできる生徒が増えたと言う。また、小論文の構成や様式を整えた上で、自分の言葉で書く生徒が増えてきた。

「生徒たちは総じて、解答に必要な要素を問題文の中から見つけ出し、それらを適切につなぎ合わせて解答を作り出す力が高いのですが、最難関の国公立大学の入試で結果を出すためには、そうした力に加えて、自らの考えや解釈を自分の言葉で論理的に表現する力が必要になります。エッセーを書く活動を通して、自分の言葉で論理的に表現することができる生徒が増えていることを心強く感じています」(上畑先生)

中学校の全学年で9月に実施している「中学総合学力調査」(*)でも、成果が表れている。18年度の中学3年生は、17年度の中学2年生の時と比べて、教科融合においてレベル3・4の生徒割合が6ポイント増えた。思考力の伸びがデータでも裏づけられた形だ。

今後の課題は、生徒の読解力や思考力を教科横断で伸ばす体制を、より強化していくことだ。

『「大学入学共通テスト」に対応できる資質・能力を育むためには、教科縦割りの指導では限界があるでしょう。読解力の育成を国語科だけの課題にとどめるのではなく、地理歴史・公民科や数学科、理科、英語科など、全教科・科目で連携した指導ができるかが、今後の飛躍の大きな鍵になるはずです」(上畑先生)

ここ数年、教科縦割りの指導に対する危機感が教師間で共有されつつあった。それを受けて、同校では、進路指導部・教務部・各教科主任からなるカリキュラム・マネジメント委員会を立ち上げた。今後、同委員会を中心に、教科横断の指導体制を強化し、さらなる相乗効果を高めていく考えだ。

* ベネッセのアセスメントの1つで、「教科の思考力・判断力・表現力」を測定し、段階別評価を行うテスト。国語・数学・英語に加え、合教科型のテストも含まれる。

理解！ 習得！ 自校に 展開！

生徒の学びをデザインする カリキュラム・マネジメント

監修・ファシリテーター

ともこ
森 朋子

関西大学教育推進部教授

専門は、学習研究、学習理論。島根大学教育開発センター長等を経て、現職。共編書に『アクティブラーニング型授業としての反転授業』（ナカニシヤ出版）。

日賀優一

「三四郎の学校」事務局長

本誌連載コーナー「これからの会議・研修のあり方、つくり方」監修者。

内容

※下記の内容は予定であり、変更される場合があります。

① 今求められている「カリマネ」とは？

「カリマネ」とはどのような営みかを確認しながら、その出発点である学校教育目標をいかに自校にフィットしたものにするか、事前課題や実践事例から考える。

② 「カリマネ」をどのように推進するか？

参加者が自校の状況や自身の関心・課題を踏まえて、以下の3つの分科会のいずれかを選択。講師や参加者との対話を通して、「カリマネ」への理解や考えを深める。

テーマ1◎「カリマネ」を校内全体に浸透していくために（講師／高校教員）

テーマ2◎生徒の学びを深める「カリキュラムデザイン」（講師／関西大学教育推進部教授・森朋子）

テーマ3◎「育成を目指す資質・能力の明確化」とその「評価」（講師／高校教員）

③ 自校での実践工程表の作成

学んだことを自校で実践していくための具体的な活動計画の作成と、ワークショップ後の活動を支え合う仲間づくりを行う。

※いずれの場面でも、対話を中心とした参加者主体の活動が盛り込まれます。

※参加者には、自校の現状を整理するなどの事前課題への取り組みをお願いする予定です。

2018年3月に高校の次期学習指導要領が公示されて以来、学校現場の課題として関心が高まっているのが「カリキュラム・マネジメント」です。その第一歩であり、最も重要なステップである、資質・能力ベースによる学校教育目標の策定の段階から、「抽象的な表現にとどまっている」「自校ならではの内容になっていない」といった課題を抱えている学校も少なくありません。

そこで、「カリマネとは何か」、その根本に立ち返りながら、先生方同士が対話を通じて課題に向き合う場を企画いたしました。次期学習指導要領が目指す理念は、「社会に開かれた教育課程」です。先生も学校の外に飛び出し、このような場に参加されることは、その理念の実現につながるのではないのでしょうか。そして、ワークショップでの学校の違いを超えた熱い語り合いをその場限りのものにするのではなく、ワークショップ後も参加者の先生方がつながり、引き続き互いの進捗や課題を共有できる仕組みも考えています。「私は、VIEW21ワークショップの修了者です！」と誇っていただけるような場づくりを目指します。多くのご応募・ご参加をお待ちしています。



株式会社
ベネッセコーポレーション
VIEW21 編集部
統括責任者 **柏木 崇**

日時	2019年3月23日(土) 10時30分～17時30分
場所	株式会社ベネッセコーポレーション岡山本社(岡山市北区)
参加対象者	カリキュラム・マネジメントの推進において課題を抱えている高校の先生
募集人数	50名程度(先着順。同一校からの参加は上限2名までとさせていただきます)
参加費	3,000円(税込み。昼食代を含む)

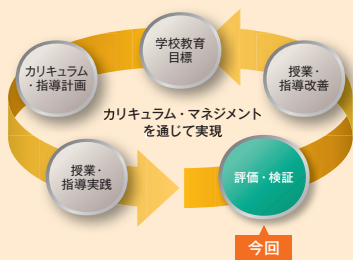
参加申し込みは2019年2月28日(木)まで!

※先着順のため、定員に達した段階で締め切らせていただく場合があります。

ベネッセ教育総合研究所のホームページトップ(*)にあるバナー「VIEW21 PRESENTS ワークショップ 2019」から参加申し込みフォームにアクセスし、必要事項をご入力ください。

*「ベネッセ 研究」で検索→「ベネッセ教育総合研究所」

ワークショップの様子は、2019年度『VIEW21』高校版にてご紹介する予定です。



「足工ステップアップシート」で 授業ごとの到達目標を言語化し、 達成状況の確認や評価に活用

栃木県立足利工業高校

**全科への展開を見据えた上で
まずは1科で評価手法を開発**

2018年度、栃木県立足利工業高校は、公益社団法人 全国工業高等学校長協会「工業高校生への専門的職業人として必要な資質・能力の評価手法の実践研究」の実践研究校として指定を受け、専門科目における資質・能力の評価手法についての研究開発を始めた。湯澤修一校長は、そのねらいを次のように語る。

「育成を目指す資質・能力が、生徒にしっかりと身についたかどうかを適切に評価できてこそ、指導改善が的確に行えます。そこで、評価手法を確立させることから着手しようと考えました」

評価手法の研究開発は、全科で一度に進めると教師間の共通理解などに時間がかかることが予測されたため、まずは産業デザイン科を進めることにした。そして、同科で評価手法が確立されたら、それを他科に展開しようと考えたのだ。そのため、同科の研究開発で得られた知見や成果は、職員会議や校内研修などの場で、他科と随時共有することとした。

**単元ごとに身につけさせたい
資質・能力の一覧表を作成**

研究担当で産業デザイン科長の片山正人先生は、同科の評価手法の課題について次のように語る。

「本科で大きな比重を占めるデザインの実習では、生徒が提出した作品を複数の教師が評価することで、評価の客観性を担保するようにしてきました。しかし、評価基準が言語化されておらず、教師の経験に基づいた暗黙知に頼って評価していました。生徒に評価結果の理由を明確に説明できるようにするために、評価基準の形式知化が課題でした」

そこでまず、デザインの「実習」で生徒に身につけさせたい資質・能力を、「観察力」「表現力」「発想力」「造形感覚」「生活や技術に対する理解」「総合的計画力」「プレゼンテーション力」の7つに設定。3年間で学習するすべての単元について、それぞれどの資質・能力を身につけさせるのかを示した一覧表を作成した。

「単元と育成を目指す資質・能力の関係を明確にしたことで、『この実習で観察力と表現力を身につけさせた上で、次の実習では発想力や造

形感覚を身につけさせる』というように、自分が担当する実習だけでなく、担当外の実習も含めて、単元間のつながりを強く意識できるようにになりました」（片山先生）

**各授業の目標を示したことで
生徒の質問がより具体的に**

続いて、1年次に学習する専門科目「工業技術基礎」の実習について、各授業で生徒に身につけさせたい資質・能力を言語化した「足工ステップアップシート」(図)を作成し、生徒に配布した。同シートはルーブリックの役割も担っており、教師は、各授業における学習到達度について、明確に言語化して評価できるようにになった。同シートの作成にかかわった柳澤顕先生は、作成の手順について次のように説明する。

「産業デザイン科の担当教師が全員集まり、実習ではどのような手順で資質・能力の育成を図っているのかを共有しました。そして、デッサンの指導書も参考にしながら、授業ごとに身につけさせたい資質・能力を明確にしていきました。今後は、ほかの科目についても、同様にシ

*「学校教育デザイン」とは、本誌が2017年度6～12月号の特集で提唱した、「学校教育目標からカリキュラム・指導計画の策定、授業・指導実践、その評価・検証、授業・指導改善までの一連のサイクルが、カリキュラム・マネジメントを通じて実現される学校改革の営み」のこと。



栃木県立足利工業高校校長
湯澤修一 ゆざわ しゅういち
教職歴35年。同校に赴任して1年目。



栃木県立足利工業高校
庄司一廣 しょうじ かずひろ
教職歴24年。同校に赴任して6年目。電子機械科長。



栃木県立足利工業高校
片山正人 かたやま まさと
教職歴22年。同校に赴任して6年目。産業デザイン科長。



栃木県立足利工業高校
柳澤 顕 やなぎさわ あきさら
教職歴7年。同校に赴任して4年目。産業デザイン科。

栃木県立足利工業高校

◎建学の精神「質実剛健にして産業界の先駆者たるべし」の下、ものづくりを通して人づくりを目指す。1993年度から地元企業の協力を得て職場実習、2007年度から足利工業大学（現・足利大学）との高大連携を実施するなど、地域と連携した教育活動に力を注ぐ。

◎設立 1895（明治28）年

◎形態 全日制・定時制/機械科、電気科、産業デザイン科、電子機械科/共学

◎生徒数 1学年約200人（全日制）

◎2018年度進路実績（現役のみ） 4年制大は群馬大、前橋工科大、足利工業大（現・足利大）、国土館大、帝京大、東京工科大などに延べ14人が合格。短大・専門学校進学38人。就職131人。

◎URL <http://www.tochigi-edu.ed.jp/ashikagakogyo/>

トを作成したいと考えています」
片山先生は、同シートのポイントを次のように語る。

「本シートは、教師が評価に用いるだけでなく、生徒がどの段階でどのような資質・能力を身につければよいのかを確認できるようにするためのものでもあります。そこで、評価項目は、生徒が理解できる平易な言葉で表現するようにしました」

それまでの実習では、生徒は教師にどう質問したらよいか分からず、教師も「よく見て描きなさい」といった漠然とした指導にとどまってしまうことが少なくなかった。しかし、同シートを活用し始めると、生徒の質問が「シートの6番の項目がうまくできないのですが、どうすればよいでしょうか」と、より具体的にになり、教師も助言がしやすくなったという。また、目標達成に向けて、主体的に放課後に残って実習に取り組む生徒が増えた。同シートによって評価基準が可視化されたことで、暗黙知を形式知化することができただけでなく、生徒の学習意欲や学力の向上にもつながっている。

そうした産業デザイン科での実践や成果を踏まえ、19年度からは、他

図 「工業技術基礎」（静物デッサン2）の「足工ステップアップシート」（抜粋）

項目	評価			
	デッサンⅡ	自己	選同	指導
1	デッサンに必要な用具を準備できる。 鉛筆、練りゴム、消しゴム、はかり線、画用紙、カールン、タリッパ			
2	カッターナイフを使用し、鉛筆をデッサンしやすいように削ることができる。			
3	イーゼルの高さや位置を調節し、正しい姿勢で描くことができる。			
4	紙の種類によって裏表が異なることを理解し、正しく判断することができる。 （画用紙は裏表があり、ざらざらしている方が表になる）			
5	ヤコーフの位置関係を正しく把握し、バランスよく画面上に配置できる。			
6	鉛筆を握らせて、柔らかい線で描きはじめることができる。 （腕を揺らがない・柔らかい線の鉛筆をえらぶ）			
7	はかり線を正しく持ち、マナーフの位置、距離、比率を測ることができる。			
8	イーゼンと道具を片付け、書み回りの掃除をすることができる。 （紙の目の方向や向きを忘れない）			

○…出来た △…実ある程度出来た ×…出来なかった
A 知識・技能 B 思考・判断・表現 C 主体的に学習に取り組む態度

【事前】 デッサンⅡの目標を立てよう。
デッサンⅡの評価を参考に、具体的な目標となるように評価項目の番号も記してください。

【事後】 デッサンⅡの授業をふりかえりましょう。
①目標（評価項目）に向けて努力した点と達成具合、授業中の感想 など

* 学校資料をそのまま掲載。

科でも評価手法の研究開発に着手する予定だ。電子機械科長の庄司一廣先生は次のように語る。

「電子機械科でも、まず実習・実技を中心に評価基準の作成に取り組もうと考えています。年度によって、生徒の入学時の実技能力には違いがあるので、最低限身につけさせたい技能の基準をどこに定めればよいか、科内で議論を重ねています」

湯澤校長は、今後の展望を次のように語る。

「工業高校も、学力の土台は共通教科にあります。共通教科についても、評価・検証の仕組みを確立することが大切です。18年度は産業デザイン科、19年度はすべての科の専門科目、20年度は共通科目というように、着実に取り組みを広げていきたいと考えています」

導かれた道標

評価基準は、生徒にとっては到達目標になる。
生徒が理解できるよう、評価項目は平易な表現に。

●2年生の「コミュニケーション英語II」で、レッスン7「硫黄島の戦い」の全8時間のうちの6時間目。本文のパート3の内容理解をペアワークで行った後、パート4の新出単語の確認と重要文法事項を説明した。(P.37に単元の指導計画を掲載)

毎回、授業の冒頭 10 分間は、副教材（約100語のエッセー）の音読を行う。本時の内容は「マーケティングについて」だった。CDで本文の音声を聴いた後、玉谷先生が重要単語の発音を確認し、再度、本文をリスニング。続いて全員が立ち、隣同士でペアを組んで本文を音読し、読み終えたペアから着席した。

ペアワークを中心に
音読や問題に取り組ませ、
主体的に学びに向かう態度を養う

玉谷先生のアクティブ・ラーニング

生徒自身が問題解決に向けて
能動的に取り組む授業を目指す

学ぶ生徒も指導する教師も、楽しみながら力をつけていく……。それが教師になって以来、玉谷純基先生が目指してきた授業のあり方だ。玉谷先生が千葉県立柏陵高校に赴任したのは3年前。それ以前は、学習塾の英語講師を3年間、高校の非常勤・臨時任用の講師を1年半務めた。



千葉県立柏陵高校

玉谷純基 たまや・じゅんき

教職歴2年。同校に赴任して3年目。英語科担当。5年前、学習塾講師から高校教師となる。本採用となった同校に赴任後、本格的にアクティブ・ラーニングを実践。

千葉県立柏陵高校

◎校訓は「良知・人の心と命を大切に」。「自らの人生を拓く『確かな学力』の育成」を重点目標に掲げ、自己実現を図るキャリア教育と開かれた学校づくりを推進。部活動も盛んで、フェンシング部は全国大会出場常連の強豪。

◎設立 1978(昭和53)年

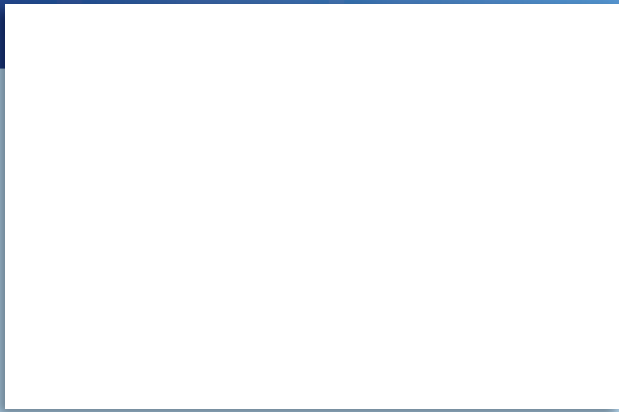
◎形態 全日制/普通科/共学

◎生徒数 1学年約360人

◎2018年度入試合格実績(現役のみ)

私立大は、獨協大、神田外語大、東洋大、日本大、法政大、武蔵野大などに延べ123人が合格。

◎URL <http://saas01.netcommons.net/hakuryo/htdocs/>



自分で教科書を見ながらプリントに取り組む生徒もいれば、「ここには“hard”が入るんじゃない？」などと、友人と話し合いながら解く生徒もいた。玉谷先生は、解答の進み具合を見ながら、「答えは1つとは限らないよ」「お父さんがパイロットというところから考えて」などと、自分で解答できるようヒントを出した。



座席を移動し、パート3のプリントに取り組んだ。プリントは、教科書付属の教材を使用。表面は単語の確認、裏面は本文理解のための穴埋めとTrue/Falseの問題だ。単語は前時に学習しており、本時は裏面の問題に取り組んだ。自分1人で考えてもよいし、隣同士で話し合って解答してもよいことにしている。この間、玉谷先生は机間巡視をし、生徒からの質問に答えた。

当時から意識しているのが、生徒が楽しみながら英語を学べる授業をつくることだ。

「私が高校時代に受けた英語の授業では、英語を使う場面があまりなく、英語を学ぶ理由を見いだせずにいた時期もありました。ですから、授業には、できるだけ英語を書いたり話したりする活動を取り入れ、生徒が『英語を使いたい』『英語をもっと知りたい』と思えるような授業を目指してきました」

そうした玉谷先生がアクティブ・ラーニング（以下、AL）の視点を取り入れた授業づくりを始めたのは、同校に赴任してからだ。教務部主催のアクティブ・ラーニング校内研修会や千葉県高等学校教育研究会英語部会で他校の実践事例に触れたり、校内の互見授業で参観したりして知見を深めていった。英語科に限らず、他教科から学ぶこともあるという。

玉谷先生が授業づくりで特に意識しているのが、授業中、生徒全員が顔を上げていること、そして、主体的に課題に取り組む姿勢を持たせることだ。

「本校の生徒は成績中位層が中心で、中学校までの学習では、とてもできたという成功体験があまりありません。また、高校入試での英語の得点率は高くなく、英語が苦手という生徒もいます。そうした生徒たちに必要なのは、やれたいと自信と、英語ができるようになることだと思えます。毎授業、板書時に洋楽を流すなどの工夫をしてい

るのは、そうした理由からです。生徒が自分で考えて、自分の力ではできないと分かったら、友人と協力して問題を解決していく。生徒が問題解決に向けて能動的に動いていく授業にしよう、指導を工夫しています」

思考の活性化・深化への配慮

導入時に本文に関連した映像を見せ、内容をイメージしやすくする

今回は、「硫黄島の戦い」をテーマとした単元で、全4パートを8時間で展開する。

1時間目は、導入として生徒に背景知識を与えるため、映像資料を視聴させた。「硫黄島の戦い」について、日本とアメリカそれぞれの視点から描いた2本の映画を、玉谷先生がダイジェスト版に編集したものだ。日米両方の立場から戦いを見ることで、これから読むテキストへの期待感を高め、さらに先入観なく向き合えるようにするのがねらいだ。その後は、テキストの流れに沿って、単語の意味、内容理解、文法についての、プリント学習を中心に取り組ませる。プリント学習は、基本的にペアまたは個人で行う。玉谷先生は、3〜4人のグループワークはほとんど行わないという。

「グループワークを行ったこともありますが、英語が苦手な生徒は自分の考えをなかなか言い出せず、英語が得意な生徒だけが学習を進めていく状況になりました。ペアであれば、相手が

パート3が終わると、パート4のプリントを配布。表面にある単語を確認し、答え合わせをした。続いて、パート4で学ぶ完了形の分詞構文について、玉谷先生が解説。残り時間でプリントの裏面の内容理解に取り組んだ。玉谷先生が板書をしている間は洋楽が流れ、リラックスした雰囲気です。

すべての生徒が問題を解き終えたことを確認してから、答え合わせを行った。1問ずつ、生徒を指名したが、答えを言いよんだ場合は、「日本兵は何を作る必要があった?」「上官は兵隊に何を推奨した?」などのヒントを与え、自力で答えられるようにした。最後に、パート3の本文の音声でリスニングした後、全員が起立し、ペアで本文の音読を行った。

場づくりへの配慮

一人ひとりが力を出せるよう 英語力が同じ生徒同士でペアを組む

ペアワークでは、英語力がほぼ同じ生徒同士でペアを組むようにしている。

「英語力に差があると、英語が苦手な生徒は得意な生徒に頼ってしまい、相手の答えを書き写すだけで終わってしまいます。『自分ではできない』を頼る理由にさせないためにも、同じ英語

1人なので自分も発言せざるを得ません。本校の生徒にとっては、1対1が主体性を引き出す最適な方法だと考えています」

本単元の最後の授業では、テキストの感想に関する英作文を課す計画だ。

「英作文では、自分の考えを整理して表現できるよう、結論↓理由1・理由2↓結論という英語の定型文を指導してから書かせる予定です。本文の内容を自分の中にどのように落とし込んだのか、それを自分の言葉で語れているかがポイントになります。生徒が、日本とアメリカの両方の視点から戦争について考えることを期待しています」

AIがテーマの次の单元では、グループでのプレゼンテーションを行う予定だ。AIに仕事が奪われる社会の到来をどう受け止めるのか、AIによって社会はどう変わるのかといったテーマで議論し、発表させるという内容だ。

成果と課題

英語の資格・検定試験に 自ら挑戦する生徒たち

「英語が苦手な生徒同士でペアを組みますが、答えが分からない場合は、座席の前後にいる英語が得意な生徒に質問するよう伝えていきます。また、成績上位層のペアでは、『なぜ、その答えになるのか』といった理由まで踏み込んだ議論に発展することもあります。英語力が同レベルの生徒同士で問題に取り組ませることで、生徒一人ひとりが力を発揮できるようにしています」

生徒たちは得点順に座ることを嫌がらず、むしろ「次の定期考査では2列目から抜け出した」と、意欲を高める生徒が多いという。

力のレベルの生徒同士で課題に取り組むのがベストだと考えています」

そこで、生徒の座席は、直近の定期考査の得点を基に、最前列が最上位、次列が最下位、3列目が2番手、4列目以降はランダムと、あらかじめ決め、定期考査ごとに替えている。座席の移動は、冒頭10分間で副教材の音読終了後に行うようにしている。

玉谷先生が1年次から担当している現2年生は、他学年に比べて英語に対する意識が高い生徒が多い。そして、英語の資格・検定試験に挑戦する生徒も増えており、スコアなどの結果も例年より高い。外国語学部を志望する生徒が現

単元の指導計画

【教科・科目】英語・コミュニケーション英語Ⅱ 【分野・単元】Lesson7 【テーマ・作品】「硫黄島の戦い」

【設定時数】全8時間の中の6時間目 【単元目標】硫黄島の戦いについて、日本とアメリカの両方の立場から考える。

時数	学習内容	身につけさせたい 資質・能力	授業の流れ	教師の配慮	評価方法
1	Lesson 7 導入	• 背景知識を深める。 【知識】	①映像資料による単元の導入	【主体的な学び】 • 映像における、描写の違いから、登場人物の心境の違いを感じ取らせる。	
2	Lesson 7 Part 1	• 仲間と協力して問題を解決できる。 【協働性】 ※2、3、4、5、7時間目も同様。	①新出単語の導入 ②重要文法事項の指導 ③問題演習	【主体的な学び】 • 単語の意味を理解し、声に出して読めるようになる。 • 問題を通して、「なぜ、その答えになるのか」を考えさせる。 【対話的な学び】 • ペアで協力して活動できているか。 【深い学び】 • 知識を深めた上で、各パートの要旨をまとめられるよう促す。 ※2、3、4、5、7時間目も同様。	• 単語の穴埋め
3	Lesson 7 Part 1&2		①解答チェック ②ペアでの音読活動 ③新出単語の導入 ④重要文法事項の指導		• ペアでの音読活動 • 単語の穴埋め
4	Lesson 7 Part 2		①問題演習 ②解答チェック ③ペアでの音読活動		• ペアでの音読活動
5	Lesson 7 Part 3		①新出単語の導入 ②重要文法事項の指導 ③問題演習		• 単語の穴埋め
6	Lesson 7 Part 3&4		①解答チェック ②ペアでの音読活動 ③新出単語の導入 ④重要文法事項の指導		• ペアでの音読活動 • 単語の穴埋め
7	Lesson 7 Part 4		①問題演習 ②解答チェック ③ペアでの音読活動		• ペアでの音読活動
8	Lesson 7 まとめ		• 自分の考えを表現できる。 【表現力】		① Story Reproduction ② 音読リレー ③ Opinion Writing

*玉谷先生作成の単元の指導計画を基に編集部で作成。

生徒の声



時点で20人ほどいるのも、例年には見られなかった傾向だという。

今後は、英語学習に意欲的な生徒を対象に個別補習を実施し、生徒の希望進路の実現に向けた指導を強化したいと、玉谷先生は語る。

「大学での英語の授業は、英語でのディスカッションや英作文などが中心だと聞いています。そうした授業にも意欲的に取り組めるよう、3年次からプレゼンテーションやグループディスカッションなど、よりコミュニケーションを重視した実践的な授業を増やしていきたいと考えています」

秋山芽吹さん ペアで音読したり問題を考えたりすると、自分とは違う読み方や考え方に触れることができ、とても勉強になっています。また、今回の単元では、事前にテキストに関する映画のダイジェストを見ていたので、本文を読んでも、それぞれの場面が具体的にイメージしやすく、テキストの内容により深く入り込むことができました。

渡辺隼人さん 玉谷先生の授業は、

先生の説明を聴くだけでなく、ペアで話し合う時間があったり、長い板書の時も音楽をかけてくれたり、いろいろ工夫してくださるので、あつという間に時間が過ぎます。英語は必ず将来必要とされると思うので、一生懸命頑張って、英語の資格・検定試験にも積極的にチャレンジしたいと考えています。

14:10 前時の復習・本時の目標設定



徳田先生は、本時の課題について、前時の問題プリントに引き続き取り組み、それができたら次の問題プリントに進むよう伝えた。そして、各自で前時の振り返りを読み、本時の目標を立てるよう促すとともに、「前回の授業で、私の解説とは別の方法で解いているよい解法もありました。そういった違いも考えてみてください」と伝えた。

授業
ハイライト

●2年生「化学」で、「溶液」について学ぶ全7時間のうちの5時間目。前時に続いて、炭酸水の入ったペットボトルの圧力を調べる問題プリントに、前時とは違うグループで取り組んだ。解き終えた人から次のプリントに進んだ。(P.41に単元の指導計画を掲載)

主体的・対話的で
深い学びへ

実践
アクティブ・ラーニング

化学

毎授業行う目標設定と 振り返りを通じて、 自分の学び方を確立させる

元々、生物の教師だった徳田憲一郎先生は、現任校で担当することになった化学を学び直した際、自身の学び方を確立させることの大切さに気づいた。そして、現任校に赴任して3年目から、進路指導部長とアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業づくりを研究し、生徒が活動

自分の学び方を確立した、
自立した学習者を育成したい

徳田先生のアクティブ・ラーニング



長崎県・私立長崎南山中学校・高校

徳田憲一郎 とくだ・けんいちろう

教職歴10年。同校に赴任して8年目。
進路指導部キャリア探究課主任。理科(化学)担当。
2013年度から本格的にアクティブ・ラーニングに取り組む。

長崎県・私立長崎南山中学校・高校

◎校訓「高い人格」「広い教養」「強い責任感」を具体化する教育活動として、リーダーシップ教育に力を入れる。タブレット端末を全生徒に配布し、ICT教育を推進。生徒自身にタブレット端末使用のルールづくりや活用法について考えさせる研究も進めている。

◎設立 1940(昭和15)年

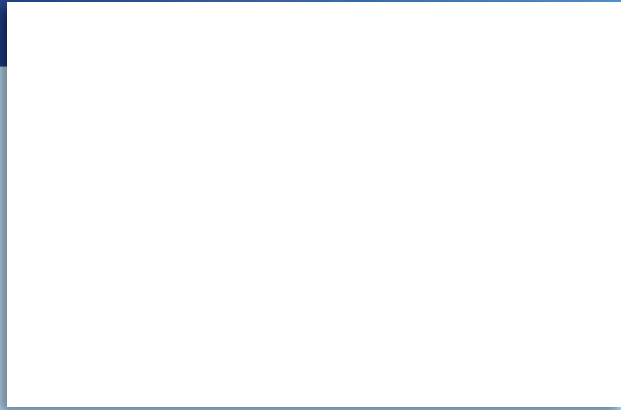
◎形態 全日制/普通科/男子校

◎生徒数 1学年中学校約60人、高校約250人

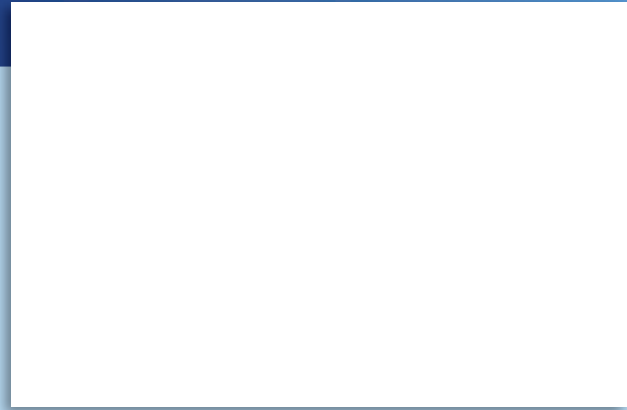
◎2018年度入試合格実績(現役のみ)

国公立大は、筑波大、広島大、長崎大、大分大、長崎県立大などに44人が合格。私立大は、上智大、早稲田大、南山大、同志社大、立命館大、西南学院大などに延べ176人が合格。

◎URL <http://www.n-nanzan.ed.jp/>



授業は、問題を各自で解き、その内容を徳田先生に口頭で説明し、それが合っていたら次の問題プリントに進むという方法で進められた。そのため、生徒によって進度も解き方も異なるが、その違いがあるからこそ学び合いが生まれる。ある生徒は、解法の別解を考え出した生徒から説明を受けて理解した解法を、他のグループの生徒に説明していた。



グループ分けのためのトランプを配布。その際、徳田先生は、「前時では机の配置が偏っていたので、配慮するように」と指示した。「スタート」というかけ声でトランプの数字が同じ生徒が集まり、机を動かしてグループ学習が始まった。徳田先生は、「前回の各グループの解き方は違うと思うから、まずそれをグループ内で共有してみよう」と呼びかけた。

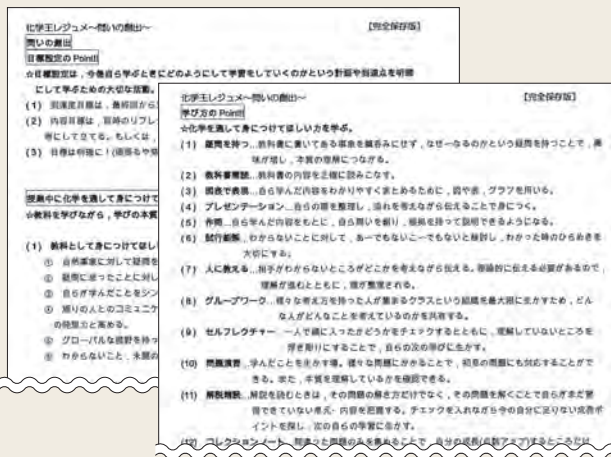


図1 「目標設定のポイント」「教科として身につけてほしい力」「社会に出た時に必要とされる力」「学び方のポイント」をまとめたプリント。
*学校資料をそのまま掲載。

を通して自らの学び方を学べるよう試行錯誤してきた。今、育成を目指す生徒像として掲げるのは、「かけがえのない人とのつながりを大切にしたい」、生涯にわたって主体的に学び続ける生徒だ。

「私自身、大学時代に友人と協力しながら研究を進めてきた経験があり、学びには他者とのつながりが欠かせないことを実感していました。また、社会で活躍している人を見ると、自分で調べたり試したりと、自ら動いて、知識を獲得しています。生徒にもそのような自立した学習者になってほしいと考えています」

そうした考えや、授業を通して身につけてほしい力、学び方のポイントをまとめたプリント(図1)を、年度当初に生徒に配布。生徒が明確な目的を持って学べるようにしている。



図2 最初のうちは振り返りを書くことに戸惑う生徒もいたが、振り返りフレームなどで足場かけを繰り返した後、少しずつ足場を外していくと、10分間でも200字を書けるようになっていった。また、振り返りの内容も具体的になっていったという。徳田先生が「eポートフォリオは、未来の自分へのメッセージ」というように、過去の振り返りを読み、成長を実感できる場にもなっている。
*学校資料をそのまま掲載。

思考の活性化・深化への配慮

授業では、生徒が自身の学び方を習得できるように、教材や他者との対話を促す。基本的に、先生自作のプリントに、教科書や参考書で調べたり、グループで教え合ったりしながら取り組み、最後の10分間で、「〇分点(★)のポートフォリオに、どのように学んだのか、振り返りを記入する(図2)。次の授業では、その内容を読み返し、本時の目標を自分で設定する。

「例えば、『解法を見てから解いても理解が十分ではなく、人に説明できなかった』などの気づきを書く生徒もいます。振り返りをeポートフォリオに残し、それを見返していくうちにどうすればいいのかを考えるようになります。そして、自ら動く必要性に気づき、自身の学び

* 1 株式会社ベネッセホールディングスとソフトバンク株式会社の合併会社である Classi 株式会社が提供する、学校教育での ICT 活用を総合的に支援するサービス。

終了10分前、本時の振り返りを目標文字数200字で「Classi」のポートフォリオに入力。「今日学んだことのうち、分かったことはどうして理解できたのか、分からなかったことはどうしたら理解できたのかなど、気づいたことを書こう」と徳田先生。「最初やったことを思い出して。集中していこう」と言うと、白熱していた議論から一転して、黙々と入力していた。

次の問題は、蒸気圧降下、沸点上昇、凝固点降下の核をつかむための身近なテーマを用いた内容だった。生徒は、教科書や参考書、先生が配布したヒントのプリントなどを見ながら問題に取り組んだ。教卓の上にある先生のパソコンに書かれた問題の解説を見ながら、議論し合う生徒たちもいた。徳田先生は、「あと10分」「あと5分」と随時残り時間を伝えた。

方を確立していく中で主体的に学ぶようになります。自分に最も合う学び方を学び、生涯学び続けられる力を育みたいと考えています」

単元1時間目に、「主体性の芽」である「自身から生まれる問い」を生徒自身が作成する質問づくりワークを行うのもポイントだ。ワークで生まれた疑問を自ら解決したいという思いが、主体的な学びにつながっている。

そして、プリントは、「単元の核」をつかみ、その核から学びが広がるよう、「単元の核となる問い」「探究課題」で構成している。

授業中、徳田先生は教室を回り、生徒からの質問に答えたり、気になった生徒に声をかけた。多かった質問など、全員に伝えたいことは黒板に書く。黒板は全員の共有の財産としており、生徒が黒板に書きながら議論したり教え合ったりしているという。

グループは、配布したトランプが同じ数字の生徒同士で組ませ、毎授業変える。そうすると、各メンバーが得た解き方は異なるため、次の授業では、前時のグループで学んだ解き方を説明し合うといった学び合いが自然と生まれる。

場づくりへの配慮

目線や体の向きなども見取り、 気になるグループに声をかける

解答は個人で行うが、毎回グループを組ませるのは、学び合いをしやすいするため。人数も

いろいろと試し、3〜4人がベストだと分かった。

「個別学習にしたこともありましたが、『自由に話してよい』と言っても、移動して質問するのはやりにくそうでした。グループにすると、隣や前に座っているメンバーと話がしやすく、解き方をちらっと見て、気づくこともあります。また、人数を多くしても、気の合う者同士で分かれてしまうので、3〜4人としました」

徳田先生は、生徒の会話の内容はもちろん、表情や目線、体の向き、筆箱の位置など、生徒の様子を注意深く見ている。そして、グループがうまくいっていない様子が見られたら、生徒同士をつなぐよう、声かけなどをします。

「あまり話さないクラスメートと組むことにもなりますが、どんな人でも協力して問題解決ができる力を身につけてほしいと考えています。その趣旨は、年度始めに説明しています」

成果と課題

生徒間で理解度の差がなくなり、 自分の学び方を確立していく

徳田先生の授業スタイルでは、生徒は疑問を解決してから次に進めるため、生徒間で理解度の差が小さくなる。今回のクラスでは、平均点6割を想定して作問した定期考査で、平均点が8割に達し、7割以下の得点者はいなかった。

「進度が遅れているからと家で取り組んだり、模擬試験の結果を基に苦手分野を分析して勉強

単元の指導計画

【教科・科目】化学 【分野・単元】溶液 【設定時数】全7時間の中の5時間目

【単元目標】溶液で起こる現象を身近な現象として捉え、現象の定義や公式を説明できるようになること。

時数	学習内容	身につけさせたい資質・能力	授業の流れ	教師の配慮	評価方法	
1	質問づくり	<ul style="list-style-type: none"> 溶液の学習内容を俯瞰するとともに、主体性の芽となる「問いをつくる力」を養う。 グループワークを通して、他者の持つ視点を共有しながら自らの問いを高める力を身につける。 振り返り新たな気づきを生みながら、自ら批判的思考を働かせて課題を設定する力を身につける。 問いをつくる過程で、どのような問いを持ってどのような知識が得られるかを理解する。 <p>【思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性】</p>	<p>①トランプを用いてグループ分けを行う。②教科書を読みながら疑問に思ったことをマインドマップシートに記入する。③出した疑問をワールドカフェ方式でグループを変えて共有する。④元のグループへ戻った後、もう一度問いを作成する。⑤出した問いを「開いた問い」と「閉じた問い」に分類する。⑥「開いた問い」を「閉じた問い」に、「閉じた問い」を「開いた問い」に変換する。⑦これまでに生じた問いの中から、「単元の核をつかむために必要な問い」「自分が探究したい問い」の視点で3つ選ぶ。⑧Classiポートフォリオに、学んだことや質問づくりの過程で得たことを記入する。</p>	<p>【主体的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒自身が、質問づくりを通して、日頃の学習においても常に自分に問いかけながら進める大切さを実感している。 単元ごとのClassiポートフォリオを見返すことで、前時の質問づくりで感じたことを確実に次時の単元に生かせるようになっている。 <p>【深い学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> 質問づくりの時間は『例示するとその考えに偏った問いをつくる』ため、例え話をしない。 「開いた問いと閉じた問いへの変換」を行う際、その質問の性質の違いや、そこから得られる情報の重要性を語る。 	<p>【対話的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師の視点が入りすぎないよう、トランプでランダムにグループを分ける。 グループで机の配置を決める際、周囲に配慮して置くように伝える。 「授業は間違えようであり、自分の考えを表現してよい」と伝え、間違っても振り返って修正すればよいという場の雰囲気をつくり、難しい課題にも挑戦できるようにする。 授業が終わった後も考えられるよう、教師の説明及び解答提示のタイミングは生徒自身に選ばせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ポートフォリオ評価
2	探究活動	<ul style="list-style-type: none"> 前時に自分が考えた問いと、それまでの経験や知識、教科書の知識を「関連づける」力を養う。 問いに対して仮説を立てる力を養い、その仮説を実証するための情報を収集し、まとめる力を養う。 身近なものに疑問を持ち、化学という学問が実生活の中どう結びついているかを理解する。 <p>【知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性】</p>	<p>①前時の振り返りを読み返し、本時に解決する問いをマインドマップシートで確認する。②本時まで立てた仮説を基に、教科書やインターネットを用いて情報収集をする。③得た情報を整理して、自分の考えをレポートにまとめる。</p>	<p>【主体的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> Classiポートフォリオへの振り返りを以下の視点のフレームを準備して行う。①問いの設定は適切か。②探究活動で学んだ内容は何か。③分からなかったことは何で、それはどのようにすれば分かったか。④次に挑戦したいことは何か。 <p>【深い学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> 振り返りをClassiポートフォリオに書き、次の授業や単元、家庭学習につなげることが学びを深めることを伝え、その振り返りを、教師からのアドバイスや生徒同士でアドバイスを送り合う相互評価を通して、少しずつ時間を追うごとに深められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ポートフォリオ評価 レポート評価 	
3	希薄溶液の性質	<ul style="list-style-type: none"> 濃度の概念を理解した上で、「固体の溶解度と気体の溶解度の違い」を比較しながら、実生活における問いを探究する力を養う。 蒸気圧降下・沸点上昇・凝固点降下の内容を関連づけ、化学の現象がなぜ起こるのかを説明できる。 グループ分けを通して、周囲への配慮や誰とでも協働できる力を養う。 教材との対話を通して、知識を得る方法(学び方)を学ぶ。 他者との対話を通して、協働しながら学び、問題を解決する力を養う。 グループで出した考えを自分の考えと結びつけ、表現する力を養う。 「単元の核をつかむ問い」や「探究課題」を通して、単元観を身につけるとともに、その問いから生まれる問いを自ら創り出す力を養う。 グループで問題解決に取り組みながら、「授業は間違っても大丈夫な場であり、間違いを振り返りながら学ぶ場」であることを理解した上で、課題に主体的に挑戦できる力をつける。 振り返り自身が学びであることを前提とし、その振り返りを活用して授業と授業をつなぎながら、自らの学び方を深めていく。 振り返りを記入する過程で、自分の活動を表現する力を身につける。 <p>【知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性】</p> <p>※3、4、6、7時間目も同様。</p>	<p>①前時の振り返りを見返し、本時の目標を立てる。②トランプを用いて、グループ分けを行う。③グループで「単元の核をつかむ問い」「探究課題」を解決する。④解決した内容をグループ間で共有したり、教師に確認をしたりして、自らの考えを表現する。⑤Classiポートフォリオへ振り返りを記入する。</p> <p>※3、4、6、7時間目も同様。</p>	<p>【主体的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> Classiポートフォリオへの振り返りを次のフレームを準備して行う。①今回の内容で学んだことは何か。②今回の内容で分かったことは何か。③分かったことはどのようにしたら理解できたのか。④今回の内容で分からなかったことは何か。⑤分からなかったことはどのようにしたら理解できたと思うか。⑥今回の内容で気づいたこと、教訓として残ったこと。 次の授業でそのポートフォリオを見返す時間を設け、その時間の自分自身の目標を設定することで、主体的に授業へ向かうことができる。 <p>【深い学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> 振り返りをClassiポートフォリオに書き、次の授業や単元、家庭学習につなげることが学びを深めるということを伝え、その振り返りを、教師からのアドバイスや生徒同士でアドバイスを送り合う相互評価を通して、少しずつ時間を追うごとに深められるようにする。 <p>※3、4、6、7時間目も同様。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ポートフォリオ評価 教師評価 相互評価(定期考査の振り返り時に実施) <p>※3、4、6、7時間目も同様。</p>	
4						
5						
6						
7						

*徳田先生作成の単元の指導計画を基に編集部で作成。

生徒の声



原健太さん 自分たちで見つけた解法だと定着しやすく、自分なりの問題の解き方が確立されてきました。メンバーから毎回違う視点での解法を覚えてもらえるのが、とても勉強になります。また、後で問題が解けなくなった時に、ポートフォリオを読み返せば、自分がどうやって理解していたのかを思い出せて、同じ間違いはしないようにと理解が深まります。

藤川凜人さん 化学は暗記科目だと思っていました。徳田先生の授業を受けてからは、自分で考えて問題を解き、しっかり理解することを大切にしています。学び合っても、相手に分かるよう簡単に説明しようとするので、自分の理解も深まります。毎回振り返りを書くことにより、短時間で意見をまとめる力もついてきました。

したりと、自分で学習する姿が見られます。そうした自分なりの学習法がさらによくなるよう評価し合う場を設けることが、私の次の課題です」

定期考査後には、それまでの振り返りから自身の学習法を見直したり、生徒同士で相互評価をしてアドバイスし合う活動を行ったりしている。他者の視点が入ったそうした振り返りを、普段の授業でも取り入れられないか考えている。

徳田先生自身も、授業を振り返って改善点をメモし、それを基に次の授業で修正したり、年度途中でも方法を変えたりしている。今後も、生徒とともによりよい授業をつくっていく考えだ。

秋田県・私立秋田修英高校

学力向上・多様な希望進路の実現

全教師が連携して

生徒一人ひとりと向き合い、

意欲的な学習集団を形成

変革のステップ

背景と課題

- 生徒の学力向上とともに、スポーツコース設置以降に多様化した希望進路への対応が課題だった

実践内容

- **「修英タイム」の設定** 全コース・全学年で毎日25分間の「修英タイム」を設定し、月～木曜日には学び直し、金曜日には1週間の振り返りを実施。また、生徒が「やればできる」と実感できるように、全国規模のアセスメントで学び直しの成果を定期的に測定
- **学び直しに特化した学校設定科目の開設** 進学文化コースの1年次に、学び直しのための学校設定科目「基礎国語」「基礎社会」「基礎数学」「基礎英語」をそれぞれ週1時間開設。「修英タイム」で芽生えた学習意欲をさらに高めることを目指した
- **少人数制の進路指導の推進** 2年次の3月以降、希望進路が類似している生徒5～6人を1つのグループとし、各グループを教師が1人ずつチューターとして担当し、進路指導に力を入れた

成果と展望

- 粘り強く学習する生徒が目立つようになった
- 高い希望進路を設定し、挑戦する生徒が増加

PROFILE



建学の精神・校訓に「勤勉・誠実・奉仕」を掲げ、次代の社会を担う有為な人材の育成を目指している。進学文化コースとスポーツコースから成り、両コースとも2年次から教養・ビジネス・福祉の3系列に分かれる。

設立	1959(昭和34)年
形態	全日制・通信制/総合学科/共学
生徒数	1学年約40人

2018年度進路実績(現役のみ) 私立大は、八戸工業大、東北工業大、東日本国際大、作新学院大、平成国際大に延べ6人が合格。短大、専門学校進学6人。就職23人。

住所	〒014-0047 秋田県大仙市大曲須和町1-1-30
電話	0187-63-2622
Web site	http://www.akitashuei.net

スローガン「修英メソッド」の下、 全校体制で学力向上を推進

秋田県・私立秋田修英高校は、全校生徒数約150人(全日制約120人、通信制約30人)の小規模校だ。生徒は明るく素直であり、生活態度も落ち着いているが、学力に課題があった。また、スポーツコースを設置してからは、生徒の希望進路がより多様化する傾向にあり、生徒一人ひとりが目標に積極的に挑戦できるように、支援を強化することが最重要課題だったという。そこで、2008年度、学力向上と多様な希望進路の実現を柱とする指導改善を全校体制で推進することにした。現在は、「愛情ある、諦めない、同じ方向を向いた指導と、生徒のよ

*1 ベネッセのアセスメント「進路マップ」の1つで、義務教育範囲の学び直し専用プリント教材。
*2 ベネッセのアセスメント「進路マップ」の1つで、義務教育範囲も含めた基礎学力を測るマーク式テスト。

さを認めてさらに伸ばすための手厚くきめ細やかな指導」の実現を目指すというスローガン「修英メソッド」を打ち出し、教育活動の根本指針としている。教務主任の石田奈津子先生は、次のように語る。

「基礎学力は、将来どのような道を歩むにしても必要になります。しっかりと定着させて、社会や上級学校に送り出したいと考えました。また、教師が生徒一人ひとりと密接にかかわりやすいという小規模校の強みを生かせば、生徒の成功体験を充実させることができます。学校が一丸となり、そうした目標の達成を図っています」



秋田県・私立秋田修英高校
石田奈津子 いしだ・なつこ
教職歴29年。同校に赴任して25年目。教務主任。「先入観なく生徒を見つめ、3年間をかけて成長を手助けできる教師でありたい」

秋田県・私立秋田修英高校
高安美樹子 たかやす・みきこ
教職歴24年。同校に赴任して11年目。進路指導主事。2学年主任。「人生の先輩者として、また、ともに歩む者として、生徒を支えたい」

秋田県・私立秋田修英高校
大日向力 おおひなた・ちから
教職歴23年。同校に赴任して24年目。教務部情報部主任。「1人でも多くの生徒に数学の魅力を支えらるる教師でありたい」

秋田県・私立秋田修英高校
畑山あゆみ はたやま・あゆみ
教職歴7年。同校に赴任して8年目。通信制課程主任。教務部。「常に『よりよきしょう』と心がけ、生徒の進歩を見守りたい」

習熟度別・少人数制の学び直しで、生徒の課題にきめ細かく対応

指導改善の中軸を担う取り組みが、定期考査期間や行事などがある日を除いた毎日、全コース・全学年で設定されている13時25分～50分の「修英タイム」だ。

月～木曜日には、「修英チャレンジ」として、小・中学校段階の国語・数学・英語の学び直しに取り組む。生徒一人ひとりの課題に丁寧に応じられるよう、習熟度別の少人数制クラスを編成。校長を除く全教師が分担し、各クラスを複数の教師が指導している。以前は学校独自の教材「修英検定」を用いていたが、多様な分野から幅広く出題したり、生徒間の学力差に対応して作問したりするのが難しく、生徒の実態を反映した問題にしきれいなくなったという。そこで、16年度からは、「マナトレ」(*1)を活用している。さらに、マナトレで学習した成果を客観的な指標で測れるよう、「基礎力診断テスト」(*2)を定期的に実施することにした。そのねらいを、進路指導主事で2学年主任の高安美樹子先生はこう話す。

「生徒には、堂々と学び直しをしてほしいと思っています。他校でも活用されているマナトレであれば、生徒は『自分たちだけが取り組んでいる特別な問題』といった意識を持たず、より前向きな気持ちになれると考えました。また、基礎力診断テストでは、生徒は

マナトレを頑張れば頑張るほど、GTZ(*3)が上がる実感できます。そうして生徒に『やればできる』と実感させ、学習意欲を伸ばしたいという思いもありました」

マナトレのプリントは、1日1枚以上取り組むことが目安だが、生徒の実態に応じた柔軟な指導を重視するため、学年団では生徒の学習状況の把握に力を入れ、課題がある生徒にはこまめに声をかけている。ある学年で効率的な進捗管理のアイデアが生まれると、他学年にも浸透していくという。例えば、17年度の2年次では、表計算ソフトで作成した「学習状況チェックシート」を用いたが(図1)、それは、18年度には全学年で活用されている。同シートを発案

図1 「修英チャレンジ」における「学習状況チェックシート」

H30 修英チャレンジ 3年生 学習状況チェックシート									
①標準=		②挑戦=							
2018/11/7		(上段=10~7級まとめ)							
組番	氏名	コース	級	STEP 1	STEP 2	STEP 3	STEP 4	STEP 5	STEP 6
		①標準	(10-7)-6	4/26	4/26	4/27	4/27	4/27	4/28
			5-4	8/27	10/25	10/25	10/25		
		①標準	(10-7)-6	4/26	4/27	4/27	4/27	5/7	5/28
			5-4	8/27	8/27	9/5	9/5	10/25	10/27
		①標準	(10-7)-6	4/26	4/26	4/27	4/27	4/27	5/28
			5-4	8/27					
		①標準	(10-7)-6	4/26	4/27	5/28	5/28	5/28	6/4
			5-4						

マナトレの進捗状況を一覧化することで、課題がある生徒をいち早く見つけ、声かけができるようにした。18年度からは全学年で活用されている。

*学校資料を基に編集部が一部改編。

*3 ベネッセのアセスメントにおける共通の学力評価指標、「学習到達ゾーン」のこと。「S1」～「D3」までの15段階で評価される。基礎力診断テストでは、そのうち「A2」～「D3」で評価される。

した情報部主任の大日向力先生は、こう語る。

「17年度、『学習状況チェックシート』を試験的に活用したところ、生徒の頑張りが課題をより把握しやすくなり、生徒の実態にこまめに応じられました。そこで、18年度は、活用の成果を先生方に伝え、表計算ソフトで作成したデータを各学年に渡しました。教師一人ひとりの工夫を学校全体で共有し、生徒の実態把握を深めていきたいと考えています」

マナトレの各級のプリントを解き終えた生徒には昇級テストを行い、合格者の氏名を生徒用昇降口に掲示して表彰している。掲示が更新されると、それを見に来る生徒が多いという。通信制課程主任の畑山あゆみ先生は、こう話す。

「昇級テストに合格した生徒は、掲示された自分の氏名を見ればうれしく、『もつと頑張ろう』と思うでしょう。一方、合格できなかった生徒も、クラスメートや上級生・下級生の頑張りを知り、刺激を受けるようです」

文章による振り返りを重視し、生徒の気づきを促す指導

金曜日の「修英タイム」では、「学校生活振り返り表」を活用し、1週間の振り返りを行う(図2)。「学校生活」「授業」「整容」の3つの観点から、1週間の反省点や今後の課題などを文章にまとめ、次週の目標を設定する。

「自分で立てた目標であれば、『頑張つて達成しよう』という意欲が生まれます。すぐに

図2 「学校生活振り返り表」

No.	項目	評価
1	大きな声であいさつができていますか。	5・4
2	時間を守った生活ができていますか。	5・4

9. 自分自身の1週間の学校生活を振り返り、チェックしてください。
[5点:よくできた 4点:まあまあ良くできた 3点:良くもなく悪くもなく 2点:あまりできなかった 1点:全くできなかった]

10. 目標を達成できましたか。反省点と今後の課題を考えてまとめてください。
(校内でいじめなどの気になることや相談事があれば、それも含めて書いてください)

「学校生活」「授業」「整容」の3つの観点について、5段階で自己評価したり、反省点と今後の課題を記述したりする欄、また、担任のコメント欄がある。
*学校資料を基に編集部が一部改編。

は達成できなくても、こまめに自分の成果と課題を確認すれば、着実な前進につながります。そうした日頃の積み重ねの大切さを伝えたいと考えました。また、文章による振り返りを行い、生徒の内省をさらに深めたいという思いもありました(高安先生)

「書く」取り組みには、学年団が独自に行うものもある。例えば、18年度の2学年では、振り返りの場を増やすため、行事ごとに作文を書かせることにした。文章にまとめる中で、自分の頑張りが課題に改めて目を向けたり、クラスメートと協働する意義に気づいたりする生徒が多いという。筆が進まない生徒には、書きやすくなるよう、担任が「君はあの場面でよいこと

を言ったよね」などと声をかける。ほかにも、18年度の2・3学年では、毎日の朝学習の時間に新聞記事を読ませ、感想を書かせている。

「書く」指導で最も意識しているのは、生徒の『書きたい』という意欲の醸成です。そこで、『うまく書く』としなくてもよいから、たくさん書こう』と繰り返し呼びかけています。そうして自分の考えを文章で述べる習慣が定着していけば、大学の志望理由書や企業のエントリーシートの作成にも役立ちます(大日向先生)

「自学ノート」を継続し、学習の「量」から「質」への転換を図る

学力向上対策としては、学び直し「修英チャレンジ」のほかに、2つの柱がある。

1つは、進学文化コースの1年次の学校設定科目「基礎国語」「基礎社会」「基礎数学」「基礎英語」だ。いずれの科目も中学校段階の学習内容を扱い、週1時間、教科担当がT1、他教科の教師がT2となるチーム・ティーチングを行う。

「マナトレを活用した学び直しにより、生徒は学習に自信を持ち、前向きに取り組むようになっていきます。そうした意欲をさらに伸ばせるよう、学び直しのための科目を設置しました(石田先生)

もう1つは、自主学習を充実させることを目指し、全コース・全学年で行っている「自学ノ

自校の指導ツールを他校の教師とともに検討し、各校の生徒特性に合った形へ改善を図る本コーナー。今回は、1、2年生の三者面談で語り合うべきテーマや面談後の生徒への声かけなどを整理する三者面談シートについて検討する。

長野県屋代南高校 高橋正俊先生提供
「三者面談シート」

Before

学年 *年*組 *組名*	面談日時	①学業成績 通知表	②学習面 学校での様子	③部活動	④進路について	⑤ご家庭より	⑥その他
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							

課題

- 1 保護者からの相談事が中心の三者面談になってしまい、生徒の発言機会が少なくなることがある
- 2 話されたことがその場限りになり、次回以降の二者面談、三者面談につながっていかないことがある

検討メンバー



ツール提供者

長野県屋代南高校
高橋正俊
たかはし・まさとし



福井県立高志高校
西 繁寿
にし・しげひさ



福岡県立東筑高校
辻本貢士
つじもと・こうじ

三者面談に軸をつくり、
生徒が語る場面を増やしたい

長野県屋代南高校の高橋正俊先生は、1、2年生の三者面談において、事前に面談で取り上げたい話題をメモしておいたり、面談中の生徒や保護者の発言を書き留めたりするための三者面談シートを活用してきた。シートには学習や部活動、進路など、1、2年生の生徒の状況を多角的に把握する観点が設けられており、実際の面談でも話題は多岐に広がるが、時折、保護者との世間話のようになってしまいうことが気がかりだという。また、保護者からの相談事が中心となる場合もあり、保護者と教師との二者面談のようになってしまったため、生徒が語る場面を増やしたいという課題感も持っていた。

1、2年生 三者面談シート

After

改良ポイント

① 三者面談の山場を明確にし、三者が語り合う場をつくる

三者面談の山場を「生徒を褒める」「生徒を励ます」「生徒が決意する」とし、面談前の話題整理から面談当日での生徒の発言までをその山場につなげていく。

② 面談後にかけるべき声と次の面談での課題を整理

三者面談の中で発せられた生徒の決意や宣言を見守っていくために、後日どのような声をかけるか、次の面談で確認すべきことは何かを書き留めるようにする。



三者面談シート

年 組 番 氏名

記入日 月 日

面談前	面談で話題にすべきことの事前整理	<input type="checkbox"/> 生徒が面談で保護者に伝えたいこと <input type="checkbox"/> 生徒と保護者の進路観のズレ <input type="checkbox"/> 担任からの提案や質問
	面談中での生徒自身による今学期の振り返り	
面談当日メモ	上記を踏まえて	
	保護者に伝える「生徒の褒めどころ」	
	生徒に伝える「励まし・課題」	
	生徒が発する「決意・宣言」	
	保護者からの要望など	
面談を終えて	後日、生徒にかけたい前向きな言葉	
	次の面談に向けて	

次ページでは、3人の先生方の検討の様子をダイジェストで紹介!

「何を語り合うか」よりも「何のために語り合うか」を重視

1、2年生の三者面談は、生徒が保護者や教師の前で「これからはこうありたい」と前向きに未来を語り、決意表明をする場でありたい。そのためには、教師が保護者の前で生徒を肯定的に評価し、生徒に自信を持たせる場面も必要である。また、生徒が決意表明した内容について、その場限りで終わらないように、三者面談後に教師が生徒に意図的に声かけをすることも重要だ。そこで、面談で話題とする観点を広げること以上に、三者面談前・当日・面談後という時間の経過の中で、生徒が自己肯定感を高めながら新たな挑戦を決意すること、それを教師と保護者が見守ることを、三者面談の軸として重視することとした。



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト (<https://berd.benesse.jp>) からダウンロードできます。「HOME → 教育情報 → 高校向け → 生徒指導・進路指導ツール集」をご覧ください。

1、2年生 三者面談シート



生徒が「これから」を語れる
雰囲気をつくるファシリテーターに

三者面談のねらいは、学年や時期によって異なるが、1、2年生の三者面談で共通するのが、「今後、どうありたいか」を生徒自身に語らせることだ。ただ、目標やその実現のためにするべきことを具体的に語れない生徒も少なくない。その原因は、目標が具体化していないことにある場合もあれば、自分に自信がなく、保護者や教師の前で言葉にすることができないといったことにある場合もある。そのため、三者面談の前ではまず、生徒のよさを教師が保護者の前で確認することで、生徒、保護者にそれぞれの思いを語らせやすくしよ

活用の流れ

1

面談前に、①生徒が考えておくこと、
②生徒が保護者と話しておくことを
生徒と整理する

2

「生徒を褒める」「生徒を励ます」
「生徒が決意する」という観点を
重視した面談を実施

3

面談後の声かけに対する生徒の反応などを
「三者面談シート」にメモした上で、
次回の面談資料として活用する

うと意見が一致した。生徒を褒めた上で、教師が「努力が必要なこと」を述べれば、生徒は「今後取り組みたいこと」を言葉にしやすくなるだろう。

三者面談においてファシリテーター的な役割を務める教師には、三者面談で何を話題にするか、ある程度事前に整理しておくことは必要だ。しかし、語り合うべきことの真の優先順位が分からない生徒も少なからず存在する。三者面談の事前準備も一律に対応できるものではなく、「このことについて事前に家庭で話しておきなさい」と教師から伝えたり、「三者面談で話題にしてほしいことは何？」と生徒に尋ねたり、個別対応が重要であるといった意見も聞かれた。

検討メンバーの先生に、自身の指導観や自校の生徒特性を踏まえて、
ツールの活用方法や留意点などをお話いただきました

生徒が勇気を持って「To Do」を語れる面談をつくる

長野県屋代南高校 高橋正俊 たかはし・まさとし



三者面談シートには、面談当日に何を聞き、何を伝えるかをメモしたり、生徒や保護者から聞いたことを書き留めたりしていました。

ただ、いろいろなことについての話はできたとしても、次にしっかりとつながっていないような、漠然とした不満・不安を感じる面談になることもありました。また、私と保護者の間で話が弾んでしまい、生徒にもっと話をさせたかったと反省することもありました。今回、お二人の先生とお話をする中で、私を感じていた不足は、生徒自身がこれから語る場面の有無に起因するものだと納得しました。面談が終わった後、生徒と私の間に「To Do（するべきこと）」が共有できる状態を目指したいです。

また、先生方と語り合う中で、生徒に数値目標を宣言させることを躊躇（ちゅうちゅう）していた自分に気づきました。生徒の失敗を先回りして私が臆していたのかもしれない。生徒自身が自分に必要なことだと納得して宣言できる目標を、勇気を持って語れる面談を、生徒を肯定しながらつくっていききたいです。

高橋先生プロフィール 教職歴18年。同校に赴任して6年目。進路指導係。数学科担当。「生徒の可能性を見極めて、攻めの進路指導を行う」学校プロフィール 全日制／普通科、ライフデザイン科／共学／1学年約120人／2018年度進路実績（現役のみ）／私立大は、城西大、駿河台大、長野大、松本大などに延べ7人が合格。短大、専門学校進学61人。就職39人。

揺さぶりをかける事前の仕かけも時には必要

福井県立高志高校 西 繁寿 にし・しげひさ



三者面談の時間は1組10分程度なので、事前に行う保護者へのアンケートや生徒へのヒアリングなどを通して、話題の焦点をあらかじめ想定しています。生徒に「面談前に保護者の方とこのテーマについて話しておいて」と伝えることもあります。その時のテーマは、生徒と保護者が話し合いを避けてきたものにあえてします。そうすることで、生徒と保護者に揺さぶりをかけるのです。それも両者の本音を引き出すための1つの方法です。三者面談では、あれこれ話題にしたくなりがちですが、短時間でこれまでを振り返り、これからを考えるのであれば、話題を拡散させる必要はありません。

今回の検討会では、「保護者の前で生徒を褒める」ことの大切さが話題になりました。私も生徒の次につながるような褒め方を心がけています。「今の君の頑張りをみると、きっと将来、こんなふうになれるはず！」などと、先輩生徒の例を挙げつつ、今取り組んでいることを肯定しながら、無理なく背中を押す声かけができるとよいですね。

西先生プロフィール 教職歴26年。同校に赴任して5年目。教務部。数学科担当。「何気ない1日1日を大切に」

学校プロフィール 全日制/普通科。理数科/共学/1学年約350人/2018年度入試合格実績(現浪計)/国公立大は、東京大、名古屋大、京都大、大阪大などに216人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、東京理科大、早稲田大、同志社大、立命館大、関西学院大などに延べ426人が合格。

教師は、生徒を本気で褒める材料を持つべき

福岡県立東筑高校 辻本貢士 つじもと・こうじ



三者面談のメリットは、親子の関係が目の前で確認できることです。進路選択における両者の価値観を把握することは、とても大切です。そして、生徒のやる気のスイッチを保護者の前で押せることも、三者面談の醍醐味です。成績が振るわない、部活動で挫折を経験したなど、壁に直面する生徒に対して、例えば、日々の清掃に取り組み姿勢など、些細なことでも教師が本気で褒めれば、保護者の子どもに対する見方は前向きなものになります。平素の生徒の姿をしっかり認めた上で、「この子はすごいものを持っている。でも、自分を信じ切れていない。それが私はとても悔しいんです」などと教師が本気の思いをぶつければ、生徒も保護者も耳を傾けてくれるはずです。

三者面談に限らず、生徒は自分という存在を認めてくれない相手の言葉には、なかなか耳を貸そうとはしないものです。そのため、生徒と向き合う時に私たち教師が一番問われるのは、その生徒を褒める材料をどれだけ持っているかだと思います。

辻本先生プロフィール 教職歴21年。同校に赴任して10年目。教育推進部教務班主任。数学科担当。「自分で考え、自らの意志で行動できる生徒を育てたい」

学校プロフィール 全日制/普通科/共学/1学年約320人/2018年度入試合格実績(現役のみ)/国公立大は、東京大、京都大、大阪大、九州大などに178人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大、同志社大、立命館大などに延べ196人が合格。

改良したいのに、どうすべきか分からない……

指導ツールを募集しています!

「改良! 指導ツール ビフォーアフター」では、取材にご協力いただける先生及び取材で検討させていただく「指導ツール」を募集しています。「自校で長年使っているツールを見直したい」「ツールのより効果的な活用法を検討したい」といった、課題意識をお持ちの先生方のご応募をお待ちしております。

〈個人情報の取り扱いについて〉をご確認いただき、必要事項①~④をご入力の上、指導ツールを添付して下記のe-mailアドレスにご送信ください。

※送信前に一度、生徒情報が削除されているかご確認をお願いいたします

- ①学校名・お名前
- ②分掌・ご教職歴
- ③ツールの内容(目的・活用時期・活用方法)
- ④ツールに対する課題意識、改善要望

view21_since-1975@mail.benesse.co.jp

〈個人情報の取り扱いについて〉 この「改良! 指導ツール ビフォーアフター」のツール募集でご提供いただく個人情報は、今後の企画を検討する目的で利用いたします。お客様の意思によりご提供いただけない部分がある場合、手続き・サービス等に支障が生じることがあります。また、商品発送等で個人情報の取り扱いを業務委託しますが、厳重に委託先を管理・指導します。個人情報に関するお問い合わせは、個人情報お問い合わせ窓口(0120-924721、通話料無料、年末年始を除く、9時~21時)にて承ります。(株)ベネッセコーポレーション CPO(個人情報保護最高責任者) 上記をご承諾くださる方はご送信ください。



LGBTなど性の多様性を学ぶ先端的な科目を設置し、時代を創る人材を育成

早稲田大学 文化構想学部

性の多様性に関する 新しい学問分野について学んでいます

セクシュアルマイノリティ（*1）の社会運動の歴史や性の多様性を扱う「クィア・スタディーズ入門」という授業では、性に関する正しい知識がなければ人を傷つけることもあると学びました。（石山さん）



少人数でじっくり語り合いながら 学べる環境です

少人数の授業が多く、車座になって行う『演習』では、互いの考えを語り合うことが重視されます。仲間や先生の意見を聴き、自分の世界がいかにかいかに思い知りました。（中村さん）

授業で学んだ知識を生かし LGBT関連の学内イベントを企画

法学部所属ですが、文化構想学部の授業も履修中です。クィア・スタディーズ専門の森山先生に、セクシュアルマイノリティへの差別表現を考えるイベントにもご参加いただきました。（春藤さん）



現代人間論系では、「性の多様性」を研究する新しい学問分野「クィア・スタディーズ」に関する授業を設置している。「クィア・スタディーズ」とは、セクシュアルマイノリティに関する学術的議論および社会運動の中から生まれた、人々の性と身体があり方およびそれを支える社会制度

クィア・スタディーズなど 先端的な科目を多数設置

早稲田大学文化構想学部は、既成の学問的な枠組みを超え、新たな学問領域を学生自らが創出することを目指して2007年に設立された学部である。6つの論系（*2）が設置され、それぞれ先端的な学びが取り入れられている。



文化構想学部
文化構想学科4年
石山桃子

いしやま・ももこ
山形県立山形東高校卒業。
幅広い履修が可能という特徴にひかれ、同学部に入学。



文化構想学部
文化構想学科3年
中村友理奈

なかむら・ゆりな
東京都立国際高校卒業。
教育問題に関心があり、同学部に入学。



法学部3年
春藤優

しゅんどう・ゆう
千葉県・私立昭和学院秀英中学校・高校卒業。法学部所属だが、文学部や文化構想学部の授業を履修中。

*1 性的少数者。性のあり方（性的指向、性自認など）が、何らかの意味で多数派と異なる人々のこと。一般に、LGBTといわれるレズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダーだけでなく、それ以外の性的少数者も含まれる。 *2 多元文化論系、複合文化論系、表象・メディア論系、文芸・ジャーナリズム論系、現代人間論系、社会構築論系の6つ。

を検討する学問分野だ。その分野を専門とする森山至貴専任講師の授業「クイア・スタディーズ入門」では、多様な性を生きる他者あるいは自身を理解する目的で正しい知識を伝えている。同授業の受講生には、セクシユアルマイノリティ当事者の学生も少なくない。

文化構想学部4年生の石山桃子さんは、「LGBTはセクシユアルマイノリティの一部ではないなど、性の多様性に関する正しい知識を学び、自分の考え方が深まりました」と話す。

分野横断的に学びながら 2年次に論系を決定

同学部では「クイア・スタディーズ」以外にも、「ジェンダー」「フェミニズム」「セクシユアルティ」などのトピックに関する演習、ゼミなどを多数開講している。様々な専門分野を持つ教員が在籍しているため、学生は、1つのトピックを社会学、法制度、文学など多様な観点から分野横断的に学ぶことができるのが特徴だ。文化構想学部3年生の村友理奈さんが印象に残ったのは、10人程度で、文学作品を深く読み込

み、ジェンダーの問題を考える授業だったという。

「仲間や先生の発言から気づかされたことも多く、多様な視点で考えるきっかけになりました。入学時は教育に興味がありました。ジェンダーについて関心が高まり、現代人間論系に進みました」（中村さん）

同学部では、学生の興味に合わせ先端的な科目を分野横断的に学べるよう、2年次からいずれかの論系へ進級する「1・3制カリキュラム」を導入している。1年次の必修科目は、6つの論系の概要を学ぶ「基礎講義」に加え、大学での学び方を学ぶ「基礎演習」と「基礎外国語」の3つのみだ。自由に学びながら道を模索できるのが特徴だ。

学部を越えて履修可能な オープン科目が多数

同学部では、所属する論系のコア科目を学ぶとともに、文化構想学部と文学部にまたがる1000にも及ぶ「ブリッジ科目」を選択して学習することができる。また、学部・学年にとらわれず、全学生が履修できる「オープン科目」も設置されている。そうした環境を利用して文化構

想学部や文学部の授業を履修しているのが、法学部3年の春藤優さんだ。

春藤さんは、キャンパスのダイバーシティを推進する学生団体に所属しており、セクシユアルマイノリティに関する正しい知識を得たいと森山先生の授業を履修している。

「他学部の授業を受けていると、法学部の自分とは違う見方を持つ仲間と話せることが、刺激的です」

ゼミのディスカッションで 知識を深める

石山さんは、森山先生のゼミに所属している。3年次前期は文献講読、後期は先行研究のレビューを行い、4年次から卒業論文に取り組み。ゼミでは、ゼミ生同士のディスカッションが、重要視されている。

「高校時代にはセクシユアルマイノリティという言葉すら知りませんでした。知識のなさから、考えていることがうまく言葉にできず悩んだとき、森山先生が的確なヒントを出してくれました。回を重ねるごとに理解が深まり、世界が広がりました。卒業研究では、セクシユアルマイノリティサークルの重要性について調べたいと思っています」（石山さん）

大学の思い

学び合い高め合える環境を 学生自らが創造してほしい



文化構想学部
専任講師
森山至貴
もりやま・のりたか

文化構想学部では、既存の学問の分野を横断しながら学び、新しい時代を切り開いていくことができる学生を育てたいと考えています。必修科目を少なくしているのも、自らの学びを自分の手でデザインしてほしいという考えからです。そして、自分の関心を突き詰めるには「既存の学問の枠から出る必要性がある」と、気づいて卒業してほしいです。そのため、演習やゼミは少人数制で、多様な価値観を持つ仲間との学び合いを重視しています。我々教員は、議論が深まるような問いかけを心がけています。仲間と議論する中で、互いが個性的な知性の持ち主であることに気づいてほしいのです。視野の広がりこそが、学びを大きく飛躍させます。

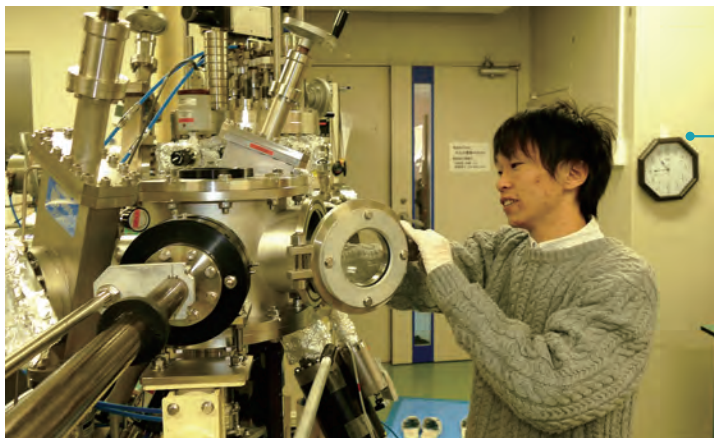
また、本学では、学内のダイバーシティを推進し、多様性のある学生が自由に学び合える場を整えています。「クイア・スタディーズ」など新しい学問分野の授業を開講するほか、セクシユアルマイノリティの学生を支援するGSセンター（*3）を設置するなどの取り組みを行っています。

*3 Gender and Sexuality Center。性の多様性を尊重し、学生に対して様々なサポートを行っている。



分野横断型のハイブリット工学を学び、 次世代の国際産業リーダーを目指す

豊田工業大学 工学部



社会に貢献できるよう 実用化を意識し、研究中

データセンターなどで使われるハードディスクなどのストレージを省電力化できないか研究中です。自分の研究が実用化したら、社会へのインパクトは大きいはずだと考え、日々視野を広げ、勉強を続けています。(松本さん)

学生だけで試行錯誤しながら、 1年かけて電気自動車を作成

「創造性開発実習1・2」では、ラジコンカーを改造して、障害物を乗り越える車を作りました。アイデアはたくさん出てきたのですが、それを1つの形にすることが難しかったです。(中谷さん)



学部1年生は全員、寮に入り、 自主性や協調性を磨きます

1年生は全寮制です。私は寮生サポーターとして2年次以降も寮に残り、後輩をサポートしました。多様な人が集まる中で自分はどうか動くべきか、意識するようになりました。(松本さん)

豊田工業大学は、トヨタ自動車株式会社社会貢献活動の一環として設立した大学だ。次世代の国際産業リーダーとなる人材の育成を使命とし、先端ハイブリッド工学教育を行っている。その特徴は、複雑化・複合化する科学・技術に対応するために、1・2年次は「機械システム」「電子情報」「物質工学」の3つの分野を横断的に学び、3年次に3つの分野から主専攻を決定する。

4年生の中谷明日佳さんは、2年次に履修する「工学基礎実験1・2」の光学に関するテーマで干渉縞（*）を観察して興味を持ち、主専攻

1・2年次は3分野学び、 3年次に主専攻を決定



工学部
先端工学基礎学科4年
松本 憩
まつもと・けい
岐阜県・私立麗澤瑞浪中学
高校卒業。大学院でデバイ
スの研究に取り組む予定。



工学部
先端工学基礎学科4年
中谷明日佳
なかたに・あすか
愛知県立瑞陵高校卒業。
大学院に進学し、光ファイ
バーの研究を続ける予定。

* 1 複数の単色光源が空気などの媒体の中を伝わる際、それぞれの地点で波の振幅が合成されたものとなるため、縞模様が見られる現象。

を決めたと言う。

「光の実験を担当した先生が、医療にも応用できる光ファイバー技術の研究をしていました。その研究が進めば、従来型の内視鏡では見ることのできなかつた病気の症状を確認でき、カテーテル（*2）に応用されれば患者の体の負担を減らすこともできます。そうした光ファイバーの技術開発に興味を持ち、先生の研究室のある『物質工学』を主専攻にしました」

複数分野の専門知識を得る 副専攻も修得可能

3年次に主専攻を1つに決めるが、ハイブリッド工学をベースとする同学部では、副専攻（*3）を得ることもできる。過去3年間の実績では、4割以上の学生が副専攻を認定された。4年生の松本さんと中谷さんは、主専攻とは別に2つの分野の副専攻修得を目指す。

『電子情報』を主専攻とし、情報を記録する装置であるメモリの省電力化について研究中です。実用化を目指すには1分野の視点だけでは足らず、システム制御等に関連のある『機械システム』やデバイスのハ

下面で関連のある『物質工学』の知識も不可欠だと感じました。3分野を学んだからこそ、課題に取り組む時にも、いろいろな視点から解決策を考えられるようになりました」（松本さん）

「1年次と3年次に、約1か月間、インターンシップに参加しました。授業で学んだ工学知識が現場でどのように応用されているのかを知るとともに、分野を超えて学ぶ必要性を意識しました」（中谷さん）

3分野を学ぶと、卒業に必要な132単位を大きく上回り、170単位程度を履修することになる。

そうした学生の学びをサポートするため、同大学では、学生一人ひとりに「アカデミックアドバイザー」と呼ばれる担当教員がつく。学生が学習や大学生活の悩みを相談できる機会として、年2回の面談がある。

「3年次の専攻に迷っていた際、面談で担当の先生にじっくり相談できたのが心強かったです」（松本さん）

1年生は全員が寮生活で、 社会人基礎力を高める

同大学では、学部1年生は全員寮に入り、1年生7人と上級生の寮生

サポーター1人の計8人でユニットを構成し、共同生活をする。個室もあるが、ユニットごとに共有部屋があり、当番を決め、掃除や夕食作りも協力しながら行い、コミュニケーションや協調性、自主性、リーダーシップなどの社会人基礎力を磨く。

「私のユニットには、企業から派遣された社会人学生の方もいました。その方はとても熱心で、授業について私も質問されることが多く、それに答えることで私の学びも深まりました」（中谷さん）

外国語科目以外の英語活動を ポイント化し、必修に

語学教育にも力を入れている同大学では、「English Step-Up Point制度」を導入している。外国語科目のほか、英語を学ぶ機会（スピーチコンテストや資格・検定試験）に挑戦し、卒業までに100ポイント以上得ることが必須だ。獲得ポイント上位者には、海外留学の費用援助もある。

「大学院に進んで留学し、世界の最先端を学びたいと思っています。まずは、留学に向けた準備をしながら、学会発表することが目標です」（松本さん）

大学の思い

豊かな表現力と国際性を 備えた技術者・研究者に



工学部 教授
教務委員長
吉村雅満
よしむら・まさみち

近年、ビッグデータ、人工知能等の情報技術が急速に進展しています。ただ、10年先、20年先の未来を切り開いていくには、現在実用化されている技術に必要な知識を学ぶだけでは不十分です。その先の技術を見据えて開発や研究に取り組む技術者・研究者の育成を我々は目指しています。そのため、『機械システム』『電子情報』『物質工学』の3分野を広く学ぶことで、社会が求めるものを時代に先んじてつくり出せる柔軟な創造性が身につけられるカリキュラムを設計しました。

今後、専門知識に加えて強化していきたい能力が2つあります。1つめは、表現力です。寮生活や少人数教育でコミュニケーション力は育成していますが、「書く」力はまだまだ不十分で、教養科目を再構築する予定です。

2つめは、英語力です。豊田工業大学シカゴ校を始め、北米、ヨーロッパの大学と連携するなど、国際力養成にも力を入れています。本学独自の英語研修プログラムにより、約3人に1人が在学中に海外留学を経験しています。

* 2 医療用の細い管状の器具。 * 3 主専攻と異なる分野から20単位以上を修得した場合に、その分野が副専攻として認定される。

これからの会議・研修のあり方、つくり方

今、学校現場では、次期学習指導要領等に向けて、教師にも、「アクティブ・ラーニング」の視点に基づいた教師同士の日常的な学び合いが求められている。職員会議や教員研修などで、教師集団が知見を結集し、学校をチーム化させる具体策を、現場の声や実践事例を交えて紹介する。

監修 日賀優一

「答えが1つではない問い」を考える高校生向け対話型ワークショップを開催する「三四郎の学校」事務局長。本誌2016年6月号で紹介した長崎県立諫早高校での取り組みを始め、高校教師や社会教育従事者などを対象とした学びの場づくりにも携わる。

実践事例

生徒とともに 未来を考える教職員研修

—— 滋賀県立水口東中学校・高校の教職員研修リポート ——

今回は実践事例として、2018年8月に滋賀県立水口東中学校・高校で行われた教職員研修を取り上げます。同研修の最大の特徴は、生徒も参加し、教師と同じグループのメンバーとして、「これからの社会と、そこで求められる力」について語り合いながら、自分がすべきことを考えた点に

あります。そこには、未来の社会の主人公である生徒が目の前にいることで、教師の思考が活性化すること、そして対話の中で自分の考えを深める楽しさを、教師だけでなく生徒にも味わってもらおうというねらいがありました。実践性に富んだチャレンジングな研修内容をレポートします。

正解が分からない問いを 生徒とともに語り合う

今回の教職員研修の企画責任者は、教務課主任の宇野正隆先生です。宇野先生は、2018年度から同校の教務課主任を務めることになったのですが、自分に課した最大のミッションが、「8月の教職員研修をよりよいものにする」というものでした。教職員研修がマンネリ化し、ややもすると教師にとつて気の進まない時間になることは、同校に限ったことではありません。宇野先生は、「外部講師を招いたインプット中心の研修ではなく、先生方がわいわいと楽しく語り合う研修にしたい」「ささやかなことでもよいので、2学期からの変化・変容につながるものにした」と考え、研修内容の検討を進めていきました。

そして、「生徒とともに学校の未来を考える」をテーマに、結論を1つに絞り込まない拡散型の90分間の研修を企画しました。これからの社会がどのように変化し、そこではどのような力が求められるのか、正解は誰にも分かりません。だからこそ、未来を生きる当事者の高校生が何を考えているのか、耳を傾けることが、未来に対する

イメージを広げながら、これから求められる指導を具体的に考えるために有効であると、宇野先生は考えたのです。また、答えが1つとは限らない問いに向き合う教師の姿を生徒に見せることにも、大きな価値を見いだしました。そして、拡散型ではありませんが、参加した先生方、そして生徒たちに、「新学期に向けた目標や新しいチャレンジを考えてみる」ことを求める内容にしました。

次ページからは、90分間の研修の概要と、研修に参加した教師、生徒の振り返り、そして研修を企画した宇野先生とそのチャレンジを見守った校長先生の声をご紹介します。

教師50数人に、生徒会の生徒10数人、合計およそ70人が、8月の教職員研修に参加しました。

研修の流れ

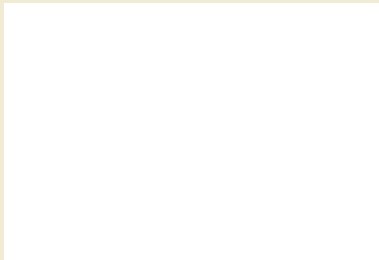
約10分

各グループ内で自己紹介

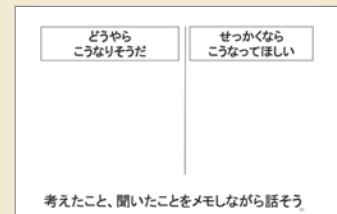
各グループは、4、5人の教師と1人の生徒、計5、6人で構成されました。グループはくじ引きで組んでいきました。アイスブレイクとして、各グループ内で簡単な自己紹介を行いました。①名前、②今の気持ち、③この夏の思い出の3項目について、1人1分以内を目安に話しました。

約20分

グループでの話し合い 「2030年は どんな社会？」



次に、「生徒が第一線で活躍する年代となる2030年の社会は、どのようになっているのか」について、20分程度各グループ内で語り合いました。その際、AIやグローバル化など、普段から話題になっているような未来予測にとどまらず、想像力を働かせて、自由に発言してもらえるように、「どうやらこうなりそうだ」「せつかくならこうなってほしい」という2つの観点で、未来について語ってもらうようにしました。また、語り合いに先立って、教師と生徒が年齢や立場にかかわらず、できるだけ自由に意見を述べられるように、「話し合う時の3つの約束」を説明しました。



未来について、2つの観点で自由に語り合いました

話し合う時の3つの約束

①「ひらめき」を大切に

思ったこと、感じたことをそのまま言葉にしましょう！
あなたの何気ないつぶやきが、ほかの誰かの新たな気づきにつながっていくかもしれません！

②「疑問」を大切に

本当に？なぜ？ほかには？など、ほかの人の意見や自分の考えに対して疑問をぶつけて、さらに考えを深めたり、広げたりしてみましょう。

③「沈黙」を大切に

沈黙は新しい発見の3秒前かもしれません。黙っている人がいても、怠けているのではなく考えているのですから、発言を急かさず、その人のペースで考えさせてあげましょう。

約50分

グループでの話し合い 「未来を生きる力とは」



2030年の社会についてイメージを広げた後は、「そのような未来を生きるためにはどのような力が必要になるのか」について語り合いました。まず、各グループ内で10分程度語り合ってから、その後、参加者が席を移動して、新たにグループを作り直して、さらに語り合いを続けました。そして、10分後、また元のグループに戻って、自分がどんな意見を聞いてきたのかを、グループのメンバーに紹介しながら、さらにテーマについて語り合いを深めました。

約10分

行動宣言 「2学期からすべきこと、 したいこと」

研修を振り返りながら、教師、生徒が「未来を生きる力を育むために、私が2学期からすべきこと、したいこと」を振り返りシートに記入し、2学期の行動宣言としてグループ内で共有しました。そして、研修がその場限りのものにならないように、2学期を迎えたら、各先生が研修で宣言したことに実際に取り組んでいるかどうかについて、研修に参加した生徒が、自分たちの所属したグループの先生のところに聞きに行くようにしました。

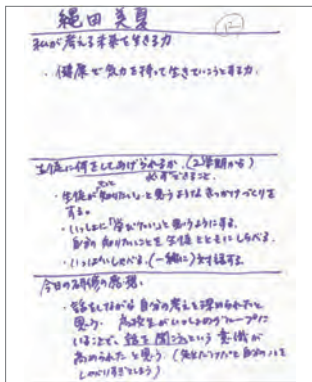
「多忙だからこそ、私たち教師には「原点」に立ち返る場が必要

8月の教職員研修に対して最初は「忙しいのにまた研修か」と、あまりよい印象を持っていませんでした。ただ、4、5年ほど前、「私たちはどのような生徒を育てたいのか」というテーマで、先生方とざっくばらんに語り合う研修があり、それはとても楽しかった記憶がありました。そのため、今回の研修はいつもと違うかもしれないと、少し期待感も持っていました。

教職員研修に生徒が参加することについては、先生一人ひとりが刺激と学びを得るという意味で、本来にプラスになるのか、私も分かりませんでした。ただ、生徒と未来を語り合う中で、教師と生徒という立場の違いが気にならなくなってきたことに気がつきました。未来を想像しながら、学ぶ



滋賀県立水口東中学校・高校
縄田美夏 なたわ・みか
 教職歴20年。同校に赴任して7年目。総務課。



縄田先生がグループの教師、生徒に宣言した内容が書かれたシート

ことの大切さについて言及し、「私も、これからも学び続けていくよ」と生徒に語った時、未来をとともに生きる仲間として語り合っていると実感しました。生徒も先生も、時間の経過とともにだんだん話し声が大きくなり、もつとたくさん話したいという気持ちで研修を終えました。職員室でも「面白かったね」と話す先生が多かったです。私自身、未来について先生方や生徒と話している中で、やりたいこと、学びたいことがたくさん出てきて、研修の最後に、2学期から取り組みたいことをみんなの前で宣言しました。生徒を交えた研修でしたが、教師としての

自分を心地よく深めることができたいと思います。2学期になって、同じグループだった生徒が「あれからどうですか」と様子を聞きに来てくれた時に、「私も頑張っていますよ」と話すと、うれしそうな笑顔を見せてくれました。私も、決意を共有した仲間が得られたような、温かな気持ちになりました。今回のように、ざっくばらんに語り合うような研修では、参加者全員で1つの結論を共有することはありません。1つの結論に収束しない研修に、「ただおしゃべりしているだけでは？」と違和感を持つ方もいらっしゃるかもしれませんが、しかし私は、ざっくばらんに語り合うことで、教師として大切なこと、原点を一人ひとりが確認できていたと思うのです。

教師になったばかりの頃、先輩先生の教育に対する熱い思いを聞くような機会はたくさんありましたが、最近はずいぶん減っています。だからこそ、先生同士がざっくばらんに語り合う時間の重要性が高まっていると思います。「忙しくてそんな余裕はない」のではなく、普段余裕がないからこそ、私たちにとって参加する価値がある、そんな研修だったと思います。

◎普段、今のことがばかりが気になって、未来について考えることがありませんでした。先生と未来について語り合うことが新鮮でしたし、普段あまり話をする機会のない先生方の意見を聞くのも楽しかったです。先生と話す中で、これからはコミュニケーション力が大切だと分かり、今まで話したことがなかった先生にも積極的に話しかけるなど、自分を変えてみようと思いました（1年生・女子）。

◎研修では先生方と楽しく話すことができました。いろいろな人と話すことで、自分の考えが深まる楽しさを味わえた気がします。自分とは違う経験をしてきた人と話すことで、自分の新しい可能性に気づけることが分かりました。2学期からは、自分から積極的にいろいろな人と話をしていきたいです（1年生・女子）。

生徒も「先生たちとちゃんと話せるだろうか」と思いながら研修に参加しましたが、研修後はみんなが「貴重な経験ができて楽しかった」と振り返っていました。

ちよつとした配慮と仕かけで 研修はもっとよいものにできる

教務課主任として、教職員研修に新しい風を入れた。その風を起こすのが、私たち教師が一番大切になっている生徒であれば、きっとその研修は先生方にとって刺激的で大きな学びがある場になるはずだと考えました。

ただ、先生方の中には、「研修に生徒が参加すると、自分たちは生徒に対して『君たちはこうすべきだ』と、指導になってしまい、教師にとっても生徒にとっても前向きな学びにならないのでは」と不安を抱く方もいらっしゃいました。また、研修に参加する生徒たちも、「先生とちゃんと話ができるのだろうか」と心配していました。



滋賀県立水口東中学校・高校
宇野正隆 うのまさたか
教職歴25年。同校に赴任して12年目。教務課主任。

すが対話型のワークショップも開きました。実際の語り合いでは、気軽に話せるテーマで自己紹介をしてもらいなど、アイスブレイクを丁寧に行いました。さらに、研修での気づきが個々の変化や変容につながっていくように、夏季休業明けの少し落ち着いた金曜日をねらって、生徒が、同じグループだった先生に近況を聞きに行くようにしました。先生方にも、そのような問いかけが生徒からあるかもしれないことを伝えました。そのようなちよつとした仕かけや配慮の積み重ねで、研修の質が高まったと思います。

研修では、緊張気味な生徒を安心させようと、いつも以上の笑顔で生徒に接する先生方の姿が印象的でしたし、その思いやりは、先生同士の間にも温かな空気として流れていたように思いました。研修後、先生方から「面白かった」「楽しかった」という声をかけていただきました。先生方が元気になる研修をつくれたのなら、うれしいです。

対話を通じて改めて分かった 先生方の豊かな潜在能力

本県は、普通科高校の通学区域全域一区制度を導入しており、水口東中学校・高校も地域の期待に応える学校として、魅力化を進めることが求められています。今回、宇野先生が企画した教職員研修も、学校のあり方を考える突破口として位置づけました。

今回の研修は、先生方にとっては、生徒とじっくり話すという意味でも



滋賀県立水口東中学校・高校
校長
岨中貴洋 そまなかたかひろ
教職歴35年。同校に赴任して1年目。

価値がありました。教師という立場ではなく、未来を生きる一人の社会人として考えを語り合うといった機会にもなりました。参加した先生方の様子を見て、先生方が個人としての思いを自由に語れる場や雰囲気をつくっていくことで、教師としての潜在能力を余すところなく引き出し、学校総体として、これからの教育のあり方を柔軟に考えられるようになるのではないかと感じました。今後は、先生方が保護者、地域の方々との対話を通して、学校と自身のあり方を考える場をつくっていきたいと思っています。

滋賀県立水口東中学校・高校

◎併設型中高一貫校。文部科学省「スーパーグローバルハイスクール・アソシエイト」校。探究学習や高大連携、国際交流などの取り組みを通じて、主体的に学ぶ態度を備え、世界の人々と協働して問題解決することのできる人材の育成を目指す。

設立 1975(昭和50)年
形態 全日制/普通科/共学
生徒数 1学年約240人

2018年度入試合格実績(現浪計)

国立大は、東北大、筑波大、横浜国立大、京都大、大阪大、神戸大、神戸市外国語大などに57人が合格。私立大は、慶應義塾大、中央大、早稲田大、同志社大、立命館大などに延べ588人が合格。

URL <http://www.e-minakuchi-h.shiga-ec.ed.jp/>

都教委の挑戦

第3回

探究学習の推進

東京都の教育施策を紹介する本コーナーの第3回は、探究学習の推進がテーマだ。新学習指導要領では「理数探究」や「総合的な探究の時間」などが設けられ、探究学習が一層重視されている。そこで、東京都教育委員会では、探究学習の知見やノウハウを蓄積するとともに、それらを広く周知するための事業を展開している。

教育委員会の施策

探究学習の推進校を指定し、そこで得られた知見やノウハウを他の都立高校に普及させる

推進校が探究学習の教育課程や教育内容を開発

東京都教育委員会（以下、都教委）は、2017年度、探究的な学習等为先導する推進校として、東京都立三田高校、同南多摩中等教育学校、同大泉高校・附属中学校を「知的探究イノベーター推進校」（事業期間4年間。図1）に指定した。指導部高等学校教育指導課の佐藤聖一課長は、

同事業のねらいを次のように説明する。

「本事業は、探究的な学習等を通じて、思考力・判断力・表現力とともに、仮説、分析、検証、推論等の物事の本質を見極める知的探究力や、イノベーションを起こす創造力などを育成することを目指しています。それらの資質・能力を高校段階から育成することで、より高い目的意識や課題意識を持った大学生や社会人となる。」

り、グローバル社会でリーダーとして活躍してくれることを期待しています」

推進校の3校は、前述の資質・能力を育成するための教育課程の開発や、学習内容及び方法の開発に取り組んでいる。都教委では、推進校の実践によって得られた研究成果を他の都立高校にも周知することで、各校が「総合的な探究の時間」等を展開する際のモデルとしてもらうことを想定している。周知の方法は、成果発表会の開催や報告書の配布等を予定している。



東京都教育庁指導部
主任指導主事
鈴木宏治 すずき こうじ
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事等、都立高等学校副校長を経て、現職。



東京都教育庁指導部
主任指導主事
市村裕子 いちむら ゆづこ
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事等、都立高等学校長を経て、現職。



東京都教育庁指導部
高校教育改革担当課長
小林正人 こばやし まさひと
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事、指導部主任指導主事等を経て、現職。



東京都教育庁指導部
高等学校教育指導課長
佐藤聖一 さとう せいいち
東京都教育庁指導部主任指導主事、東京都教職員研修センター企画部企画課長等を経て、現職。

グラントデザインを 作成した上で本格実施

事業初年度は準備期間に充てられた。各推進校は、他県の先進校の視察などを行い、探究学習に関する情報を収集・分析。それらを踏まえて、校内で議論を重ね、自校が育成を目指す生徒像や、その生徒像を実現するための各教育活動の関連性を示したグラントデザインを作成した。探

究的な学びと教科の学びを融合させた全体計画を立てた上で、18年度から実践に移している。市村裕子主任指導主事は、これまでの成果について次のように話す。

「各校での実践は1年目ですが、既に様々な成果が出ています。例えば、3校とも大学院生や大学生をTA（ティーチングアシスタント）として招き、生徒が探究学習に取り組む際に助言してもらっていますが、TA

とのやり取りは、生徒が課題の本質に気づき、考えを深めるために有効であることが分かりました。また、活動記録を書かせることについて、最初は箇条書きのメモしか取れなかった生徒が、次第に研究テーマを構造化して図に示せるようになっていった成果も出ています。今後は、TAやノートをより効果的に活用するための更なる手法の構築や成果検証を期待しています」

生徒所有のICTを活用した 探究学習の充実を研究

18年度からは、「BYOD（*1）研究指定校」（事業指定2年間）も展開している。これは、普通教室にWi-Fi環境を整備し、生徒が所有するスマートフォンなどのICT機器

力の定着を目的としています。『知的探究イノベーター推進校』の3校も、探究学習にICTを活用する方法を研究するため、BYOD研究指定校としました。さらに、7校の共通目標として、教師の負担軽減を掲げています」

各指定校でWi-Fi環境の整備が完了したのは18年度の夏季休業中で、実際に活用が始まったのは9月からだったが、スマートフォンはパソコンに比べて起動にかかる時間が短い

ため、生徒がすぐに活用できる半面、画面が小さいことから、生徒間で大量の情報を共有しながら行う協働学習には向かないといった、強みや弱みがかつてきたという。鈴木宏治主任指導主事は、今後の展望をこう語る。

「ICT機器は、探究学習の推進に欠かせないツールです。探究学習にも様々な過程がありますから、学校のパソコンと生徒所有のスマートフォンとのどちらが使いやすいのかといったように、目的や用途に応じたICT機器の活用方法を確立することで、生徒が学びをより深められる環境づくりをしていきたいと考えています」

図1 「知的探究イノベーター推進校」概要

(1) 目的 探究的な学習等を行い、生徒一人一人が主体的・協働的に学ぶ力や、思考力・判断力・表現力を一層高いレベルで身に付けさせるとともに、物事の本質を見極めようとする力や、よりよい社会を形成するなどの資質・能力を身に付けさせる。

・確かな基礎学力
・高度な語学能力



・思考力・判断力・表現力
・問題発見能力・課題設定能力・問題解決能力
・創造力・コミュニケーション能力
・自らの興味・関心と諸課題を結び付けて主体的・協働的に学ぶ力

(2) 内容

○答えのない現実社会の諸問題に対して、
課題を発見して、追究し、解決する学習

・学習プロセスの中にアクティブ・ラーニングを取り入れた探究的な学習の推進

○多様な学習機会の設定

・大学や研究機関の研究室訪問
・海外フィールドワーク等

○教育課程の弾力的な運用

・土曜日や長期休業日を活用

*東京都教育庁提供資料を基に編集部で作成。

*1 Bring Your Own Device の略で、私的デバイスの活用を指す。

東京都立南多摩中等教育学校

これまでの教育活動の振り返りを
基に体系化を図り、生徒の発達段階
に応じた効果的な探究学習に深化

自校の取り組みを客観視した
上でブランドデザインを作成

東京都立南多摩中等教育学校は、2010年度の開校以来、探究学習を行う「フィールドワーク活動」を教育課程に組み込み、教科指導でも探究型・発表型の授業を重視してきた。

「フィールドワーク活動」は、前期課程（中学1～3年次）ではグループ単位で行う。1・2年次では、地域や身の回りにあるものをテーマにし、情報を収集・整理しながら掘り下げて考え、3年次では、生徒自身がよく科学的な研究テーマを設定し、仮説を検証する形で探究していく。そして、4・5年次（高校1・2年次）では、「ライフワークプロジェクト」として、生徒が個々にテーマを設定し、4000字程度の論文を書く（図2）。永森比人^{ひとみ}校長は、探究学習の成果をこう語る。

「5年間の探究学習を通じて、生徒

の中で学問に対する興味・関心や課題意識が高まり、キャリア意識が醸成されていきます。卒業生の8割以上が、より深い研究に取り組める環境を求めて、研究開発型の大学（*2）に進学しています」

そうした中、17年度、「知的探究イノベーター推進校」に指定された。探究学習を推進する土台は既にできていたため、指定1年目は、これまでの教育活動を改めて振り返り、体系化する機会にあてたと、田母神武浩^{たもがみ}副校長は語る。

「プロジェクトチームを結成し、メンバーがSSH研究発表会や先進校を視察し、探究学習の最新情報を収集しました。そうして自校の取り組みを客観視してからブランドデザインの作成に着手したのは、教育活動の特色化を図る上で有効でした」

同校は、育成を目指す生徒像を「予測不可能な社会にあっても新たな価値を創造し、主体性を持って活躍し

東京都立南多摩中等教育学校

◎教育理念に「人間力の南多摩・心・知・体の調和」を掲げる。東京都教育委員会「B YOD研究指定校」「知的探究イノベーター推進校」「理数リレーディング校」「英語教育推進校」の指定校。

◎設立 2010（平成22）年

◎形態 全日制／普通科／共学

◎生徒数 1学年約160人

◎2018年度入試合格実績（現役のみ）

国立大は、東京外国語大、東京工業大、東京大、横浜国立大、首都大学東京などに49人が合格。私立大は、慶應義塾大、明治大、早稲田大などに延べ400人が合格。

◎URL <http://www.minamitamachuto-e.netro.tokyo.jp/site/zen/>

続けるグローバルリーダー」とし、その実現に向けた教育活動のあり方について議論を重ねた。そして、「探究力」を育む「フィールドワーク活動」を中心に、「学力」を育む英語教育や理数教育、「突破力」を育むキャリア教育などを有機的に結びつけたブランドデザインを完成させた。

探究学習で育成を目指す
資質・能力を学年単位で整理

「フィールドワーク活動」も改めて体系化した。フィールドワーク推進室主任の青嶋康文^{あおしま}先生はこう語る。

「それまでは学年を問わず、生徒には『フィールドワーク活動では、自



東京都立南多摩中等教育学校
校長
永森比人^{ひとみ}
ながもり・ひとみ
教職歴33年。同校に赴任して3年目。



東京都立南多摩中等教育学校
副校長
田母神武浩^{たもがみ}
たもがみ・たけひろ
教職歴33年。同校に赴任して3年目。



東京都立南多摩中等教育学校
副校長
岡田貴夫^{おかだ}
おかだ・きみお
教職歴35年。同校に赴任して1年目。



東京都立南多摩中等教育学校
副校長
徳武英人^{とくたけ}
とくたけ・ひでと
教職歴33年。同校に赴任して7年目。主幹教諭。進路指導主任。



東京都立南多摩中等教育学校
副校長
青嶋康文^{あおしま}
あおしま・やすふみ
教職歴38年。同校に赴任して9年目。主幹教諭。フィールドワーク推進室主任。

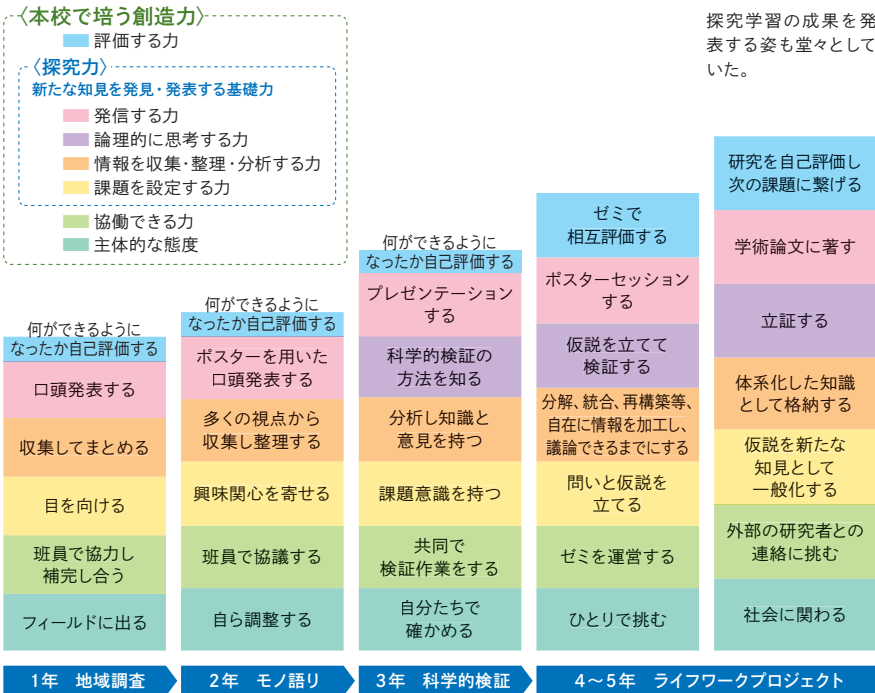


東京都立南多摩中等教育学校
副校長
藤田信幸^{ふじた}
ふじた・のぶゆき
教職歴12年。同校に赴任して3年目。主任教諭。フィールドワーク推進室主任。

分が疑問に感じたことについて、仮説を立てて取り組むことが大切だ』と話してきました。しかし、1・2年生に求められる仮説検証力と、4・5年生に期待する仮説検証力とは、異

* 2 文部科学省の科学研究費配分の上位機関、スーパーグローバル大学、外部評価機関の評価の高い大学、世界の大学ランキングへのランクイン大学のいずれか。

図2 「フィールドワーク活動」の内容と育む資質・能力



グループで多摩地域の事象について現地調査し、アピールする。
 グループで都内に作られるモノを6つの視点から検証し、報告する。
 グループで科学的検証法に挑み、結果をプレゼンテーションする。
 個々に問いを立て仮説を立てて検証する。4年の末に中間報告としてポスターセッションをし、5年の末には学術論文の形態で発表する。

*学校資料を基に編集部で作成。

なります。そこで、『フィールドワーク活動』を通じて育成したい資質・能力を洗い出し、学年ごとにそれぞれ力をどのレベルまで身につけさせることを目指すかを整理し、図に示しました(図2)。学年の到達目標が明確になり、教師間の目線合わせ

がしやすくなりました」
 18年度に事業が本格実施となつてからは、大学院生や大学生をTAとして招いたことが生徒の探究学習の質を高める上で効果を発揮しているという。フィールドワーク推進室主任の藤田信幸先生は次のように話す。

「前期課程では、学年末に生徒が研究成果を発表する場を設けています。1・2年生は、3年生が科学的検証作業を重ねながら研究に取り組み、その成果を堂々と発表する姿を見て、『すごいな。自分たちもあなりたいな』と刺激を受ける場になっていきます。本校では、そうした生徒同士の学び合いを重視しています」

使えることは、探究学習の深まりにつながっていると語る。
 「教室で、いつでもインターネットに接続できるため、TAが校内にいない時でも、TAに研究内容について指導をもらうことができるようになりました。また、『Ogg』(＊3)を活用し、生徒にAIを活用した問題集やwebテストにも取り組ませています」

それと同様のことが、後期課程の4・5年生とTAの間でも起きています。4・5年次の「ライフワークプロジェクト」では、1クラス十数人の各ゼミにTAが配置される。彼らがちよつとした助言が、生徒が探究学習を進める上での気づきになることが多いという。また、TAが自身の大学での研究について話すこともよくあり、「自分ももっと深い研究がしたい」という生徒の意欲の向上につながっている。

「ゼミの後などにアンケートを配信し、その日の活動内容や気づき、課題などを記録させる際も、自分のスマートフォンで時間を空けずにすぐにかけるようになりました。個々の活動記録がポートフォリオとして蓄積され、生徒がそれを読み返すことで、自分の学習の過程やどこまで成長できたかを認知し、さらなる成長に向けて主体的に学びに向かえる力が高まっていくと感じています」

**自分の端末を使えることで
振り返りがより効果的に**

18年度からは「BYOD研究指定校」の指定も受け、Wi-Fi環境が整備された。岡田貴夫副校長は、生徒所有のスマートフォンが教育活動に

今後は、そうした教育活動を通じて得られた探究学習の推進に関する様々な知見やノウハウを他校に発信することに力を入れていく。

* 3 株式会社ベネッセホールディングスとソフトバンク株式会社の合併会社である Classi 株式会社が提供する、学校教育での ICT 活用を総合的に支援するサービス。

専門職大学シンポジウム「次代のプロフェッショナルを育む大学へ — 55年ぶりの新制度『専門職大学』とは —」開催

様々な分野を深く、実践的に学び、 未来を創造するアイデアを育む

理論・実践両面から専門性の高い職業教育を行う高等教育機関として、2019年度に「専門職大学」「専門職短期大学」が創設される。新たな高等教育機関の発足は、短期大学以来、55年ぶりのことだ。18年11月、20年度開学予定の専門職大学2校の教職員や教育研究者らが集まり、専門職大学等の意義や教育課程における特色、育成を目指す人材像などについて議論するシンポジウムが東京で開催された。その概要をレポートする。

プログラム

◎専門職大学の概要説明

ベネッセ教育総合研究所 佐藤昭宏研究員

◎基調講演

「生徒を夢に導く〜プロフェッショナルを育てる〜」

駿台予備学校講師・竹岡塾主宰 竹岡広信氏

◎専門職大学の事例紹介

・事例1 東京専門職大学 (仮称・設置認可申請中)

学校法人敬心学園 小林光俊理事長

東京専門職大学開設準備室 宮田雅之事務局長

・事例2 i専門職大学 (仮称・設置認可申請中)

i専門職大学 中村伊知哉学長 (就任予定)

◎パネルディスカッション

「専門職大学に期待される人材育成」

・パネリスト

東京専門職大学 陶山哲夫学長 (就任予定)

i専門職大学 中村伊知哉学長 (就任予定)

駿台予備学校講師・竹岡塾主宰 竹岡広信氏

ベネッセ教育総合研究所 佐藤昭宏研究員

・コーディネーター

朝日新聞出版「大学ランキング」杉澤誠記編集長

主催：学校法人敬心学園 (東京専門職大学〈仮称〉) / 学校法人電子学園 (i専門職大学〈仮称〉)

後援：朝日新聞社メディアビジネス局 / ベネッセコーポレーション

学生の多様な「得意」を生かした人材育成への期待

2019年度に新設される「専門職大学」「専門職短期大学」(以下、専門職大学等)では、今後の社会の変化に対応した新たなものづくりやサービス開発などの担い手として、「豊かな創造力」「高度な実践力」を備えた人材の育成を目指している。

今回のシンポジウムではまず、専門職大学等が充実させようとしている教育内容などを、ベネッセ教育総合研究所の佐藤昭宏研究員が解説(図1)。

次に、駿台予備学校講師・竹岡塾

主宰の竹岡広信氏による基調講演が行われた。竹岡氏は、自身が教師として向き合ってきた高校生や大学生の姿を具体的に振り返りながら、「誰もが少しのきっかけでやる気を起こし、関心のあることに打ち込むようになる」と語った。そして、専門職大学等には、教科学力だけではなく、大学生の多様な「得意」を生かし、発展させ、世界を牽引する人材を育ててほしいと期待を寄せた。

続いて、20年度に開学予定の東京専門職大学とi専門職大学の事例紹介があり、最後に「専門職大学に期待される人材育成」をテーマにしたパネルディスカッションが行われた。

図1 専門職大学等の概要

- ◎概要 専門職人材の育成を目的とする高等教育機関。4年制の「専門職大学」、2年制または3年制の「専門職短期大学」がある。
- ◎設立の背景 科学技術の発展やグローバル化の進展に伴い、産業構造や就業構造が急激に変化する中、生産性の向上を図るためには、専門的な知識・技能によって新たなモノやサービス、価値の創造を担う人材の育成が急務となっている。また、大学を始めとする高等教育機関への進学率が向上し、多様化する学生の資質やニーズに応じた高等教育機関の創設が求められていた。
- ◎育成を目指す資質・能力 「豊かな創造力」+「高度な実践力」
- ◎教育の特色
- ①実務家教員の積極的な登用 専任教員数の4割以上を実務家

- 教員とし、その半数は研究能力を有する者とする。
- ②教育課程 産業界などと連携した教育課程を編成し、専門職を担うための実践的な能力や、当該職業の分野で創造的な役割を担うための応用的な能力の育成に力を入れる。
- ③実習 4年制では、40単位以上を卒業要件として設定し、原則としてその半数以上を企業などでの臨地実務実習とする。
- ④学位の認定 課程修了者には、文部科学大臣が認定する「学士(専門職)」「短期大学士(専門職)」の学位が授与される。
- ⑤少人数制教育 原則として、同時に授業を行う学生数は40人以下とする。

*文部科学省の資料を基に編集部で作成。

事例紹介1

東京専門職大学(仮称・設置認可申請中)

専門分野の知識・技能を活用できるよう、マネジメント能力の育成を重視

東京専門職大学(仮称)は、保健・医療・福祉の分野における専門職人材の育成を目指し、1学部2学科で発足する予定だ。医療福祉学部リハビリテーション学科では、理学療法士や作業療法士の志望者、同学部福祉介護イノベーション学科では、介護福祉士の志望者を迎える。各学科では、実務家教員による授業や実習などを通して、各国家資格の取得に向けた学びを充実させるとともに(図2)、専門分野の知識・技能を活用し、新たな事業やサービスを創り出せるよう、専門分野に関連した多様な分野から成る「展開科目」(※1)にも力を入れる。その中心が、財務会計や人材マネジメントなどを学ぶ経営分野であり、どの学科でも履修可能にするという。同大学開設準備室の宮田雅之事務局長は、マネジメント能力を育成する重要性をこう語った。

「高齢化により、支援が必要な人が増える中、保健・医療・福祉の現

場では人材不足が深刻になっていきます。中でも、経営を担うことができず、リーダーを求める声は強く、マネ

図2 東京専門職大学(仮称) 医療福祉学部のカリキュラム(抜粋)

科目	内容
基礎科目(20単位)	地域福祉、リーダーシップ、国際協力、心理学 など
職業専門科目(80単位)	<ul style="list-style-type: none"> ◎リハビリテーション学科 <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法専攻:実習990時間など ・作業療法専攻:実習1,170時間など ◎福祉介護イノベーション学科 インターンシップなど
展開科目(20単位)	経営分野 経営戦略、財務会計、人材マネジメント など
	隣接他分野 美容ケア、ユニバーサルツーリズム、支援システム工学 など
総合科目(4単位)	卒業研究

※当設置計画は予定であり、変更の可能性あり。

*同大学の資料を基に編集部で作成。

マネジメント能力の育成は最重要課題です。また、高齢化は、日本だけではなく、韓国やシンガポールといったアジア各国でも社会問題になっています。そうした中で、本学の卒業生には、海外での業務も視野に入れてほしいという思いがあります。マネジメントの視点は、多様な人々と協働するためにも非常に重要になると考えています」

キャリアアップやスキルアップを図る社会人の学び直しにも応じられるよう、リハビリテーション学科には夜間コースも設置する。同大学を運営する学校法人敬心学園の小林光俊理事長は、次のように述べた。

「日本では、アメリカやヨーロッパ各国に比べて、社会人が仕事を続けながら専門性の高い職業教育を受ける環境の整備に課題があると思います。『学士(専門職)』という国際通用性のある学位を卒業生に授与する専門職大学等が社会人の学び直しの場となれば、日本の職業教育の評価を高めるきっかけになるでしょう。また、『今の自分を変えたい』という思いは、成長の原動力となります。そうした思いを支援することは、教育の原点だと私は考えています」

*1 専門職大学等の授業科目の1つ。「専攻に係る特定の職業の分野に関連する分野における応用的な能力であって、当該職業の分野において創造的な役割を果たすために必要なものを育成するための授業科目」。授業科目には、ほかに「基礎科目」「職業専門科目」「総合科目」がある。

新しい価値やビジネスの創造に向け、「失敗から学ぶ」教育を推進

i 専門職大学では、「ICT力」「英語力」「ビジネス力」を学ぶとともに、3つの力を融合させて創造力を発揮し、ビジネスにおけるイノベーションを担う人材の育成を目指している。大学名には、インフォメーションやイノベーション、インテリジェンス、イマジネーションの頭文字を用い、「『I（私）の大学』」主體的に私が変革する大学」という意味も込めたといい。学生がいつでも、どこにいても学べるよう、知識の習得は基本的にオンラインで行い（図3）、予習・復習のための教材もインターネットで配信する。一方、国内外のICT企業と連携し、PBL（*2）やインターシップを充実させるなど、学生が社会で実際に起きている課題と向き合う場を積極的に設けたと、中村伊知哉学長（就任予定）は語った。「科学技術の発展は飛躍的であり、今後は、あらゆる分野でICTが不可欠になるでしょう。機械に代替される職業も出てくると予測される中、

図3 i 専門職大学（仮称）の特色（抜粋）

- ◎ICT教育の段階的な推進 プログラミングやネットワークの設計、ビッグデータを用いた分析、AIの設計・活用と、基礎から応用まで段階的にICT教育を推進。また、知識の習得は基本的にオンラインで行う。
- ◎国際性の強化 英語教育に力を入れ、海外からの留学生も積極的に受け入れる。
- ◎国内外からの幅広い人材登用 学生が実践的なビジネススキルを習得できるよう、地域や海外のICT企業の社員や起業家を教員として招く。最終的には、全教員の8割が実務家になるよう計画している。
- ◎「企業で学ぶ」の重視 ビジネスを実践的に学べるよう、全学生が国内外の企業で640時間以上のインターシップを行う。
- ◎全学生に起業を促す 「うまくいかない中で試行錯誤し、解決を図る」という経験を積めるよう、大学が資金を集め、学生に起業を促すプロジェクトを行う予定。
- ◎学生同士の協働の重視 大学のキャンパスや教室は、学生同士が協働し、講義で身につけた知識・技能をものづくりなどに活用する場とする。

*同大学の資料を基に編集部で作成。

ICTを使いこなし、今までにない価値や文化、ビジネスなどを創造できる人材を育てていく必要があると考えています。そこで、学生が最先端のビジネスモデルやICTの技術を学んだり、多様な人たちと協働したりできるよう、（世界各国の）実務家との結びつきを強めていきます。最終的には、実務経験のある教員の割合を8割にしようと計画中です」

ビジネスの実践的な学習を充実させる取り組みにも力を入れる。例えば、インターシップは全学生が4年間で640時間以上行えるように

したいと考えている。ほかにも、「ビジネス実践科目」の一環として、大学が資金を集め、学生の起業を促すプロジェクトを行う予定だという。

「起業は、講義やインターシップなどで学んだ知識・技能を社会で活用する絶好の機会になります。うまくいなくても、課題を解決するために試行錯誤を重ねる中で、学生は様々な気づきを得られます。本学では、そうした『失敗から学ぶ』経験を大切にしたいと考えています。結果を恐れず、新しいことに挑戦しようとする学生を歓迎します」

パネルディスカッション

急激な社会の変化に対応し、新たな課題を解決する創造性をいかに育むか

様々な分野の知識・技能を総合し、創造につなげる場

杉澤 既存の大学や専門学校と比べて、専門職大学等の特色はどこにあるとお考えでしょうか。

中村 専門職大学等の強みは、専門

分野を深く、体系的に学ぶとともに、学んだ知識・技能を応用・実践できるところにあると考えています。新たな課題を解決するためには、学術的な研究と実践的な知識・技能の両方が必要になります。

陶山 日本は、これまでにない高齢

* 2 「Project Based Learning」もしくは「Problem Based Learning」の略称。課題解決型学習。



杉澤誠記
朝日新聞出版
「大学ランキング」編集長
すぎさわ・せいき



佐藤昭宏
ベネッセ教育総合研究所
研究員
さとう・あきひろ



竹岡広信
駿台予備学校講師・
竹岡塾主宰
たけおか・ひろのぶ



中村伊知哉
i 専門職大学（仮称）
学長（就任予定）
なかむら・いちや



陶山哲夫
東京専門職大学（仮称）
学長（就任予定）
すやま・てつお

化社会を迎え、保健・医療・福祉の現場で働く人たちには、新しい事業やサービスを発案したり、ICTを支援に取り入れたりする必要が生じています。そのため、支援者には専門分野以外の知識・技能が求められるようになっていますが、専門職大学等では「展開科目」を中心に、専門分野と関連する様々な知識・技能を学べます。本学の「展開科目」には、経営分野を始め、高齢者や障がい者

が外出を楽しめるよう支援する方法を学ぶ「ユニバーサルツーリズム」、福祉機器などの開発・実用化までのプロセスを学ぶ「支援システム工学」などを開設する予定です。専門分野と幅広い分野の知識・技能を総合することで、専門職大学等が目指す「豊かな創造力」「高度な実践力」の育成につながると考えています。

中村 本学では、国際性の強化にも力を入れます。その一環として、英語によるプレゼンテーションやディベートを行う授業を設置する予定です。また、海外からの留学生も積極的に受け入れ、将来的には定員の半数を留学生にしようと計画中です。

陶山 本学でも、留学生の受け入れを推進する予定です。専門職大学等で学んだ留学生は、自国へ帰って専門職に就き、自国の発展を担う人材になるでしょう。アジア各国では、日本と同じように少子高齢化が進み、保健・医療・福祉の支援を充実させることが切実な課題となっています。本学には、そうした各国を支える専門職人材を送り出し、国際貢献をしていきたいという思いがあります。

竹岡 日本には、言葉で明確に表さず、以心伝心を大切にするという文化

があります。ところが、海外の多様な人々とともに学んだり、協働したりする中では、そうした文化は通用しません。国際社会での活躍を目指す専門職人材には、きちんと根拠を示しながら、自分の考えを言葉で述べる力も重要になると思います。

「好き」が粘り強さを生み、創造性を豊かにしていく

杉澤 専門職大学等には、新たなモノや価値を創り出す人材の育成が期待されています。創造性の涵養には、何が重要になるでしょうか。

中村 インターネットが普及した十数年間で、社会や産業構造は大きく変わりました。情報通信や科学技術はさらなる進歩を続けているため、今後の社会はさらに急激に変化していくでしょう。そうした変化を楽しむ、立ち向かっていく意欲が、創造性を生む源泉になると思います。

竹岡 何かを創造するためには、粘り強さが欠かせません。失敗が続いても、好きなことであれば、諦めずに取り組めると思います。つまり、その分野を好きになることが、創造性を育む第一歩ではないでしょうか。



そのため、専門職大学等には、学生の「好き」をさらに伸ばせるよう、授業を工夫してほしいと思います。

佐藤 高校までの教科学習に興味を持ってなくても、具体的な職業や社会課題と関連性の高い教育を通じて、学ぶ意欲を回復させ、著しい成果を上げる学生は少なくありません。専門分野を深く学ぶだけでなく、学んだ知識・技能を応用して解決に挑む実践も行う専門職大学等で、創造性は自ずと育まれるはずですが、そうした環境は、今後の学生にとって魅力的な進路の1つとなるでしょう。

2020年4月実施に向け、新たな奨学金の制度化が大詰め

「高等教育無償化」で広がる 学びの可能性

2019年通常国会で法案が成立すれば、
2020年4月、低所得世帯を対象とした高等教育無償化がスタートする見通しだ。
新制度は、授業料等減免と給付型奨学金の2本柱で、所得要件を満たし、
かつ進学意欲が認められれば、高校での成績にかかわらず支援を受けられるのが特徴だ。
対象は、大学(学部)・短大・高等専門学校・専門学校のすべての高等教育機関となる。
新制度のねらいと内容、対象となる学生・大学の要件について、
文部科学省高等教育局の滝波泰主任大学改革官に聞いた。

高校での成績にかかわらず 所得要件と進学意欲で審査

国が推進する「人づくり革命」の一環として行われる「高等教育無償化」は、2018年12月、「高等教育無償化の制度の具体化に向けた方針」(関係閣僚合意)においてその具体策がまとめられた。19年通常国会で法案が成立すれば、20年4月に制度開始となる見通しだ。19年10月から実施予定の消費税率引き上げによる増収分を財源とし、関係閣僚合意では、高等教育無償化分として7600億円の予算規模が想定された。20年度入学者だけでなく、20年度時点での在学学生も、要件に合えば支援の対象となる。

17年度に始まった現行の給付型奨学金制度では、高校ごとに推薦枠が割りあてられているが、新制度では、所得要件を満たし、かつ進学意欲が認められれば、高校での成績にかかわらず支援対象となる予定である。文部科学省高等教育局の滝波泰主任大学改革官は、新制度の目的を次のように説明する。

「経済的に困難な家庭の子どもほど大学等への進学率が低く、最終学歴



文部科学省高等教育局主任大学改革官
滝波 泰 たきなみ やすし
初等中等教育局高校修学支援室長、同局主任視学官等を経て、現職。

によって平均賃金に差が出ています。日本の教育費は国際的に見て家計負担の割合が高く、それが少子化の一因にもなっています。格差の固定化を防ぎ、かつ少子化対策に資するよう、家庭の経済状況にかかわらず高等教育機関へ進学できる機会を確保することが、本制度の目的です」

入学金・授業料減免と 給付型奨学金の2本柱

新制度案は、入学金や授業料を減免する「授業料等減免」と修学に必要な費用を支給する「給付型奨学金」の2本柱で、対象は、大学、短期大学、高等専門学校、専門学校に通う非課税世帯の学生を想定している(図1上)。

非課税世帯の目安は、両親と本人・中学生の4人家族で年収270万円未満となる予定だ。支援の谷間が生じないよう年収に幅を持たせることとし、年収270～300万円未満の世帯は非課税世帯の額の3分の2、年収300～380万円未満の世帯

図1 減免額・給付額の概要

◎授業料等の減免の上限額（年額、住民税非課税世帯）

	国公立		私立	
	入学金	授業料	入学金	授業料
大学	約28万円	約54万円	約26万円	約70万円
短期大学	約17万円	約39万円	約25万円	約62万円
高等専門学校	約8万円	約23万円	約13万円	約70万円
専門学校	約7万円	約17万円	約16万円	約59万円

国公立/入学金・授業料ともに、省令で規定されている国立の学校種ごとの標準額までを減免。

私立/入学金については、私立の入学金の平均額までを減免。授業料については、国立大学の標準額に、各学校種の私立学校の平均授業料を踏まえた額と国立大学の標準額との差額の2分の1を加算した額までを減免。

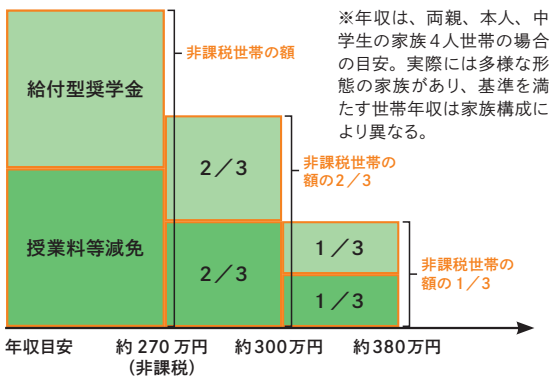
◎給付型奨学金の給付額（年額、住民税非課税世帯）

	国公立 (大学・短期大学・専門学校)	私立 (大学・短期大学・専門学校)
	自宅生	約35万円
自宅外生	約80万円	約91万円

高等専門学校の学生については、学生生活費の実態に応じて、大学生の5～7割の程度の額を措置する。

* 文部科学省の資料を基に編集部で作成。

図2 減免額・給付額（上限）の考え方



* 文部科学省の資料を基に編集部で作成。

対象となる大学の要件は、学問の教育の質が保証されていることだ。具体的には、実務経験のある教員による授業科目が標準単位の1割以上配置されていること

「本制度が整えば、経済的な事情で進学を断念していた生徒に学びのチャンスが広がります。自分が高等教育の場で何を学び、卒業後にどのような道に進みたいのか。明確な進路意識を持って、本制度を活用してほしいと思います。また、高校の先生には、どのような道に進めば生徒の力が花開くのかを、生徒や保護者と対話を重ねて一緒に考え、生徒に寄り添った進路指導を心がけていただきたいと思っています」（滝波主任大学改革官）

学生の進学意欲を重視する点も、新制度案の特徴だ。高校がレポートの提出や面談によって、生徒が進学

成績不振の場合には、支援の打ち切りも

への強い意欲や明確な目的を持っていないことを確認し、独立行政法人日本学生支援機構に報告する。進学後も、学習状況の要件を満たさなければ、支援を打ち切られること想定している。具体的には、①1年間の単位数が標準的な修得単位数の6割以下、②成績（GPA（*1）等）が所属学部等の下位4分の1に該当、③1年間の出席率が8割以下など、学習意欲が低いと大学等が判断した場合だ。そのいずれかに該当し、大学から「警告」を連続で受けた場合は、支援が打ち切られる可能性がある。

2019年夏までに対象となる大学を公表予定

ただ、成績次第で打ち切りもあり得ますから、安易な利用は控えてほしいと思います」（滝波主任大学改革官）警告や支援の打ち切りは、大学等の責任において判断される。ただ、支援を打ち切られた学生が中退すると大学の収入が減るため、適正な判断がなされない可能性もある。そうしたことのないよう、支援を打ち切られた学生の数や理由の公表を、大学に義務づけることになっている。

（多様な企業から講師を招いた授業を実施、正課として学外でのインターンシップや実習を実施など）、シラバスの作成や評価の客観的指標を設定し、適正な成績管理を実施・公表していることなどが挙げられている。ただし、経営に問題があつて経営指導の対象となり、かつ学生数が継続的に定員の8割を切っている大学は、対象としないことにした。

法案が成立すれば、19年初頭に支援措置の対象となる大学の要件について具体的な内容を公表し、夏前に大学の申請受け付けを開始する。高校3年生の進路決定に配慮して、夏のうちに対象大学を公表する予定だ。

* 1 Grade Point Averageの略。履修科目の評点に単位数を加味して算出する成績評価値。個々の学生の到達水準を測る目安に用いることができる。

2018年12月号へのご意見

多様な価値観との出会いの機会を創出したい

本校でも、卒業生のお話を聞く機会を多く設けている。大学生から受験勉強の仕方や大学選びの方法を学ばせたり、各分野で活躍している卒業生の刺激的な話を聞かせたりと、ロールモデルとすることが多い。そのため、12月号の特集の座談会で学生が言った「ロールモデルを見せることも大事だが、価値観を揺さぶられるような生き方にも触れられると、自分の価値観を見直すきっかけになる」「悩みながら回り道をしてきた人たちの話は、自分の進路を考える上で影響を与えた」などの言葉が印象に残った。

東京都立北園高校 鈴木公美

面談力を高めることが求められる

12月号の特集の座談会を読み、学生の意見が参考になった。本校でも卒業生を招いた講演会やパネルディスカッションを行っている。その際、生徒たちは、難関大学を卒業して輝かしい肩書きを持ち、社会で活躍する卒業生の話以上に、様々なことを経験しつつも、自分が面白いと感じたことにとことんのめり込み、自分の仕事

として形づくっている卒業生の話に魅力を感じ、関心を持つようだ。生徒を学びに導く道の一つとして、挑戦することの素晴らしさを、生徒の心に響く言葉にして伝えることができるよう、教師の面談力を高めることも課題だと考えている。

富山県 匿名希望

生徒との授業の関係について考えさせられた

12月号の「教師を育てた言葉たち」で、「阻害要因は内に求めよ」とはどういうことか最初は戸惑ったが、読み進めると、その真意が見えてきた。とりわけ授業における生徒との関係では、教師が教えすぎることが生徒の理解の阻害要因になっているかもしれないという指摘に、深く考えさせられた。

兵庫県 匿名希望

中退者の減少に教師の強い思いを感じ取った

12月号の「都教委の挑戦」を読み、中途退学者を減少させることはシステムだけでは無理で、先生方の強い思いがあるからこそ実現したのだと感じた。自分も負けられないと思った。

新潟県立村上中等教育学校 清水哲



教育 ちょこっとトーク

テーマ

卒業する生徒にも残った印象に残る一言

- 反抗的な俺にさえ「合わせてくれた」指導をありがとう。新潟県
- あの時、怒ってくれてありがとうございます！うれしかったです！静岡県

- 先生の言葉を机の前に貼って、めげそうな時に読んでいます。東京都
- 先生みたいな教師を目指します！兵庫県

『VIEW21』高校版 公式アカウント

LINE@

友だち募集中！

『VIEW21』高校版や教育に関連する最新情報をタイムリーにお届けします。お友だちの登録方法は、下の2次元バーコードを読み取っていただくか、LINEアプリの「友だち追加」>「ID検索」で「@view21」とご入力いただき、追加をお願いいたします。

ぜひ、お友だち登録をお願いいたします！
アカウント名：@view21



編集後記

『VIEW21』の記事の大半は、学校や先生への取材を基に制作されています。スムーズに進む取材がほとんどですが、時には予想だにしないハプニングが……。今号の「これからの会議・研修のあり方、つくり方」の取材では、記事を書くライターが取材に来れないという事態が発生しました（私は無事に学校に到着）。そこで採った策が、スマートフォンのテレビ会議アプリを使った遠隔取材です。通信も途切れず、取材は無事に完了。改めて情報通信技術の進化を実感するとともに、新たな取材スタイルの可能性を見ました。……でも、やっぱり、私は対面での取材が好きです。画面に向かって一生懸命話してくださった先生方、生徒の皆さん、ありがとうございました！（柏木）



VIEW21 高校版 2019 4 月号

次号は 4月15日発行 (予定)

『VIEW21』高校版は年6回の発行です

教師を育てた 言葉たち

No. 012

兵庫県立加古川南高校

上田慎志先生

うえだ・しんじ

◎教職歴14年。同校に赴任して4年目。2学年副主任。英語科担当。

兵庫県立加古川南高校 全日制／総合学科／1学年約240人／2018年度入試合格実績（現役のみ）：国公立大は、兵庫教育大、徳島大、都留文科大、山口県立大に4人が合格。私立大は、同志社大、近畿大、関西学院大、甲南大などに延べ193人が合格。



教 師になったばかりの私は、生徒と信頼関係を築けずに悩んでいました。今考えるとその原因は明白で、「教師は立派でなければいけない」「生徒の手本であるべきだ」と思い込み、生徒に一方向的に厳しく接していたことにありました。そんなある日、A先生が集会で自身の受験の失敗談を話し、生徒の共感を集めていました。A先生にそのねらいを聞くと、「**教師は神様ではない**。生徒と同じ目線で語らない」と言われました。その言葉に、自分に足りない点を指摘された気がしましたが、当時の私は自分の弱さを見せる勇気が持てませんでした。

6年目に初めて担任を持つと、悩みは一層深まりました。依然として生徒との関係づくりが苦手で、学級がまとまりませんでした。思い悩む中で思い出したのが、A先生の言葉でした。教師である以前に、自分は不完全な1人の人間である。それから目をそらして厳しく指導するだけでは、生徒はついてこない。そう気づき、生徒の目線で話を聞き、対話することで、関係性をつくり直そうと努めました。

効果は徐々に表れました。指導するんだという気負いがなくなって接すると、生徒は驚くほど本音で話してくれるようになりました。A先生のように時には失敗談を話すと、親近感を持ってくれる生徒が増えました。生徒との距離は少しずつ近づき、「あの先生は話をちゃんと聞いてくれる」と、生徒からの評判が聞こえてくるようになりました。

生 徒に素の自分を見せるという考え方は、教科指導も大きく変えました。私は、英語科教師

ですが、流暢に英語を話せないからと、文法や訳読を中心とした指導をしていました。生徒の前で失敗し、恥をかくのを避けるためです。

2年前、この問題に決着をつけようと、生徒に「私は、英語教師でありながら英語を流暢に話せない。それでも一生懸命に話すから、君たちも一緒に学んでほしい」と、思い切って伝えたのです。生徒からの信頼を失うのではないかと、内心は恐ろしくてしかたありませんでした。しかし、大勢の生徒が、私の話を真剣に聞いてくれました。

気持ちが吹っ切れた私は、生徒に英語で語りかけ、コミュニケーション活動を積極的に行うようにしました。次第に生徒も大きな声で英語を話し、授業後には集まって振り返りをする姿が見られるようになりました。質問に来る生徒も増え、以前より頼られていると感じるようにもなりました。

今も流暢とは言い難いですが、ほぼオールイングリッシュで授業を進めていると胸を張って言えるほど、私の英語力は伸びました。「失敗を恐れていては、成長もない」—— そのことが、私の姿を通して生徒に伝わるよう、努力しています。

こ れからの時代に生徒が大きく羽ばたくために欠かせないのが、自ら考え、行動する力です。その出発点は、自分の弱さを自覚し、目標を持って挑戦することだと思います。決して簡単なことではありませんが、これからも私自身が挑戦し続ける姿を見せて、生徒が一步を踏み出す勇気につながれば、教師としてこれ以上の喜びはありません。

Classi

学びの形を 進化させるClassi

Classiは日本最大級の
学校向けプラットフォームです。

3校に1校が導入

Classi有料導入校・生徒ユーザー数
(高校・中高一貫校)

2,100校以上

80万人



※2017年12月時点

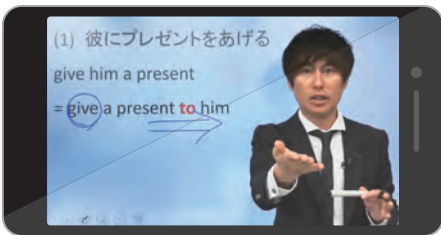


2019年 春リリース

より深く、幅広いご指導を支援します

Classi 学習動画がリニューアル

“生徒の「わからない」気持ち”に、今までよりも応えられる
よう、講師・授業の構成・演出を見直しています。



プロモーション
ムービー公開中



有名予備校での
実績ある講師陣

「目標」と「ゴール」が
明確な授業構成

授業の「ポイント」が
一目でわかる演出

Classi 連携サービスが拡大

ClassiのIDでさまざまな教育プログラムをご利用できる
連携サービスに、探究学習やセキュリティ教育、
いじめ対策などが新たに加わります。



▶Classi メールマガジンをスタート!

Classi では、サービスに関する情報提供
をおこなうメールマガジンを発行しており
ます(不定期配信)。下記 URL よりぜひご
登録ください。



URL <https://enquete.cc/q/pamphlet>

サービスに関する
お問い合わせは
こちらから

Classi サポートデスク

[Classi]に関するお問い合わせを承ります。

TEL **0120-755640** 通話料無料

受付時間/月~金 8:00~19:00 土 8:00~17:00 祝日、年末・年始を除く

Classi コーポレートサイト

サービスに関する最新情報を
掲載しております。

URL <http://classi.jp>

VIEW21

ビュー21 高校版 Volume6 2019年2月号
2019年2月15日発行/通巻第374号 発行人 山崎昌樹 編集人 春名啓紀 発行所 (株)ベネッセコーポレーション ベネッセ教育総合研究所
VIEW21編集部 〒163-0415 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビルディング
©Benesse Corporation 2019

お客様
サービスセンター

[フリーダイヤル] **0120-350455**

受付時間 月~金 8:00~19:00/土 8:00~17:00 (祝日、年末・年始を除く)

株式会社ベネッセコーポレーション岡山本社 〒700-8686 岡山市北区南方3-7-17

8KVOL6

Benesse